

専門分野

「基礎看護学」、「地域・在宅看護論」、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」、「看護の統合と実践」の8領域で構成する。これらの看護学は一方向性の順序性をもって学ぶのではなく、双方向性に往来しながらの学習も視野に入れることから、専門分野の区分とした。

基礎看護学

■構築の考え方

基礎看護学では、各看護学の基礎となる、看護学に共通する看護の概念や機能と役割、看護実践の基盤となる基本的な看護技術を学ぶ内容とした。また、臨床判断能力や対象への倫理的配慮のもと、安全に看護技術が提供できるよう、基礎的能力を養う為の演習を強化する。

看護の対象は、年齢、性別、疾病の有無や種類、地域・国籍、思想等にかかわらず、あらゆる健康レベル及び成長発達段階にある人々である。その人たちの、不変ではなく変化していく、多様なニーズ、価値観、信念等を理解する為に必要なコミュニケーション能力を修得し、それが倫理的な看護実践につながることをめざす。そして、その人らしく自立・自律した生活を営めるように援助するため、対象のニーズや価値観に基づく自己決定を支援することが求められ、そのために必要な看護の展開方法の基礎を学ぶ内容とした。看護実践では、事例やシミュレーションを用いて、フィジカルアセスメント、臨床判断能力等の基礎的能力を養い、あらゆる対象に共通した、安全・安楽・自立を意識した基礎看護技術の提供ができることを目指す。基礎看護技術の修得においては、講義、演習、臨地実習が系統的に機能できるよう、臨地での看護実践に即した事例設定を行う。事例を基に技術演習を行う学習過程を通して、問題解決能力、自己教育力が養われることを目指す。また、基礎看護技術評価では、基本動作をルーブリック評価、統合部分はパフォーマンス評価を用いる。知識重視ではなく、技術中心の修得を目指し、あらゆる対象に応じた看護実践を創造するための基盤とする。

以上のことを学ぶために、「基礎看護学概論」、対象の日常生活の営みの支援に必要な基礎看護技術は「生活支援技術Ⅰ～Ⅳ」とし、診療の補助技術等は「診療の補助技術」「臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ」とした。次に、研究的視点で自身の看護実践を省察できるよう、「看護研究論」「看護研究演習」とし、基礎看護学を構成した。

科目区分	専門分野	授業科目	基礎看護学概論
講師名	山中真弓、橋本一枝、藤井光輝	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 1 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥他職種との連携 ⑦看護の歴史 の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。		
目的：看護とは何かについて学ぶ 目標：1. 看護の概念、看護の役割と機能について理解する 2. 看護の対象を理解する 3. 健康の定義、健康政策に基づく健康増進へのかかわりを理解する 4. 看護の歴史から看護の成立と発展を学び、今後の課題について理解する 5. 看護サービス提供の場及び仕組みを理解する 6. 看護に対する関心を高める			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	看護を定義する構成要素を理解する— 「環境」とは 「人間」とは	講義	
2	看護を定義する構成要素を理解する— 「健康」とは 「生活」とは	講義	
3	看護ケアとは— 看護の感性、看護の質保証	講義	
4	保健統計からみる健康や看護	講義、グループワーク	
5	看護理論家の考え— ナイチンゲール	講義	
6	看護理論家の考え— ヘンダーソン	講義	
7	看護の歴史	3 校合同講義	
8	看護における倫理	3 校合同講義	
9	看護者の倫理綱領について理解する	講義	
10	法律に基づいた看護実践—保健師助産師看護師法の概要	3 校合同講義	
11	看護サービスの提供の場と仕組み	講義	
12	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する	講義	
13	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	グループワーク-各校	
14	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	3 校合同討議	
15(45 分)	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	3 校合同討議	
16(45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（90 点）課題レポート（10 点） 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 現代社：フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 日本看護協会出版社：ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの		
参考図書	サイオ出版：実践に生かす看護理論など看護理論に関する書籍 一般財団法人 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生 の指標		
備考	科目関連:13 回～15 回の内容は、生活援助技術で学んだ内容と関連あり		

科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 (看護過程の基礎)
講師名	前田 こずえ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。 ゴードンの機能的パターンを用いて対象者の多様な情報(生活者としての側面、生物学的に共通する側面から)収集し看護の視点から統合して対象者の望み(意志)を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		
<p>目的: 対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する</p> <p>目標: 1. 看護過程の構成要素について説明できる 2. 看護上の問題を明確にする過程が説明できる 3. 個別性のある看護計画の立案方法が説明できる 4. 看護過程の評価の視点が説明できる 5. 看護記録について説明できる</p>			
回	授業内容		
1	1. 看護過程とは 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素		
2	2. 看護過程の展開 1) 情報収集 (1) 情報の種類、情報源、情報収集の方法 2) アセスメントの枠組みと視点 3) 情報の整理・解釈・分析		
3	2. 看護過程の展開 4) 事例を用いたアセスメントの実際 大腿骨頸部骨折術前、左介達牽引中の患者<70代女性・急性期> (1) 情報収集 (2) 情報の捉え方、振り分け (3) 情報の解釈・分析		
4			
5			
6			
7	3. 関連図とは 1) 関連図の必要性 2) 関連図の作成の方法 3) 情報・問題の統合 4) 事例を用いた関連図の作成		
8	4. 問題の明確化 1) 看護問題の種類 2) 看護診断		
9	4. 問題の明確化 3) 共同問題 4) 事例の看護問題の明確化		
10	5. 看護上の問題の優先度 1) 優先度の決定 2) 問題リスト 3) 事例の看護問題と優先度		
11	6. 計画立案とは 1) 目標(期待される結果) 2) 計画 (1) 観察計画 (2) ケア計画 (3) 教育計画 3) 事例の看護計画		
12	7. 実施・評価 1) 実施 (1) 仮説の検証・準備性 (2) 看護計画と毎日の看護計画の関係		

13	2) 評価 (1) 目標達成の判定 (2) 看護問題、看護計画の追加・修正 (3) 事例の記録の実際
14 15 (45分)	8. 看護記録 1) 看護記録の意義と目的 2) 看護記録の法的位置づけ 3) 看護記録の構成 (1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー 4) 看護記録の種類 (1) SOAP法 (2) フォーカスチャーターティング 5) 看護記録及び診療情報の取り扱い
16	終了試験 45分
授業方法	講義、グループワーク
評価方法	筆記試験 30点、課題レポート 70点 評価基準参照
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院：NANDA-I看護診断定義と分類 <参考図書> ヌーベルヒロカワ：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社：疾患別看護過程の展開
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、事例に関連した「疾病と治療」及び「成人援助論」

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術 I (コミュニケーション、環境調整、感染防止、活動・休息)
講師名	岡本 諭	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	1 年次 第 1 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護の基本的な技術を学びます。技術の修得には、知識の定着とともに反復練習が必要になります。自己学習時間を活用した練習を期待しています。		
<p>目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する</p> <p>目標：1. 看護技術の概念について知る 2. 看護の対象に対する、安全と安楽を確保する技術が実施できる 3. 看護技術を行う基礎となるコミュニケーション方法を学ぶ 4. 環境調整の意義が説明できる 5. 環境調整の援助技術が実施できる 6. 活動・休息・睡眠の意義が説明できる 7. 活動の援助技術が実施できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 技術の概念 (安全、安楽、自立) <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術を適切に実践するための要素 2. 看護技術の提供と倫理的配慮 3. コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの基本原理と構成要素 3) コミュニケーションの種類 <ul style="list-style-type: none"> (1) 言語的コミュニケーション (2) 非言語的コミュニケーション 4) 関係構築のためのコミュニケーション 5) 効果的なコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> (1) 傾聴 (2) 情報収集 (3) 説明・指導 5) コミュニケーションに必要な能力・態度	講義	
2・3	4. 感染予防の技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 感染防止の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染成立の条件、院内感染の防止 (2) 感染拡大防止の対応 2) スタンダードプリコーション <ul style="list-style-type: none"> (1) 手指衛生 (2) 個人防護用具 (3) 患者ケアに使用した器具 (4) 環境対策 (5) リネン (6) 鋭利なものの取り扱い (7) 救急時の対応 (8) 患者配置 (9) 呼吸器衛生/咳エチケット 3) 感染経路別予防策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 接触・飛沫・空気予防策 4) 感染性廃棄物の取り扱い感染とその予防の基礎知識 	講義	
4	標準予防策 (スタンダードプリコーション) の実際 <演習> ・手指衛生 ・個人防護用具の着脱	演習	
5	5. 環境調整技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間と環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病室・病床の選択 (2) 温度・湿度 (3) 光と音 (4) 色彩 (5) 空気の清浄化とにおい (6) 人的環境 6. 療養環境について考える—快適な環境とは— <ul style="list-style-type: none"> 1) ベッド周囲の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境整備の目的 (2) 環境整備に必要な物品、環境整備の方法 2) 療養環境の環境測定 	講義	

6	7. 活動援助技術 1) 基本的活動の基礎知識 (1) よい姿勢 (2) 日常生活動作 (3) ボディメカニクス 2) 体位・保持 (1) 基本体位 (2) 特殊体位 3) 体位変換 援助の基礎知識、援助の実際	講義
7	8. 病床を整えるための知識 1) マットレス・枕・リネンの条件 2) ベッドメイキング 9. 環境調整技術 1) 病床環境を整える技術 2) 病床を整える技術 (1) ベッドメイキング (2) リネン交換、リネンの取り扱い・方法	講義
8	一人でのベッドメイキング	演習
9	一人でのベッドメイキング	演習
10・11	臥床患者のリネン交換 左右への体位変換・安楽物品を用いた体位保持を含む	演習
12 (45分)	臥床患者のリネン交換 <技術試験> ・ 臥床患者のリネン交換 ・ 仰臥位から左右側臥位への体位変換 ・ 安楽物品を用いた安楽な体位の調整 ・ 快適な療養環境整備 ・ 安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防)	技術試験
13	10. 活動援助技術 1) 移動 2) 移乗・移送 (1) 車椅子を用いる場合 (2) ストレッチャーを用いる場合	講義
14・15	車椅子移乗・移送 <技術習得度確認> ストレッチャーへの移乗、ストレッチャー移送 <演習>	技術習得度確認 演習
16 (45分)	終了試験	
評価方法	技術試験 (50%) 筆記試験 (50%) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 参考図書 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考	既習関連科目：人間関係論、微生物学講義、基礎看護学概論	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)
講師名	道中 俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		
<p>目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得する。</p> <p>目標：1. 主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出すことができる。</p> <p>2. 看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得できる。</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. フィジカルアセスメントの意義 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2) 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	
2	2. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診 5) 全体の概観	講義	
3	3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識 6) 計測の技術 7) 生理的変動因子	講義	
4	4. 血圧測定 1) 測定する環境と体位 2) マンシェットの巻き方・聴診器のあて方 3) 加圧と減圧・目盛の見方	演習	
5	5. 臥床患者のバイタルサイン測定 1) 測定前・中・後環境の調整 2) 測定方法 (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧	演習	
6	6. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状と他覚症状・徴候 (2) 胸郭の動き (3) 呼吸音の聴取 (4) 胸部の打診	講義	
7	7. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 他覚症状の視診 (3) 頸静脈の視診と頸静脈圧の測定 (4) 胸部の打診 (5) 触診 (6) 心音の聴診	講義	
8	8. 腹部のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 他覚症状の視診 (3) 腸蠕動音、血管雑音の聴診 (4) 打診 (5) 触診	講義	

9	9. 胸部（呼吸器系・循環器系）・腹部のフィジカルアセスメント 1) 胸部の視診・触診 2) 呼吸音聴取 3) 心音聴取 4) 腸蠕動音の聴取	演習
10	10. 臥床患者のバイタルサイン測定	技術習得度確認
11	11. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 関節可動域の観察 (3) 徒手筋力テスト (MMT)	講義
12	12. 脳・神経系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 運動機能の評価 (3) 感覚機能の評価 【演習】筋・骨格系、脳神経のフィジカルアセスメント 意識レベルの評価、関節可動域訓練、徒手筋力テスト	講義
13	13. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 1) 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
14	14. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 1) 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
15 (45分)	看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント ・問診 ・バイタルサイン測定（体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定）、SpO ₂ 測定 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント（呼吸音聴取） ・得た情報の統合、報告	技術試験
16 (45分)	終了試験	
評価方法	技術試験（50％）筆記試験（50％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ <参考図書> 医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント メディックメディア：看護が見える フィジカルアセスメント	
備考	既習関連科目：人体形態機能学 生活援助技術Ⅰ	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅲ (清潔)
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護師は、疾病・障害などなんらかの理由によって普段どおりの清潔行為や衣生活の維持が困難になった患者に、その人に適した方法を考え清潔の援助を行います。病態を考慮し、その人に即した方法を考えられるようになるために、援助の基本を学びましょう。		
<p>目的：日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し、病気に罹患し療養している対象への清潔の援助方法についての知識・技術・態度を習得する</p> <p>目標：1. 日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解できる</p> <p>2. 皮膚粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、対象の身体を清潔にする方法の原理原則に関する知識を習得することができる</p> <p>3. 病気で療養している対象の身体の清潔並びに衣服の着脱の援助方法の技術と態度を習得できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 清潔・衣生活の意義 皮膚の構造と機能	講義	
2	2. 清潔援助の方法と選択 1) 身体への影響 2) 手浴・足浴・入浴介助・シャワー浴介助	講義	
3・4	3) 手浴・足浴 ・ベッド上仰臥位の患者への手浴・足浴 ・端坐位保持が可能な患者への手浴・足浴	演習	
5	4) 身体各部分の清潔 ・整容(洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り) ・口腔ケア(歯磨き・義歯のケア) ・洗髪(ドライシャンプー・ベッド上・洗髪車・洗髪台) ・入浴介助、シャワー浴介助(モデル人形を用いた演習)	講義	
6・7	4) 身体各部分の清潔 ・口腔ケア、整容・髭剃り・爪切り ・洗髪(ベッド上、洗髪台もしくは洗髪車を使用)	演習	
8	5) 全身の保清 ・寝衣交換(点滴ドレーン等留置のある患者の寝衣交換方法含む) ・全身清拭・陰部の保清(陰部洗浄)・おむつ交換	講義	
9	・点滴・ドレーン等の留置の無い患者の寝衣交換・全身清拭	演習	

10・11	・点滴・ドレーン等の留置の無い患者の寝衣交換・全身清拭	演習
12・13	・陰部の保清・おむつ交換（陰部モデルを使用しての演習）	演習
14	・臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 ・全身清拭、陰部洗浄、おむつ交換、寝衣交換の一連の流れを通して実施	演習
15（45分）	・臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 ・全身清拭、陰部洗浄（排泄なし）、おむつ交換、寝衣交換	技術試験
16（45分）	終了試験	筆記試験
評価方法	技術試験（50％）筆記試験（50％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 【参考図書】 学研：看護技術プラクティス	
備考	生活援助技術Ⅰで学んだ内容と関連あり	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅳ (食事・排泄)
講師名	竹本 知恵子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに誰もが営む日常的な行為です。なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力できなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、アセスメントの視点と援助の実際を学びましょう。		
目的：食事、排泄の意義について理解し対象への援助方法を習得する 目標：1. 食生活及び排泄への援助の意義を理解できる 2. 食事の援助技術を習得できる 3. 排泄の援助技術を習得できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ①栄養状態 ②摂食・嚥下能力 ③摂食行動	講義	
2	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2) 食事摂取の介助 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際(嚥下障害のない患者)	講義	
3	食事介助(嚥下障害のない患者)の方法(環境調整・セッティングを含む)	演習	
4	3) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養法 経管栄養法(モデルを用いた経鼻カテーテル挿入・経管栄養注入・経鼻カテーテル管理)	講義	
5・6	経管栄養法 ・モデルを用いた経鼻カテーテル挿入 ・経鼻カテーテルの固定 ・経管栄養注入(胃泡音の確認)	演習	
7(45分)	経管栄養注入習熟度確認	習得度確認	
8	2. 排泄援助技術 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排泄の意義 (2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (3) 患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント	講義	
9	2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助 (4) 陰部の清潔(陰部洗浄)	講義	
10	ポータブルトイレへの移乗 尿器・便器を用いた排泄援助	演習	
11	3) 導尿 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿	講義	
12・13	一時的導尿	演習	

	持続的導尿	
14	4) 排便を促す援助 (1) 排便を促す援助の基礎知識 (2) 浣腸（グリセリン浣腸） (3) 摘便	講義
15	浣腸、摘便	演習
16 (45分)	終了試験	
評価方法	筆記試験（100%） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ講義 演習	

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師名	竹本 知恵子	実務経験	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおいてください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に行う思いで技術の習得を行っていきましょう。		
<p>目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する</p> <p>目標：1. 薬物療法の意義・目的が理解できる 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法が習得できる 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法の基礎的知識 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の種類 3) 薬剤の吸収・排泄のメカニズム (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 4) 薬理作用とその影響因子 (1) 主作用・副作用 (2) 薬理作用に影響を及ぼす要因	講義	
2	3. 薬物療法における看護の役割 1) 薬物療法における看護師と多職種との関連 2) 薬物療法における看護師の役割 4. 薬物療法における安全確保の技術 1) 誤薬防止の基礎知識と実際 2) 医療廃棄物の取り扱い 3) 薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬）	講義	
3	4. 薬物療法における安全確保の技術 4) 抗がん剤の人体への影響とその効果 5) 抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について 6) 化学療法投与時の看護と有害反応への対処 (1) 血管外漏出の予防と対処 (2) 過敏症の早期発見と対応 (3) 有害反応へのセルフケア支援	講義	
4	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口的与薬法（固形剤、粉末剤、液状剤） 2) 口腔内与薬法（舌下錠、バツカル錠、トローチ）	講義	
5	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 3) 直腸内与薬法（全身作用、局所作用） 4) 点鼻・点耳・点眼法・経皮的与薬法	講義	
6	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 5) 注射法 注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 (1) 注射の準備 (2) 注射の方法 ①皮下・皮内注射 ②筋肉内注射	講義	
7・8	注射法（注射訓練モデルを用いた演習） <演習> ・皮下注射	演習	

	・筋肉内注射	
9	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 5) 注射法 (2) 注射の方法 ③静脈内注射 ④点滴静脈内注射 ⑤中心静脈カテーテル法	講義
10	点滴静脈内注射の基礎 点滴静脈内注射の手順と留意点	講義
11・12・13	点滴静脈内注射 <演習> ・薬剤の準備（アンプルからの吸い上げ、溶解薬剤のバイアルからの吸い上げ） ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理	演習
14	6. 輸血療法時の看護 1) 輸血とは 2) 輸血療法の適応 3) 血液型と交差適合試験 4) 輸血による副作用 5) 輸血時の観察と看護 6) 血液製剤の保管と管理	講義
15 (45分)	まとめ	講義
16 (45分)	終了試験	
評価方法	筆記試験 (100点) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ	
参考図書	臨床看護技術パーフェクトナビ 学研：看護技術プラクティス	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学（総論）、生活援助技術Ⅰ～Ⅳ	

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅰ（主要症状に必要な治療・処置を含む）
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	<p>症状の起こるメカニズムを振り返りながら症状に対する看護を話しあっています。 基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項を学び、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。</p>		
<p>目的：健康障害を持つ対象を理解し、対象のおかれている状態に応じた看護の役割と援助の方法について基礎的な能力を養う。</p> <p>目標：1. 主要症状別看護に必要な解剖生理学や病理学で学んだ知識を統合し、根拠を踏まえ看護を理解する。 2. 主要症状が身体的側面だけでなく、精神・社会的側面に影響があることを理解する。</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	<p>1. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 発熱・低体温などの体温調整機能に関する症状を示す対象の看護</p>	講義	
2	<p>2) 痛み症状を示す対象の看護</p> <p>痛みのメカニズム、痛みのアセスメント、痛みのある患者の援助</p>	講義	
3	<p>3) 不眠症状を示す対象の看護</p> <p>睡眠のメカニズム、睡眠障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 身体ケアを通じてもたらされる安楽：体位保持（ポジショニング）、リラクゼーション法</p>	講義	
4	<p>安楽に関連する症状（体温調節・疼痛）への援助</p> <p>罨法の技術（冷罨法・温罨法）</p>	演習	
5	<p>2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>循環障害に関連する症状のメカニズム 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 血液循環を促進する援助・末梢循環促進ケア、心臓の負荷を軽減する援助</p>	講義	
6	<p>3. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（排痰ケア、吸入）</p>	講義	
7	<p>呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（酸素療法）</p>	講義	
8	<p>酸素療法を受ける患者の看護</p> <p>中央配管方式による方法と酸素ボンベによる方法 酸素投与器具とその特徴（鼻カニューレ、簡易酸素マスク、ベンチュリーマスク、リザーバーバック付き高濃度酸素マスク）</p>	演習	

9・10	呼吸に関連する症状への援助（排痰ケア） 体位ドレナージ 咳嗽介助（徒手の咳嗽介助）・ハフティング 吸入加湿法（ネブライザー）	演習
11	口腔・鼻腔内吸引法	講義
12・13	口腔・鼻腔内吸引法	演習
14	気管内吸引法	講義・演習
15（45分）	口腔・鼻腔内吸引	技術試験
16（45分）	終了試験	筆記試験
評価方法	技術試験（20％）筆記試験（80％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅱ（治療・処置別）
講師名	岡本 諭(28) 齋藤 謙司(2)	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	診療の補助では診療に関わる看護技術を学ぶが、受け身で身に付くものではなく、主体的に技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習してこそ身に付きます。基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項を学び、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。		
目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する			
目標：1. 検査・治療の意義および看護師の役割が理解できる 2. 検査・治療実施時の介助方法および検体の採取方法が習得できる 3. 創傷を管理する技術としての包帯法などの保護方法を理解し実践できる			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 1) 創傷治癒過程 2) 創傷処置・ドレーン管理	講義	
2	創傷処置・創傷ケア ・滅菌物の取り扱いの実際 ・創洗浄と創保護 ・ガーゼ、フィルム材の交換（テープ・フィルム材のはがし方）	演習	
3	3) 包帯の種類と巻き方	講義	
4	包帯法の実施 ・巻軸帯：伸縮包帯・弾力包帯・弾性包帯 ・布はく帯：三角巾・腹帯	演習	
5・6	2. 診察・検査を受ける対象者の看護 1) 身体侵襲を伴う検査・処置を受ける対象者への看護 2) 滅菌物の取り扱いと無菌操作法 3) 様々な検体検査と検体の取り扱い 4) 個人防護具の扱いと感染性廃棄物の扱い	講義	
7	5) 静脈血採血法	講義	
8・9	静脈血採血の技術（モデル人形を用いた採血）	演習	
10	3. 放射線療法を受ける患者の看護 1) 放射線の人体への影響とその効果 2) 放射線照射時の支援と有害反応への対応	演習	
11	4. リハビリテーションを受ける患者の看護 1) リハビリテーションの目的と多職種連携 2) リハビリテーション時の支援 3) 自動運動と他動運動 4) ベッドサイドでできる関節可動域訓練 <演習> 徒手筋力テスト（MMT） ベッドサイドでできる運動訓練	講義・演習	
12	5. 手術療法を受ける患者の看護 1) 術前の看護 術前の身体評価・術前オリエンテーション 2) 術中の看護 手術室看護師の役割、手術体位とその介助	講義	
13	3) 術後の看護 術後合併症の予防と対応、術後疼痛管理、早期離床の援助 4) 集中治療を受ける患者の看護	講義	

14	医療機器の操作と管理（輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・DC・人工呼吸器）	演習
15	終了試験（45分）まとめ（45分）	
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研：臨床看護技術パーフェクトナビ 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究論
講師名	藤井 光輝	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護における研究の意義や楽しさを学生の皆さんに伝えたいと思います。また、多くの研究報告がなされていますが、その研究を読む力を身につけ、自らの看護実践に活かしていけるような力も養いたいと思っています。		
目的：看護を行うにあたり研究的な視点で科学的、理論的におこなっていくことの必要性を理解する			
目標：1. 看護研究の目的と意義が理解できる 2. 看護研究の基礎が理解できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1. 看護研究とは 1) 看護研究の意味 2) 研究に必要な基礎的知識 3) 研究方法の種類	講義	
2	2. 看護研究の種類と方法 1) 研究の領域を大別した研究方法 2) 導き出し方の違いによる研究方法 3) データの性質の違いによる研究方法 4) データ収集方法の違いによる研究方法 5) 研究手法からみた研究方法	講義	
3	3. 様々な研究手法と実際 1) 量的研究 (1) 記述統計と推測統計 (2) 仮説、独立変数と従属変数	講義	
4	2) 質的研究 (1) 質的研究で明らかにできること (2) 質的研究の主な手法 カテゴリズとネーミング 3) ケーススタディ 4) その他の研究手法	講義	
5	4. 文献とは何か 1) 文献検索の実際 (一次文献、二次文献) 2) 自分の興味のある内容を検索してみよう 5. 研究のプロセス 1) インターネットを利用した文献検索と活用	講義 文献検索演習	
6~7	5. 研究のプロセス 2) テーマの設定と計画書の作成 3) 研究における倫理的配慮 4) データの収集と分析 5) 結果の表現方法	講義	
8	6. 研究成果の発表 1) 発表の場 2) 発表の仕方、効果的な発表 (プレゼンテーション)	講義	
9	7. 論文を読んでみよう 過去の研究論文を読み、論文の読み方を知り、看護における研究成果を知る	講義 グループワーク	
10	8. 看護理論とは 1) 理論の構成要素 (前提、概念、命題) 2) 理論の種類 (広範囲理論・小範囲理論・中範囲理論) 3) 看護理論の変遷：看護理論の背景・意義	講義	
11	9. 主な看護理論の構成概念とその活用 (グループワーク) 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3) ウィーデンバック 4) オレム 5) ペプロウ 6) トラベルビー 7) ロジャーズ 8) ワトソン グループワーク 11・12 回：看護の主要概念、理論の形成された過程 (背景)、 事例への活用について調べ学習 13 回 : 発表	グループワーク 発表会	
12			
13			
14	10. 中範囲理論の看護実践への活用 ・ 病気、障害、人生の体験を説明する理論 ・ 危機、ストレス、不確かさなどに関する理論 ・ 行動変容、行動強化に関する理論	講義 グループワーク	
15 (45 分)			
16 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (80 点)、文献検索・文献検討の課題レポート (20 点)	評価基準参照	
テキスト	照林社：ひとりで学べる看護研究 照林社：わかりやすいケーススタディの進め方 サイオ出版：実践に生かす看護理論 19 学研：看護診断のためのよくわかる中範囲理論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究演習
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護研究は看護の質の向上や新たな看護を創造するために取り組んでいきます。 まずはその基礎を勉強していきましょう。		
目的：事例研究を通して、実践した看護を振り返る。			
目標：1. 実習で受け持った患者1例をケーススタディとしてまとめる。 2. まとめたケースを発表できる。			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 研究課題の明確化 1) ケーススタディの意義・目的 2) 研究課題の決定 3) 研究テーマと方法の決定	講義	
2	2. 研究計画書の作成 1) 研究テーマと研究動機	講義	
3	2. 研究計画書の作成 2) 研究目的と研究の意義 3) 倫理的配慮 4) タイムスケジュールと指導計画	講義	
4	3. 事例研究論文の作成 1) 研究目的の記述	講義・演習	
5	3. 事例研究論文の作成 2) 事例および結果の記述	講義・演習	
6・7	3. 事例研究論文の作成 3) 考察の記述	講義・演習	
8	3. 事例研究論文の作成 4) 結論の記述	講師・演習	
9	3. 事例研究論文の作成 5) 引用・参考文献の記述	講義・演習	
10	4. 発表及び発表会の運営 1) 抄録の作成	講義・演習	
11	4. 発表及び発表会の運営 2) 発表資料の作成(プレゼンテーション)	講義・演習	
12	4. 発表及び発表会の運営 3) 発表者及び聴講者のあり方 4) 発表会の運営	演習	
13・14・15	5. 口頭発表会 1) ケーススタディの発表 2) 質疑応答の実施、講評の実施 3) 発表会運営の実施	演習	
評価方法	論文作成から発表までを評価表を用いて100点満点評価 評価基準参照		
テキスト	照林社：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 <参考図書> 照林社：ひとりで学べる看護研究 サイオ出版：実践に活かす看護理論 19 学研：看護診断のためのよくわかる中範囲理論		
備考	2年次の看護研究論と関連あり		

地域・在宅看護論

■構築の考え方

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ内容とし、「地域で暮らす」をキーワードとする。対象とその家族の療養の場の拡大を踏まえ、そこで暮らす人の多様な価値観を理解し、それを支える多職種と協働していく中での看護の役割について学ぶ内容とした。

1年次に、住み慣れた地域で暮らす人々とその家族、地域で暮らす人はどんな方々なのか把握する「地域と暮らし」を科目立てした。この科目では地域の実情を主体的に調べディスカッションして地域への興味関心を高める内容とした。2年次に「地域で暮らす人々を支える仕組み」では、健康な生活を送るためにどのような生活を支える仕組みがあるのか社会制度も含めた支援内容を理解して、地域における人々の健康維持・増進に関する基礎知識を学ぶ内容とした。地域防災や支える施設である通所リハビリテーションセンターやグループホーム、シルバー人材センター、特別支援学校など生まれてから亡くなるまで社会で支える仕組みを理解する内容とした。

1年次後期から「地域・在宅看護概論」、2年次から「地域・在宅看護援助論Ⅰ」を置き、地域で生活される方が病気や疾患を抱えながらも、その人らしく生きていくために看護職は何を担うべきなのか、健康予防行動の学習展開、対象の入院から退院までの一連を通じた退院支援、自宅での療養と家族、保健・医療・福祉の役割の実際を学ぶ内容とした。具体的には、「地域・在宅看護概論」では、在宅ケアを受ける人と生活環境について学び、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の意義と役割を理解する内容とした。在宅看護の対象者を家族も含めて在宅生活においての制度や支援（権利保障や自己決定権など）を学ぶ内容とした。「地域・在宅看護援助論Ⅰ」「地域・在宅看護援助論Ⅱ」では、病院から暮らしの場でケアを受ける方やその家族への支援が行えるように、日常生活を支える看護技術や在宅療養を支える医療ケアを学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	地域と暮らし
講師名	前田 こずえ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次 第1学期
講義概要 メッセージ	地域でのフィールドワークを通して、人々と触れ合い、暮らしと健康の関連などについて理解を深める授業です。行先や移動方法について主体的に調べ、学ぶ姿勢が必要です。		
目的：住み慣れた地域で暮らす人々とその家族を理解する 目標：1. 住み慣れた地域を知る 2. 地域で暮らす人々の暮らしと健康に対する意識を知る 3. 地域で暮らす人々の暮らしと健康の関連について、ディスカッションを通して理解を深める			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	地域での暮らしを知る：地域の中での暮らしと健康・看護	講義	
2	地域での暮らしを知る：人々の暮らしと地域（統計資料等の活用） フィールドワーク準備	講義 グループワーク	
3	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の実態	フィールドワーク	
4			
5	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の実態	グループワーク	
6	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の関連	発表・ディスカッション (ワールドカフェ方式)	
7			
8(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験40%、レポート課題：30%、グループワークの参加度：20%、受講状況：10% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 <参考図書> 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生		
備考	市や観光協会のホームページなどで地域の暮らしに関する情報を幅広く入手する		

科目区分	専門分野	授業科目	地域で暮らす人を支えるしくみ
講師名	前田 こずえ 荒木 千紘 山本 悠策 (MSW)	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第1 学期
講義概要 メッセージ	本科目は「地域と暮らし」の積み上げ科目であることを意識して学習しましょう。健康な生活を送るためにどのような生活を支えるしくみ (地域包括ケアシステム) があるのか、調べ学習や施設見学、ディスカッションを通して理解を深めましょう。		
<p>目的：地域で暮らす人を支えるしくみを根拠となる法律や制度をふまえて理解する。</p> <p>目標：1. 地域で暮らす人を支えるしくみの概要を知る。 2. 地域で暮らす人を支えるしくみの根拠となる法律や制度について知る。 3. 地域で暮らす人を支えるしくみの課題について考える。</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	地域で暮らす人を支えるしくみについて：授業の進め方の説明	講義	
2	地域で暮らす人を支えるしくみ・社会資源について (地域包括ケアシステム)	グループワーク 調べ学習	
3	地域で暮らす人を支えている施設の実際	施設見学	
4	人々が地域で暮らすことを支えている施設の実際と根拠となる法律・制度 1) 施設見学して学んだ内容を整理する	グループワーク 調べ学習	
5	2) 1)について根拠となる法律や制度を調べる 3) 見学した施設の地域包括ケアシステムにおける位置づけ・役割を考える		
6	地域で暮らす人を支えるしくみの実際と地域の課題		
7		発表 ディスカッション	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験：40%、レポート40%、受講の状況：10%、発表・ディスカッションへの参加・貢献度：10% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 <参考図書> 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生		
備考	既習関連科目：地域と暮らし、地域・在宅看護概論 * 地域連携室職員は、グループワークや発表・ディスカッションの助言者として授業に参加する		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論
講師名	藤井光輝、中本稔、山根優子、 佐々木亜弥、山本悠策	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	「地域と暮らし」で知った地域の実情を踏まえて、実際に地域で働いている専門の講師とともに、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を一緒に考えていきましょう。		
目的：地域で暮らす療養者と家族を総合的に理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を学ぶ			
目標：	1. 地域看護学における在宅看護の位置づけと看護師の役割が理解できる 2. 地域・在宅看護を支える法令や制度を知り、在宅看護におけるケアマネジメントが理解できる 3. 在宅看護を受ける対象者とその家族の特徴、リスクマネジメント、権利保障について理解できる		
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1 (保健師)	地域看護学と在宅看護 地域看護学における在宅看護の位置づけ、地域包括ケアシステムについて	講義	
2	地域・在宅看護の目的と特徴 1. 地域・在宅看護のめざすもの、その人らしい暮らしを支える 2. 地域・在宅看護における看護師の役割	講義	
3	地域・在宅看護の対象者 地域・在宅の療養者の特徴（年齢、疾患、障害、要介護度、在宅療養状態別）	講義	
4	地域・在宅看護の対象者 地域・在宅看護の対象者としての家族	講義	
5	在宅療養の支援 1. 在宅看護の提供方法 外来看護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護、施設看護、通所サービス	講義	
6 (地域連携室)	2. 療養の場の移行 1) 患者・家族の意志決定支援と調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院時における医療機関との連携 4) 入退所時における施設との連携	講義	
7 (MSW)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法	講義	
8 (MSW)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 難病法、医療介護総合確保推進法、医療法、公費負担医療	講義	
9 (訪問看護師)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 訪問看護の制度、訪問看護サービスの提供	講義	
10 (ケアマネジャー)	ケアマネジメントと社会資源の活用 1) ケアマネジメントの概念 2) ケアマネジメントの過程 3) 社会資源の活用とサービスの調整 4) 介護保険と医療保険・障害者総合支援法との関連	講義	
11	ケアマネジメントと社会資源の活用（ケアプラン作成）	演習	
12 (地域連携室)	地域・在宅看護における多職種連携 連携の特徴、医師との連携、地域の社会資源との連携、ネットワークづくり	講義	
13	在宅看護における療養上のリスクマネジメント 転倒・転落、熱中症、窒息、火災防止、誤薬防止、感染防止、災害への対応	講義	
14	地域・在宅看護における権利保障 個人の尊厳、自己決定権、成年後見制度、虐待の防止	講義	
15 (45分)	地域・在宅看護における権利保障 個人情報保護、看護師の守秘義務	講義	
16 (45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（90%）ケアプラン作成課題（10%） 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践		
備考	既習関連科目：地域と暮らし		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論 I (日常生活援助)
講師名	中川 理恵	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
講義概要 メッセージ	病院から暮らしの場へ、生活を重視した在宅ケアが推進されています。日常生活を支える看護技術や在宅療養を支える医療ケアを学びましょう。		
<p>目的：在宅看護を展開するための基本技術や療養生活の継続を継続するための技術を習得する</p> <p>目標：1. 在宅療養者の生活と日常生活の具体的援助方法が考えられる 2. 在宅療養の代表的症状・状態に応じた看護が理解できる 3. 在宅で行われる医療処置の特殊性と具体的支援方法が理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	在宅療養の場 1) 療養の場の環境 2) 療養の場の環境調整	講義	
2	食事の援助 1) 在宅療養での食生活の特徴：脱水予防 2) 胃瘻、経管・経腸栄養 3) 在宅中心静脈栄養法	講義・演習	
3	排泄の援助 1) 在宅での排泄の特徴 2) ストーマ：人工肛門・人工膀胱 3) 尿道カテーテル：留置カテーテル・間欠導尿	講義・演習	
4	移動・移乗の援助 1) 在宅での移動・移乗の特徴 2) 日常生活動作 (ADL)、手段的日常生活動作 (IADL) 3) 廃用症候群のリスク、予防とケア	講義・演習	
5	清潔の援助 1) 介助入浴方法 2) 簡易浴槽での入浴 3) 畳の上での洗髪方法	講義・演習	
6	在宅における治療継続の援助 1) 服薬と日常生活管理 2) 在宅自己注射 3) 疼痛管理 4) 在宅酸素、人工呼吸器 5) 吸引、排痰援助	講義・演習	
7	感染予防の技術 療養者・家族の教育について	講義	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (70%) 演習レポート (30%) 評価基準参照		
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤</p> <p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践</p> <p><参考図書></p> <p>医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生</p> <p>根拠がわかる在宅看護技術：メディカルフレンド社</p>		
備考	既習関連科目：地域・在宅看護概論、生活援助技術		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ (事例展開)
講師名	前田 こずえ(20) 松下 真理(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期～第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	地域・在宅看護論実習Ⅲに行く前に、訪問看護に必要な基本的知識や態度を身につけ、様々な病気を持ちながら地域で暮らしている在宅療養者やその家族に対する看護を具体的事例を通して学ぶ授業です。		
目的：地域で生活しながら療養する人々とその家族を総合的に理解し、在宅看護を展開するための基礎を学ぶ 目標：1. 在宅療養者と家族を総合的に理解するための情報収集の視点が理解できる 2. 在宅療養者と家族の生活上の問題をアセスメントすることができる 3. 在宅療養者と家族の状況に応じた看護が理解できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	在宅看護に必要な基本的態度とマナー (心構え、服装、身だしなみ、挨拶、態度や行動、距離感等)	講義・演習	
2	在宅看護における看護の展開のポイント、介入時期別の特徴 健康な時期、外来受診期、入院時、在宅療養準備期(退院前)、在宅療養移行期、在宅療養安定期、急性増悪期、終末期(グリーフケア含む)、	講義	
3	退院支援・退院調整から在宅療養へ移行する看護(事例：脳卒中)	講義	
4	長期的な支援が必要な在宅療養者の看護(事例：パーキンソン病)	講義	
5	終末期がんの在宅療養者の看護(事例：膵臓がん、腹膜播種、腹水貯留)	講義	
6	独居で認知症のある在宅療養者の看護(事例：前頭側頭型認知症)	講義	
7	在宅看護における基本的情報収集項目と情報の整理(事例：COPD、肺炎)	講義・演習 (グループワーク)	
8	在宅療養者の身体的・精神的・社会的側面の理解(事例：COPD、肺炎)		
9	在宅療養者を支える家族および社会資源の活用(事例：COPD、肺炎)		
10	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント①(事例：COPD、肺炎)		
11	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント②(事例：COPD、肺炎)		
12	生活上の問題に対する看護介入①(事例：COPD、肺炎)		
13	生活上の問題に対する看護介入②(事例：COPD、肺炎)		
14	12、13回目の内容をもとに、訪問場面のロールプレイ(事例：COPD、肺炎)	演習	
15(45分)			
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験(40%)、演習の課題レポートの提出(50%) 演習への参加状況(10%) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践		
備考	第1回、第3～6回は外部講師(訪問看護師)が担当する。 第2回、第7～15回は地域・在宅看護論領域の教員が担当する。		

成人看護学

■構築の考え方

成人看護学では、老年を迎える迄の40～50年間とされている。対象は、青年後期から壮年期、向老期にある人々である。

青年後期は、急激な心身の成熟、親から独立し、職業を選択する時期であり、身体的な不均衡や心理・社会的な不安定が生じ危機をはらむ状態にある。壮年期は、結婚し、夫婦の協力のもとに家庭を築き、信頼と愛情と男女それぞれの役割を遂行する。妊娠・分娩を経て育児を行うなかで、父親役割、母親役割を果たす。結婚・妊娠・分娩・育児を通じて、家庭を築き営んでいくための身体の健康、および家族の人間関係、さらに家族における役割行動の遂行上の心理・社会的問題が、壮年期の重要な健康問題となる。成人期においては、様々な仕事上のストレス等が、健康問題として身体面・精神面・社会面と多大な影響を及ぼすことがある。

向老期は、身体的・精神的衰退の自覚や退職を迎える時期であるが、精神活動を充実させるとともに、これから迎える老年期の自立に向け準備する時期である。

老化の出現により生体機能の衰退をもたらす。老化の進行を抑え、老化からの機能低下に適応し、健康を保持していくことが必要となる。つまり成人期は、職業生活、家庭生活、人間関係も複雑で多様な役割を担い、自立していかなければならないという特徴がある。したがって、成人の健康問題はいかに身体機能の低下を予防し、そこで生じた機能低下に適応し、健康を保持するかということが重要となる。

「成人看護学概論」では、成人期にある対象の特徴や看護の目的を理解し、成人保健、健康段階別の看護について学ぶ内容とした。さらに、健康障害時の看護について、健康障害時の反応と適応過程を器官系統別に学んでいく。

「成人看護援助論Ⅰ～Ⅳ」では、器官系統別の特徴的な疾患主要症状に沿って、罹患した患者に対する看護について治療経過とともに学ぶ内容とした。

「成人看護方法演習」では、急性回復期・終末期の事例展開をアクティブラーニングで行う教育内容とした。演習を通して、判断力や応用能力、グループ間での協調性も養えるようにと教育に取り入れた。社会環境の影響と健康問題を考え、さらに個人の健康的な生活習慣獲得への取り組みをサポートし、セルフケアの確立をめざすための支援を考える。

急性期～回復期の事例展開では、身体侵襲に伴う生体反応について考え、観察技術・回復に向けた援助を学ぶ。さらに、手術に伴い生じた機能障害に対し、日常生活への適応に向けた支援の在り方を学ぶ内容を教育内容とした。終末期の事例展開では、死にゆく患者の受容過程を考えながら、患者が安楽に過ごせるように症状マネジメントや症状コントロールについて考え、どのように支援していくかを学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護学概論
講師名	(岩国)藤原 美由紀 (浜田)前田こずえ・(呉)東活年	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	1 年次前期～後期
授業概要 * 講師からのメッセージ	<p>学生の皆さんも成人期にある「人」であることを意識し、自分自身をみつめるきっかけにし、学習してほしいと思います。</p> <p>また、大人の生活と健康に関する基本的な知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対する看護アプローチの基本的な考え方や方法を学びます。そして、広い視野で人々の健康と、健康を支援するために必要な看護や役割を考えられることを目指したいと思います。</p>		
<p>目的: 成人期にある対象を理解し、看護の役割について学ぶ</p> <p>目標: 1. 成人期にある特徴が理解できる 2. 成人期にみられる健康障害が理解できる 3. 成人期にある対象の看護に有効な概念が理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1.対象の理解 1)生涯発達の特徴 2)成長発達段階の特徴 ①青年期(身体の発達・心理・社会的発達)	3 校合同講義	
2	②壮年期(身体の発達・心理・社会的発達) ③向老期 3)対象の生活 ①生活を営むこと ②仕事をもち働くこと	3 校合同講義	
3	2. 生活と健康 1)成人を取り巻く環境からみた健康	3 校合同講義	
4	2)成人の健康状況	3 校合同講義	
5	3. 成人への看護のアプローチの基本 1)大人の健康行動のとらえ方 ①大人の学習 2)行動変容を促進する看護アプローチ ①自己効力感 ②エンパワメントアプローチ	3 校合同講義	
6	3)健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 ①看護アプローチ ②チームアプローチ ③意思決定支援 ④家族支援	3 校合同講義	
7	4. ヘルスプロモーションと看護 1)健康づくり 2)健康増進のための環境づくり 5. 健康を脅かす要因と看護 1)ライフスタイル健康障害	グループワーク	
8	2)ストレスと健康生活 ストレスコーピング理論 3)生活行動がもたらす健康問題とその予防	3 校合同講義	
9	国民衛生の動向 人口動態について	各校で実施	
10	国民衛生の動向 成人期の環境から健康障害について (各期の死因・婚姻・離婚・生活習慣病等)	各校で実施	
11	6. 健康生活の破綻と回復を支える看護 1)健康の急激な破綻 2)急性期にある人の看護 危機理論・障害受容	3 校合同講義	
12	7. 慢性病とともに生きる人を支える看護 1)慢性病とともに生きる人の理解 病みの軌跡	3 校合同講義	
13	2)慢性病とともに生きる人を支えるセルフケア理論 3)生活再構成への支援	3 校合同講義	
14	8. 人生最期のときを支える看護 1)自己決定を重視した医療へ 2)人生最期のときにおける緩和ケア 3)人生最期のときを過ごしている人の理解	3 校合同講義	
15	前半: 終了試験(45分) 後半: まとめ(各校)		
評価方法	課題レポート 30 点、筆記試験 70 点 評価基準参照		
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向 2024/2025		
備考	関連科目: 看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論 I (消化器 栄養代謝・内分泌)	
講師名	嵐 友哉・前森 陽二郎 (14) 加戸 なつみ・縄 一枝 (16)	実務経験の有無	有	
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期	
授業概要 * 講師からのメッセージ				
目的：成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 目標：1. 成人期の消化器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の栄養代謝機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の内分泌機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる				
回	授 業 内 容		授業方法	
1	消化器	1. 食道癌 1) 症状別看護 (嚥下困難など) 2) 検査に対する看護 (上部消化管内視鏡検査など) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (胸部食道全摘術)	講義	
2~3		2. 胃癌 1) 症状別看護 (吐き気・嘔吐、腹痛、吐血、食欲不振など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (胃全摘術、腹腔鏡下胃切除術) (2) 内科的治療：ESD	講義	
4~5		3. 大腸癌 1) 症状別看護 (下血、下痢、便秘、腹部膨満など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (結腸切除術、腹会陰式直腸切断術) (2) 内科的治療	講義	
6		4. 胆石 1) 症状別看護 (腹痛など) 2) 検査に対する看護 (内視鏡的逆行性胆管膵管造影 ERCP) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (腹腔鏡下胆嚢摘出術) (2) 内科的治療：ENBD、PTCD	講義	
7		5. 膵炎 1) 症状別看護 (腹痛など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
8~9		栄養代謝	1. 肝炎 1) 急性肝炎 (1) 症状別看護 (倦怠感など) (2) 検査に対する看護 (3) 治療/処置別看護 2) 慢性肝炎 (1) 症状別看護 (2) 検査に対する看護 (肝生検など) (3) 治療/処置別看護	講義
10~11			2. 肝硬変 肝がん 1) 症状別看護 (吐き気・嘔吐、腹痛、吐血、腹部膨満、食欲不振、腹水、黄疸、意識障害) 2) 検査に対する看護 (肝機能検査、腹部超音波など) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (2) 肝動脈塞栓術 (3) 食道静脈瘤内視鏡治療 (4) PEIT	講義
12	3. 脂質異常症 高尿酸血症 肥満 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 (血液検査など) 3) 治療/処置別看護		講義	
13	内分泌	1. 甲状腺機能亢進症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
14		2. 甲状腺機能低下症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
15 (45分)	まとめ			
16 (45分)	終了試験			
評価方法	科目評価は 100 点満点 45 分 評価基準参照			
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			
備考	特記なし			

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅱ (腎・泌尿器、呼吸器、循環器)
講師名	橋本美咲(10) 藤井芽衣子(10) 末友佐恵子・隅井千晴(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の腎・泌尿器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の呼吸器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の循環器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 			
回	授 業 内 容		授業方法
1	<p>1. 腎・泌尿器疾患 (前立腺肥大、腎・尿路結石、膀胱癌、腎癌)</p> <p>1) 症状別看護</p> <p>(1) 蓄尿・排尿障害 (2) 生命・生活への影響(ストーマ造設・自己導尿)</p> <p>2) 検査に対する看護(検査前・中・後の観察を中心に)</p> <p>(1) 残尿測定 (2) 膀胱鏡検査 (3) 尿流動態検査</p>		講義
2～3	腎・泌尿器	<p>3) 治療/処置別看護</p> <p>(1) 手術療法(膀胱切除術・前立腺切除術)</p> <p>① 術前の看護(看護目標設定とアセスメントの視点を中心に)</p> <p>全身管理(血圧管理・呼吸管理・水分輸液管理)・危険防止・術前準備(ボディイメージの変容・ストーマケア)</p> <p>② 術後の看護(合併症の観察・早期発見・予防に必要な看護を中心に)</p> <p>術後合併症(呼吸器合併症・後出血・感染・腎機能障害・吻合部狭窄・ストーマ合併症)</p> <p>全身管理(血圧管理・呼吸管理・水分輸液管理・深部静脈血栓症)</p> <p>必要な観察と看護(ドレーン・膀胱留置カテーテル)</p> <p>③ 術後の日常生活援助</p> <p>・活動・リハビリに対する援助 廃用性症候群の予防 転倒転落予防</p> <p>・環境整備・食事と栄養に対する援助・排泄機能の評価とストーマ管理</p> <p>・清潔・更衣・整容に対する援助</p> <p>(2) 内科的治療 体外衝撃波結石破碎術(ESWL)・経尿道的尿管碎石術(TUL) 経皮的腎(尿管)碎石術(PNL)</p> <p>①治療前の看護 ②治療中の看護 ③ 治療後の看護</p> <p>(3) 薬物療法に必要な観察と看護 (4) ホルモン療法 (5) 放射線療法</p>	講義
4		<p>4) 健康レベル別援助</p> <p>(1) ストーマ造設時の居住環境の整備と環境整備</p> <p>(2) リハビリテーションにおける看護の役割、膀胱訓練(骨盤底筋体操)・自己導尿</p> <p>(3) 家族への支援、家族の悲嘆へのケア</p> <p>(4) 障害に対する受容と適応への心理的支援看護</p> <p>ボディイメージの変容に対する看護</p> <p>(5) 社会的支援の獲得への看護と退院支援 (退院調整 多職種連携)</p>	講義

		社会資源の情報提供、就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)	
5～6	呼吸器	1. COPD（慢性閉塞性肺疾患）患者の看護 1) 症状別看護 (1) 酸素化障害・換気障害 (2) 全身状態 2) 検査に対する看護 (1) 呼吸機能検査 (2) 胸部レントゲン検査 (3) 喀痰検査 (4) 血液検査（動脈血ガス分析） (5) 気管支鏡検査 3) 治療/処置別看護 (1) 酸素療法・在宅酸素療法 (2) 呼吸リハビリテーション・体位ドレナージ（演習） (3) 薬物療法（気管支拡張薬：吸入） (4) 非侵襲的陽圧換気（NPPV） (5) 侵襲的陽圧換気（人工呼吸器管理） (6) 生活指導（効果的な咳嗽方法・食事療法・感染予防・禁煙指導）	講義・演習
7～8		2. 肺炎患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点 2) 呼吸困難感の緩和及び増悪予防に応じた日常生活援助方法 3) 治療（薬物、手術）に伴う看護 4) 生活指導 3. 肺癌患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点（咳嗽・喀痰・血痰・喀血・呼吸困難・胸痛） 2) 胸腔穿刺・胸腔ドレナージ（低圧持続吸引器の管理）を受ける患者の看護 3) 呼吸困難感の緩和及び増悪予防に応じた日常生活援助方法 4) 治療（薬物、手術）に伴う看護（術後疼痛の緩和・術後合併症の予防） 5) 生活指導（精神面の援助・退院指導）	講義
9		4. 気管支喘息患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点（全身状態・呼吸状態・発作状況） 2) 治療に伴う看護（薬物療法：内服・吸入） 3) 適切な体位に応じた日常生活援助方法・生活指導	講義
10～11	循環器	1. 心不全患者の看護 1) 症状別看護 (1) 浮腫 (2) 呼吸困難 (3) チアノーゼ 2) 検査に対する看護 (1) 胸部レントゲン検査 (2) 心電図、心エコー (3) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 合併症の予防 (4) 心臓リハビリテーション (5) 自己管理への支援（退院指導） 4) 健康レベル別援助 (1) 診断されることに伴う心理的反応 (2) 長期間の自己管理に伴う問題	講義
12～13		2. 虚血性心疾患のある患者の看護 1) 症状別看護 (1) 胸痛 (2) 心原性ショック 2) 検査に対する看護 (1) 心電図 (2) 運動負荷試験 (3) 心エコー検査 (4) 心臓カテーテル検査 (5) 心筋シンチグラム (6) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 経皮的冠動脈形成術(PCI) (3) 冠動脈バイパス術(CABG) (4) 弁置換術・弁形成術 (5) 大動脈内バルーンポンピング(IABP) (3) 心臓リハビリテーション (4) 自己管理への支援	講義

		<p>4) 健康レベル別援助 (1) 患者の心理の理解 (2) 治療選択の援助 (3) 生活スタイル変更の援助 (4) 自己管理実践に向けての援助</p>	
14		<p>3. 不整脈のある患者の看護 1) 症状別看護 (1) 胸痛・動悸 (2) 気分不快 2) 検査に対する看護 (1) 心電図 (2) 胸部レントゲン (3) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) ペースメーカー挿入術 4) 健康レベル別援助 (1) 患者の心理の理解 (2) 治療選択の援助 (3) ペースメーカー挿入中の看護 (4) 社会保障に関する情報提供 (4) 生活スタイル変更の援助 (5) 自己管理実践に向けての援助</p>	講義
15 (45分)	まとめ		
16 (45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論</p>		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅲ (血液・造血器 身体防御性・生殖・乳腺 感覚器)
講師名	竹元千恵・水野綾花(14) 當田晶子(6) 米村慎太郎(4) 三家本八千代(6)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：成人期の機能障害を持つ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p> <p>目標：1. 成人期の血液・造血器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の身体防御機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の性・生殖・乳腺機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 4. 成人期の感覚器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p>			
回	授 業 内 容		授業方法
1	血液	1. 造血器疾患の概要 1) 造血機能と骨髄異形成症候群 2) 造血機能障害と汎血球減少 3) 貧血 4) 化学療法 5) 輸血療法と造血刺激因子の投与	講義
2~3	造血器	2. 白血病 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 骨髄移植	講義
4		3. 悪性リンパ腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
5		4. 多発骨髄腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
6~7		身体防御 1. アトピー性皮膚炎 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. 食物アレルギー 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 3. 感染症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 4. 自己免疫疾患のある患者の看護 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護	講義
8	性・生殖・乳腺	1. 子宮筋腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. 子宮内膜症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
9		3. 子宮頸癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 4. 子宮体癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
10		5. 卵巣癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
11~12		6. 乳癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
13~14	感覚器	1. 突発性難聴 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. メニエール病 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護 3. 鼻出血 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護 4. 白内障 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 5. 緑内障 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
15(45分)	まとめ		
16(45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅳ (脳・神経、運動機能(整形)、内部環境)
講師名	小島 祐子(12) 中田 千香子(10) 岡田 幸子(8)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的: 成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 目標: 1. 成人期の脳神経機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の運動機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の内部環境機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
回	授業内容		授業方法
1~2	脳・神経	1. 脳血管疾患 1) 症状別看護(意識障害・言語障害・認知症・運動麻痺・運動失調・不随運動・痙攣・感覚障害・嚥下障害・排尿障害・呼吸障害・頭蓋内圧亢進のある患者の看護)	講義
3~4		2) 検査に対する看護(CT・MRI、髄液検査、脳血管撮影、脳波検査、簡易知能検査) 3) 治療/処置別看護 (1) 開頭手術を受ける患者の看護 (2) 薬物療法を受ける患者の看護 (3) リハビリテーションを受ける患者の看護	講義
5 6(45分)		4) 健康レベル別援助(1) 急性期・回復期・慢性期の患者の看護 (2) 片麻痺がある患者の看護(食事・排泄・清潔・更衣・整容・移動)(演習) 自助具・自助具の活用、居住環境の整備と環境整備 (3) 意識障害のある患者の口腔ケア(演習) 2. 脳腫瘍患者の看護 3. 頭部外傷患者の看護	講義 演習
7~8	運動機能	1. 大腿骨頸部骨折 1) 症状別看護(1) ギプス固定 (2) 牽引療法 (3) 介達牽引 2) 検査に対する看護 (1) 関節可動域検査 (2) 徒手筋力テスト	講義
9~10		3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 ①手術前の看護 ②手術後の看護 ③合併症 ④リハビリテーション 2. 関節の炎症疾患患者の看護 3. 脊椎疾患患者の看護 4. 四肢切断後の患者の看護	講義
11	内部環境	1. 代謝機能障害の対象の看護(糖尿病) 1) 症状別看護(口渴、多飲、多尿、全身倦怠感、脱力感、無気力感、眠気、意識障害) 2) 検査に対する看護(空腹時血糖、経口ブドウ糖負荷試験、血糖自己測定) 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 運動療法 (3) 食事療法 (4) 生活指導 (5) 低血糖症状出現時の対応と指導 4) 健康レベル別援助(診断されることに伴う心理的反応、長期間の自己管理に伴う問題)	講義
12		5) 簡易血糖測定	演習
13~15		2. 腎機能障害のある患者の看護(急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病) 1) 症状別看護(浮腫、脱水) 2) 検査に対する看護(腎機能検査、静脈性尿路造影、腎生検) 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 血液透析 (4) 急性期持続血液濾過透析(CHDF)(5) 腹膜透析(CAPD)(6) 腎移植 4) 健康レベル別援助(患者の心理の理解、治療選択の援助、透析と社会保障に関する情報 提供、生活スタイル変更の援助、自己管理実践に向けての援助)	講義
16(45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院: 系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	畑中 美保	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの20時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	急性期に必要な身体侵襲のプロセスを振り返りながら学んでいきます。解剖生理や手術侵襲だけでなく、退院に向けて生活支援の知識も必要となります。短い入院期間に必要な知識・技術を整理しながら学んでいきましょう。		
目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる 目標: 1. 急性期にある患者の看護過程が展開できる 2. 回復期にある患者の看護過程が展開できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	【急性回復:胃がん事例】 1. 情報収集	講義・演習	
2~4	2. 情報分析 1)術前の全身状態の把握と術後に起こりうる問題の予測 2)機能低下に伴う術後に起こりうる問題の予測 3)術後侵襲・全身麻酔の影響 4)危機理論、ストレスコーピング理論の活用の視点	講義 グループワーク	
5	3. 看護問題の抽出 1)全身麻酔の合併症 2)術後の苦痛	講義 グループワーク	
6~8	4. 術後の機能障害と生活への影響(講義・演習) 1)教員によるモデル人形を使用したデモンストレーション 2)術直後の全身状態の観察 3)創傷管理(創部の観察、アセスメント) 5. 看護計画の立案(講義・演習) 1)術後合併症の早期発見 2)術後合併症の予防 3)術後の苦痛緩和 4)術後機能障害 5)退院に向けた生活指導	講義・演習	
9~10	6. 看護計画の立案(講義・演習)(非効果的自己健康管理) (栄養指導:ダンピング症候群予防など)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(60点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 2. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 3. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 4. 医学書院:NANDA-I看護診断定義と分類		
備考 参考図書	1. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護 外来/病棟における術前看護 2. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:術中/術後の生体反応と急性器看護 3. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:回復期/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 4. 学研:よくわかる周手術期看護 5. 学研:疾患別看護過程の展開		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの10時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	終末期の看護過程を学びます。成人期の発達課題には様々なものがあります。そのような発達段階にある患者が疾患により死を迎える過程で、どのような看護が必要なのかを学びます。また、患者本人だけではなく、看護の対象には家族も含まれます。家族へはどのような看護があるのか一緒に考えていきましょう。		
目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる 目標:終末期にある患者の看護過程が展開できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1~2	【終末期:肝硬変・肝がん事例】 1. 情報収集 2. 情報分析 1)苦痛(悪心嘔吐、疼痛、搔痒感、腹部膨満感、便秘、倦怠感、食欲不振)と日常生活への影響 2)治療による影響 3)死の受容プロセス 4)患者・家族のニーズや生活(社会生活も含む)への影響	講義・演習	
3	3. 看護問題の抽出 1)患者・家族の看護上の問題の把握	講義 グループワーク	
4~5	4. 看護計画の立案 1)状態把握のための観察 2)症状マネジメント(がん性疼痛、黄疸、腹水、浮腫、肝性昏睡、肝腎症候群 消耗性疲労、全人的苦痛、便秘など) 3)日常生活の支援 4)患者・家族の予期悲嘆と援助(グリーフケアを含む)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(40点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 2. 医学書院:別巻 緩和ケア 3. 医学書院:NANDA-I 看護診断定義と分類		
参考図書	学研:疾患別看護過程の展開		
備考	病態治療学Ⅰ、成人看護援助論Ⅰで学んだ内容と関連あり		

老年看護学

■構築の考え方

老年看護学では、加齢変化や長年の生活習慣による影響を踏まえ、健康の維持増進、健康管理、さらに日常生活の援助が求められている。さらに、避けることのできない日々衰えていく加齢変化や喪失体験の失調要素と、様々な困難の中でも今まで生き抜いてきた統合という同調要素が対立し成長し続けている対象に対して、人生最期の時である、安らかな死が迎えられるよう援助することである。高齢者ひとり一人には、その人の歴史がある。そのため個人によって老いの現れ方は、多様で個別性が高いことを踏まえ、その人らしさを受け止めていくことを学ぶ内容とした。また、疾病や健康障害を持ちながら日常生活に適応でき、自立・自律した生活が送れるように、高齢者の生活機能をアセスメントし、健康問題を解決するための援助を学ぶ内容とした。また、平均寿命にして80年を超える時代となり、疾病・障害という健康や介護の問題、老いの時間をどう築くかという生活基盤の問題、また高齢者をどのように社会が支援していくのか、高齢者の社会福祉制度や高齢者を取り巻く保健・医療・福祉対策について学習する。「老年看護学概論」では、老年期にある対象を理解し、老年期の看護の基本的な考えを学び、「老年看護援助論Ⅰ」で、高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践ができるための知識や技術を修得させる。「老年看護援助論Ⅱ」では、健康障害のある高齢者の看護や認知症看護、治療処置を必要とする高齢者の看護を学ぶ内容とした。これらの学習を踏まえ「老年看護援助論演習」では、慢性期の看護過程の展開を学ぶ構成とした。

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護学概論
講師名	福嶋洋子、田儀千代美、道中俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	1年次 第2学期
授業概要*講師からのメッセージ	「老い」について理解し、高齢者の生活を支援する看護の役割について考えてほしい。		
目的：老年看護学の概念と、老年期にある対象と家族を理解する。また我が国の高齢者を取り巻く社会システムや看護の役割について理解する。			
目標：1. ライフサイクルにおける老年期の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。 2. 高齢化が社会生活に及ぼす影響について理解する。 3. 老年期の対象者を尊重する態度・老年観を持つ。 4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の動向と看護の役割を説明できる。			
回	授業内容		授業方法
1	老年期の対象の理解 1) 老年期の定義 2) 老年看護の目的と高齢者のQOL 3) 加齢に伴う変化(身体的側面・精神的側面・社会的側面)		講義
2	老いるということ、老いを生きるということ 1) 老年期の発達課題 2) 高齢者のセクシュアリティ 3) 社会参加		講義
3	身体の高齢変化とアセスメント(高齢者疑似体験)		各校 演習
4	1) 高齢者疑似体験による老年期の生活の理解		
5	高齢者のヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの基本		講義
6	身体の高齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器 2) 感覚器		講義
7	身体の高齢変化とアセスメント 1) 循環器 2) 呼吸器 3) 消化器 4) ホルモン分泌		講義
8	身体の高齢変化とアセスメント 1) 泌尿生殖器 2) 運動器 3) ロコモティブシンドローム 4) サルコペニア		講義
9	老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護における理論・概念の活用 3) 老年看護に携わる者の責務		講義
10	高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 身体拘束		講義
11	高齢者の権利擁護 1) 高齢者虐待 2) 権利擁護のための制度		3校合同講義 グループワーク
12	超高齢社会と社会保障：超高齢社会の統計的輪郭 1) 超高齢社会の現状 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の健康状態 4) 高齢者の死亡 5) 高齢者の暮らし		3校合同講義 グループワーク
13	超高齢社会と社会保障：高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者にかかわるシステムの構築 (1) 医療福祉制度の変遷 (2) 介護保険制度の整備 (3) 高齢者医療のしくみ (4) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化		3校合同講義 グループワーク
14	生活・療養の場における看護 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 3) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護		3校合同講義 グループワーク・討議
15(45分)	まとめ		
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 100% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 老年看護学		
参考書	一般財団法人 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論Ⅰ(健康生活と予防)
講師名	岸本 由香(3) 前田 葵(6) 今若 育穂(6)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	<p>目的: 高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践が出来るための知識・技術を修得する。</p> <p>目標: 1. 高齢者のヘルスアセスメントについて理解できる。</p> <p>2. 高齢者に起こりやすい症状が理解できる。</p> <p>3. 高齢者の自立を支える看護方法が実践できる。</p> <p>4. 高齢者の日常生活に潜む事故について理解できる。</p> <p>5. 高齢者の終末期症状と看護の実際が理解できる。</p>		
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本的活動 ①転倒のアセスメントと看護 ②廃用症候群のアセスメントと看護	講義	
2	2) 食事・食生活 ①高齢者における食生活の意義 ②高齢者に特徴的な変調(摂食嚥下障害・低栄養) ③食生活のアセスメント ④食生活の支援 ⑤嚥下訓練(演習)	講義 演習	
3	3) 排泄 ①高齢者の排泄ケアの基本 ②排尿障害のアセスメントとケア ③排便障害のアセスメントとケア	講義	
4	4) 清潔 ①高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題(皮膚の変化(褥瘡予防)・ドライスキン) ②清潔のアセスメント ③清潔の援助(入浴・フットケア)④入浴行動に伴う危険性 ⑤嚥下障害のある高齢者の口腔ケア(義歯洗浄を含む)	講義	
5	5) 生活リズム ①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント ④生活リズムを整える看護 6) コミュニケーション ①高齢者とのコミュニケーションとかわり方の原則 ②コミュニケーション能力のアセスメント ③高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	
6	2. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 ①高齢者と医療事故 ②高齢者特有のリスク要因 ③高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際(熱傷・誤嚥・チューブ類の自己除去) 2) 高齢者と災害	講義	
7	3. 高齢者のエンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) 意思決定への支援 3) 末期段階に求められる援助	講義	
8(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論Ⅱ (主要症状・治療別)
講師名	道中 俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	高齢者の特有な疾患・障害を理解し、健康状態や受療状況に応じた看護を学びましょう		
目的：老年期にあり障害をもつ対象の健康回復に関わる看護と老年期にかかり易い主要症状・治療の看護について理解する。			
目標：1. 老年期にある対象の疾病や障害の現れ方の特徴が理解できる。 2. 老年期に起こりやすい健康問題、対象に合わせた看護を理解できる。			
回	授 業 内 容		
1	1. 治療を必要とする高齢者の看護：講義 1) 検査をうける高齢者の看護 ①高齢者が受けることの多い検査 ②検査を受ける高齢者への援助 2) 薬物治療を受ける高齢者の看護 ①加齢に伴う薬物動態の変化 ②高齢者に特徴的な薬物有害事象 ③服薬管理能力のアセスメントと服薬支援		
2	3) 手術を受ける高齢者の看護：講義 ①手術を受ける高齢者の特徴 ②術前・術後の看護マネジメント 4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
3	2. 健康逸脱からの回復を促す看護：講義 1) 症候のアセスメントと看護 ①発熱 ②痛み ③脱水 ④スキン-ケア(皮膚裂傷)		
4・5	3. 疾患のある高齢者の看護：講義 1) 脳卒中 2) 心不全 3) 糖尿病 4) 慢性閉塞性肺疾患 5) がん 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群 7) インフルエンザ 8) 肺炎		
6	9) 骨粗鬆症 10) 骨折 ①脊椎圧迫骨折 ②大腿骨近位部骨折		
7	4. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症 ①認知症の分類 ②症状 ③認知機能および生活機能の評価 ④認知症看護の原則		
8(45分)	終了試験		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院：系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論演習
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	1 年次の共通基本技術(看護過程の基礎)での学びを土台に、加齢による機能低下など老年期の特徴をふまえて看護過程を展開することを学ぶ授業です。 成人・老年看護学実習 I (対象理解/看護過程の展開)につながります。		
目的:健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開方法を理解する 目標:1. 健康問題を持った老年期の状態をアセスメントできる 2. それぞれの健康状態に応じた日常生活への援助方法を計画できる			
回	授 業 内 容		授 業 方 法
1	事例提示 疾患の理解(糖尿病のある脳梗塞患者)		講義
2	老年期および回復期の理解 1)健康レベルにある対象の状況 2)患者看護に求められる能力 3)看護過程の展開の意義・目的 4)データベースを活用した情報収集の意味 5)情報(生活・健康・家族歴)聴取の進め方		講義 演習
3	回復期の情報収集の視点 1)回復期の患者の状態を判断し解剖生理学の視点から情報を分析していく必要性 2)患者の状態変化に応じた分析とは 3)理論を用いた情報分析 4)座標を用いて情報の関連を理解する		講義 演習
4	情報分析と計画立案(ゴードン機能的健康パターン 看護診断 NANDA-I を活用) 1)健康認識・健康管理 2)栄養・代謝 3)排泄 4)活動・運動 5)睡眠・休息 6)認知・知覚 * 情報収集内容 ・アセスメント内容 ・看護計画の実施と修正		演習 グループワーク
5	情報分析と計画立案(ゴードン機能的健康パターン 看護診断 NANDA-I を活用) 7)自己知覚・自己概念 8)役割・関係 9)生・生殖 10)コーピング・ストレス 11)価値・信念 * 情報収集内容 ・アセスメント内容 ・看護計画の実施と修正		演習 グループワーク
6	発表と振り返り 1)どんな情報収集が適切だろうか 2)アセスメントと看護計画について		発表 ディスカッション
7(45分)			
評価方法	看護過程の展開:課題レポート 80%、受講状況(出席・態度・提出物) 20% 評価基準参照		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院:系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		
備考			

小児看護学

■構築の考え方

小児看護学では、急速に変化する小児医療や社会の中で、子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じた看護を考えることを学習する。小児看護の対象は、子ども及びその家族であり、健康な子どもがより健全な成長・発達を遂げられるよう援助する。少子高齢化社会の中で、子どもは同胞あるいは様々な年齢の人々との関わりが減り、社会性が育まれにくい環境にあり不登校や心身症の子どもが増加している。また核家族化に伴い地域に子育ての支援者がいないことが育児期の親の負担感や孤立感を増大させ育児不安や児童虐待などの深刻な問題に結びついている。小児期は絶え間ない成長発達をとげる時期であり、小児期の過ごし方はその後の身体的・精神的・社会的発達や健康生活に大きく影響を与える。そのため小児看護に携わるものは、現代の子どもと家族の特徴を理解し、小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう子ども及びその家族に対する看護を学ぶ必要がある。小児看護学を学ぶ当校の学生もまた、少子化、核家族化のなかで育ち、子どもと接する機会が少ない状況や、家庭と学習を両立しながらその役割を果たしている等といった、まさしく多様化の中で学んでいる。小児看護学ではこのような学生の現状も踏まえ、まず、小児という対象の理解を十分にできるように子どもを取り巻く環境と小児各期の特徴を理解できるように考えた。そのうえで小児の成長と発達段階に応じた養護、健康のレベルと家族の状況に応じた看護ができる基礎的能力を学ぶ内容に構成した。

「小児看護学概論」では、ライフサイクルから見た小児各期の特徴を理解するとともに、成長発達について形態的成長、機能的・精神運動的発達から学ぶ内容とした。その上で、成長発達に応じた日常生活援助の方法について学習する。小児各期の特徴を踏まえ、また小児期の生活の過ごし方がその後の生活習慣に大きな影響を及ぼすことを家族のあり方などから考えさせていく。その過程で、社会資源の活用が重要であることを理解するために、小児の健康的な発達を支える社会、環境、法律についての理解を深める。「小児看護学疾病論」では、主な健康障害の理解と先天性疾患や成長発達障害、感染症については小児特有の疾患を中心に教授する。「小児看護援助論」では、小児の疾患で学んだ主要疾患の看護の理解を通して、子どもの状態・状況に応じた看護や小児に特有の看護技術を学習する（NICUで治療する小児に対する看護を含）。疾病や入院によって引き起こされる子どものさまざまな心理的混乱を理解し、認知の発達レベルに応じたプレパレーションについて学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学概論
講師名	木原 千絵(17) 平田 洋子(12) 山中 真弓、小笠原 茉緒	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	少子高齢社会にある現在の子どもとその家族への看護に必要な知識と考え方の基礎について、演習を踏まえて学んでいきます。		
<p>目的：小児看護学の概念と対象について理解し、小児看護の目的と役割について総合的に理解する 小児保健の意義と看護の役割について理解する</p> <p>目標：1. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的、課題を理解できる 2. 小児の特徴を理解できる 3. 小児を取り巻く環境を理解できる 4. 小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児とは 2) 小児期の範囲 3) 小児期の区分 4) 成長・発達 5) 小児の特徴 6) 小児看護の対象 7) 小児看護の変遷と課題	講義	
2～5	2. 小児の成長・発達 1) 小児の成長・発達 ①成長・発達の特徴 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価 2) 小児期の心理・社会的発達	講義	
6	3. 小児と医療 1) 小児と疾病構造の変化、医療との協働 2) 継続看護(在宅・外来)、多職種との調整	講義	
7～8 (45分) /計3時間	4. 小児における倫理 1) グループワーク	講義・演習(GW)	
9	4. 小児における倫理 2) グループ発表	演習(グループ発表)・まとめ	
10～11	5. 小児各期の健康増進・栄養の特徴 1) 小児各期の成長・発達の特徴と生活支援 ①新生児期・乳児期・幼児期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援 ②学童期・思春期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援	講義	
12	6. 小児と遊び、事故防止について	講義	
13	7. 小児と公衆衛生 1) 小児に関する保健統計	講義・グループワーク	
14～15	8. 小児を守るための施策 1) 小児を保護する法律と保健施策 ①予防接種法 ②児童福祉法 ③児童の権利に関する条約 ④母子保健法 ⑤学校保健安全法 ⑥児童虐待防止法 ⑦健やか親子21	講義	
16 (45分)	終了試験		
授業方法	講義・グループワーク・演習・レポート (3校合同)		
評価方法	筆記試験(概論50点+保健50点=100点/1回) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向		
備考	既習関連科目：成人看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学疾病論
講師名	瀧川 遼	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：小児期みられる主な疾患と症状、治療、検査について理解する 目標：1. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する 2. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 染色体異常(ダウン症候群 ターナー症候群) 2) 代謝異常(ガスリー含む) 3) 低出生体重児 4) 二分脊椎症 5) 口唇・口蓋裂 6) 鎖肛 7) ヒルシュスプリング病 8) 先天性股関節脱臼 9) 先天性筋性傾頸 10) 腸重積		
2	1. 代謝・内分泌疾患 1) I型糖尿病 2. 腎・泌尿器および生殖器疾患 1) ネフローゼ症候群 2) IgA腎症 3) 水腎症 4) 膀胱尿道逆流現象 5) 急性糸球体腎炎		
3	1. 免疫疾患・アレルギー疾患 1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー 2. 感染症(子どもの感染症に関する基礎知識含) 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) 流行性耳下腺炎 3. 呼吸器疾患(診断の手順含) 1) 肺炎 2) 風邪症候群 3) 気管支炎		
4	1. 循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 乳幼児突然死 3) 川崎病		
5	1. 神経疾患 1) 髄膜炎 2) てんかん 3) 脳性麻痺		
6	1. 血液・造血器疾患 1) 再生不良性貧血 2) 血管性紫斑病(腎炎含む) 3) 血友病 4) 白血病 2. 消化器疾患 1) 胆道閉鎖症		
7	1. 外科的疾患 1) 眼疾患 2) 耳鼻咽喉疾患		
8(45分)	終了試験		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、病態生理学(自己免疫疾患)、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅷ、小児看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護援助論
講師名	平田 洋子(20) 原田 桃子(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	小児看護学概論の講義内容を活用しながら、各期の子どもの特徴を踏まえた看護の工夫、子どもの尊厳を行動にするとどのような関わりをすることかを考えながら学んでいきましょう。		
目的：子どもと家族の看護を理解する 目標：1. 疾病の経過と発達段階をふまえた看護を理解する 2. 小児看護特有の看護援助を理解する			
回	授 業 内 容		
1	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		
2～3	1. 子どもにおける疾病の経過と看護		
4	1. 手術を受ける子どもと家族の看護		
5	1. 子どもに出現しやすい症状と看護		
6	1. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助技術 1) コミュニケーション 2) 遊び 3) フィジカルアセスメント 4) 検査(採尿)、処置(腰椎穿刺)		
7～8	1. 健康障害に応じた経過と看護 1) 慢性期(継続看護・在宅看護) 2) 急性期・周手術期 3) 終末期 4) 災害時		
9～10 【演習】	(小児看護技術) 1. 外来受診や入院を必要とする小児の看護 1) 外来における子どもと家族への看護 ①緊急度の把握・トリアージ ②病気に対する子どもの理解と説明 ③プリパレーション ④健康診断・育児相談 2) 感染症の対応と免疫不全(低下)の対応 ①隔離の目的・方法 ②隔離の身体的・心理的影響 2. 子どもの入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 1) 小児の入院環境 2) 活動制限が必要な子どもと家族の看護		
11～14 【演習】	1. 子ども(家族含)の疾病の経過と発達段階をふまえた看護の考え方と看護過程 疾患名：川崎病(幼児期) 健康段階：急性期～回復期 薬物療法(輸液管理・内服管理含)		
15	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (参考資料) 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：小児看護学概論、生体機能管理技術		

母性看護学

■構築の考え方

母性看護学では、妊産褥婦および新生児への看護に加え、さらには次世代の健全な母性の育成を目指し、女性の一生を通じた健康の保持・増進、疾病予防を目的とした看護活動を学習する。母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる女性、および過去においてその役目をはたした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖の健康を守るという観点から、女性と生殖やパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族を取り巻く地域社会まで拡大している。すべてのライフステージを対象とすることから、健康レベルやセルフケア能力が高く、自己決定権を持つ人々が多く含まれる。また、その人々は、身体的、心理・社会的な統合体としての女性および、その女性の子ども（胎児を含む）であり、さらに女性と子どもの健康生活と生殖という観点から、広く対象として捉える。

また、時代の変遷とともに、子どもをより健康な状態で産み育てるための母性への支援が必要となっている。女性の生活スタイルや役割の多様化、医学の進歩・発展、少子・高齢化、母子をめぐる生活環境の著しい変化、国際結婚・外国人家族の増加などによって、母性看護の役割は多様化している。

このような、看護の対象の特殊性や、多様化を踏まえ、「母性看護学概論」では、母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着理論」「生涯発達理論」「役割理論」「家族の発達理論」、及び、「リプロダクティブヘルス/ライツ」「Sexuality」「母性看護の生命倫理」の考え方を学習する。

母性保健領域では、母子保健を巡る変化を理解した上で、多様化の中で、活用できる制度等を学習し支援に活かせるように組み立てている。同時に、我が国及び世界の母子・家族の健康問題とそれを取り巻く現状を、保健統計資料や調査・研究などから幅広く捉え、看護学の立場から問題解決を提案していく方法も含めて学習する。

「母性看護援助論Ⅰ」では、母性各期と新生児を含めた健康課題や異常状態についての理解を深める。その理解の上で、「妊婦・産婦・褥婦の正常経過とその看護」及び、「新生児の特徴とアセスメントとその看護」についての学習にすすめる。

「母性看護援助論Ⅱ」では、「妊娠・分娩・産褥の異常とその看護」及び、「ハイリスク新生児の理解とアセスメントとその看護」に対する学習内容で構成した。母性看護学では、ヘルスプロモーションの概念を土台に、妊産褥婦をアセスメントするために必要な知識を含めて学習させたいと考えている。これらの知識を前提に「母性看護援助論Ⅲ」では、妊娠・分娩・産褥の状態・状況に応じた母性看護学に特有の看護技術を学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論
講師名	宮本 末子・三家本 八千代 村川 陽子	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
<p>目的：1. 母性看護の概念について理解する。 2. 母子保健の意義と看護の役割について理解する</p> <p>目標：1. 母性看護の概念と看護の対象が理解できる 2. 母性保健の意義と看護の役割が理解できる 3. 妊娠、産褥、新生児の正常を理解できる</p>			
講義概要 メッセージ	母性看護学の基盤となる概念を学びます。母性看護の対象を身体的・心理社会的に捉え、さらにはライフサイクル、社会保障、母子関係からも幅広い視点で考えます。		
回	講義内容	授業方法	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) リプロダクティブヘルス／ライツ 2) セクシャリティ 3) 家族と発達課題 4) セルフケア	3 校合同講義	
2	2. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化(女性生殖器で既習) 2) 女性のライフサイクル家族 3) マタニティサイクルと発達課題 4) 母性看護の対象を取り巻く環境 5) 女性の性周期	3 校合同講義	
3~4	3. 女性のライフサイクル各期における身体的特徴と心理・社会的特徴 1) 思春期 3) 更年期 2) 成熟期 (マタニティサイクルは保健) 4) 老年期 4. 女性のライフサイクル各期の健康問題	3 校合同講義	
5	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 喫煙と女性の健康 4) 国際化社会と看護	3 校合同講義	
6	6. 母性看護に必要な看護理論 ①家族のシステム理論 ②母親役割理論 (ルービンの理論) ③家族理論 ④愛着理論	3 校合同講義	
7	7. 母性看護における倫理 (DVD)	3 校合同講義 DVD・GW	
8~9	1. 母子保健統計 母子保健に関する制度、関係法規 2. 母性看護を取り巻く環境	3 校合同講義	
10~12	3. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期) 1) 妊娠・分娩・産褥期に伴う心身の変化 4. 新生児の特徴(形態的・機能的)(小児看護学概論の想起) 1) 胎外生活適応と生理的变化	3 校合同講義	
13~15 (5 時間)	5. 母性看護に必要な看護技術 1) ウェルネス志向における考え方と看護過程	3 校合同講義	
16 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (100 点：概論 50 点・保健 50 点) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (財) 厚生統計協会 国民衛生の動向		
備考	関連科目：小児看護学概論(新生児の身体的特徴)、母性看護援助論Ⅰ、Ⅱ		

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護援助論 I (正常・新生児の看護)
講師名	三家本 八千代	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
目的：妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的・社会的特性を踏まえて正常の看護を理解する 目標：1. 妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的・社会的特性を踏まえた正常産婦の看護が理解できる 2. 正常新生児の看護が理解できる			
講義概要 メッセージ	正常経過にある妊産婦と新生児の看護について一緒に学びましょう		
回	講 義 内 容	授業方法	
1. 2	1. 妊娠期の看護 1) 妊娠期の身体的特性 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的变化 2) 妊婦期の心理・社会的特性 ①妊婦の心理 ②妊婦と家族および社会 3) 妊婦と胎児の経過診断とアセスメント ①妊娠の経過と診断 ②胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊婦と胎児の経過診断とアセスメント	①妊婦健康診査 ②指導の実際 (マイトラブル) ③妊婦と胎児の健康状態のアセスメント ④日常生活に関するアセスメント ⑤腹帯の目的 5) 妊婦が受ける母子保健サービス 6) 保健相談 7) 親になるための準備教育 ①分娩準備教育 ②母親役割獲得過程の準備状況 ・家族機能の調整状況のアセスメント	講義
3	1. 分娩期の看護 1) 分娩の要素 ①分娩とは ②分娩の三要素 ③胎児と子宮の関係・分娩の機序 2) 分娩の経過 ①分娩の進行と産婦の身体的変化	②産痛 ③胎児に及ぼす影響 (CTG モニター) ④産婦の心理・社会的変化 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護の実際 (母性援助論Ⅲ) 6) 胎盤計測 (母性援助論Ⅲ)	講義
4~7	1. 産褥期の看護 1) 産褥経過 ①産褥期の身体的変化・進行性変化・退行性変化 ②産褥期の心理・社会的変化 2) 産婦のアセスメント ①産褥経過の診断 3) 産褥と家族の看護 退院後の支援 2. 新生児の看護 1) 新生児の生理	①新生児の機能 (呼吸・循環・体温・消化・吸収) 2) 新生児の生理的变化 ①ビリルビン代謝と生理的黄疸 ②水・電解質代謝・腎機能 ③新生児の皮膚 ①②小児看護学概論で学習 3) 新生児と医療事故、医療安全 4) 新生児の栄養 (母乳栄養、混合栄養など) 5) 1 か月健診までの退院後支援	講義
8 (45 分)	終了試験		
講義方法	講義、DVD		
評価方法	筆記試験 (90 点) 課題レポート (10 点) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論		
備考	既習関連科目：小児看護学概論、母性看護学概論		

科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護援助論Ⅱ (異常・ハリスク新生児の看護)
講師名	小林 正幸・若井 紗彩華	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1単位 (15時間)	開講年次	2年次 第2学期
目的：妊娠・分娩・産褥の正常と異常を理解する 妊娠・分娩・産褥期の異常の看護を理解する 目標：1. 妊娠・分娩・産褥の正常と異常編の病態、症状、検査、治療、予後の理解ができる 2. 妊娠・分娩・産褥の異常の看護を理解できる 3. 新生児の正常と異常の看護が理解できる			
講義概要 メッセージ	正常経過の基礎知識や看護を確認しながら学習することで、周産期の異常経過にある対象への看護について、より理解を深めていきましょう		
回	講義内容		授業方法
1 (医師)	1. 遺伝相談 ①遺伝相談とは ②出生前診断と実際 出生前診断の適応・検査・診断方法 ③遺伝カウンセリング	2. 不妊治療 ①不妊とその原因 ②不妊検査・治療 3. 不妊夫婦(ART)の支援	講義
2 (医師)	1. 妊娠の異常 1) 合併する全身疾患 ①高血圧症 ②心疾患 ③糖尿病 ④子宮筋腫 ⑤気管支喘息 2) 妊娠期の感染症 ①風疹 ②成人T細胞白血病 ③B群溶血性インフルエンザ球菌感染症 ④B型肝炎	3) 妊娠疾患 ①血液型不適合妊娠 (ABO型、Rh式血液不適合) 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常(切迫早産・流産) 6) 異所性妊娠(子宮外妊娠)	講義
3 (医師)	1. 分娩の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 胎児付属物の異常 5) 胎児機能不全 2. 分娩時の損傷 1) 子宮破裂 2) 頸管裂傷	3) 会陰裂傷 3. 分娩第3期および分娩直後の異常 1) 分娩時異常出血 ①分娩時出血の原因 ②産科ショック ③播種性血管内凝固(DIC) 4. 産科処置と手術 ①分娩誘発 ②会陰切開 ③吸引・鉗子 ④帝王切開術	講義
4~5 (助産師)	1. 異常妊娠の看護 1) ハリスク妊婦の看護 ①高齢妊婦 ②若年妊婦 ③肥満・過剰体重増加妊婦	2) 合併症を有する妊婦の看護 ①高血圧症 ②糖尿病 ③子宮筋腫 3) 妊娠期間の異常の看護 ①切迫早産・流産	講義
6~7 (助産師)	1. 分娩期異常の看護 1) 分娩時異常と看護 ①前期破水②帝王切開③異常出血 2. 産褥期の看護 1) 産褥期の異常と看護 ①子宮復古不全②産褥の発熱 ③産褥血栓症⑤感染症のある褥婦 ⑥産褥血栓症⑦精神障害⑧乳腺炎	3. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 高ビリルビン血症 4) 一過性多呼吸 4. 低出生体重児の看護 1) デベロッパメンタルケア 2) ファミリーケア	講義
8 (45分)	終了試験		
講義方法	講義、DVD		
評価方法	筆記試験 100点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論		
備考	既習関連科目：母性援助論Ⅰ(妊娠・分娩・産褥・新生児の生理)、母性看護学概論(女性のライフステージにおける身体的特徴・心理・社会的特徴(マタニティサイクル)、小児看護学概論(新生児の生理)		

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護援助論Ⅲ (看護技術)
講師名	三家本 八千代	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第2学期
目的: 母性看護特有な援助技術について習得する 目標: 母性看護特有の援助技術が実施できる			
講義概要 メッセージ	マニピュレーションにある対象者へのかかわり方や産後の支援といった広い視野を持ち、既習学習を活用しながらアセスメントできるようになって欲しいです。そして、出産という命が誕生する貴重な瞬間に看護者として何ができるのか、自分なりの看護を考えていきましょう。		
回	講義内容	授業方法	
1	1. 妊婦の看護技術 (妊婦体験モデルを使用して) 1) 妊婦健康診査: 妊娠週数と妊婦健康診査 ①子宮底長測定 ②腹囲測定 ③レポルト触診法 2) 検査 ①NST ②胎児心音の聴取	講義 演習	
2	1. 産婦の看護技術 1) 分娩期の援助 ①陣痛と胎児モニタリング(分娩進行と胎児心拍波形分類) ②産痛緩和法(リラクゼーション、三陰交、マッサージ) 2) 分娩第4期の援助	講義 演習	
3	1. 褥婦の看護技術 1) 生殖器復古の観察 2) 悪露交換と観察(悪露模型) 3) 産褥体操(骨盤底筋体操の目的) 4) 母乳哺育の援助 ①乳房・乳頭の観察(乳房模型作成: 扁平乳頭、陥没乳頭) ②乳頭・乳輪の圧迫法・マッサージ法	講義 演習	
4~5	2. 新生児の看護技術(新生児モデル人形使用) 1) 身体計測・出生直後の観察 2) バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント 3) 育児技術(おむつ交換、抱き方、衣類の着せ方) 4) 清潔援助(沐浴、ドライテクニック)	講義 演習	
6~7	1. 母性のウェルネス志向の考え方と看護過程 1) ウェルネス志向とは 2) ウェルネス志向のマニピュレーション診断 3) 診断名の表現方法 4) 正常褥婦と新生児の看護展開	講義 演習	
8(45分)	終了試験		
講義方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験 90点(技術60点、看護過程30点) レポート(10点) 評価基準参照		
テキスト	インターネット: 写真でわかる母性看護技術アドバンス 医学書院: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学Ⅱ〔2〕母性看護学各論		
備考	既習関連科目: 母性看護学概論、小児看護学概論(新生児)		

精神看護学

■構築の考え方

精神看護学では、精神障害がありながら生きる人々が、その人らしい生活を実現するための看護活動だけでなく、看護のあらゆる領域における心の健康維持・増進にかかわる看護活動を学習する。医療の進歩や社会状況の変化に伴い、精神保健医療福祉は施設中心の医療から、地域支援に重点をおいた施策へと大きく転換するに伴い、精神保健にかかわる問題も増加していることから、精神看護の役割は複雑かつ多様化している。そのため、地域生活を支える社会制度および関連する法令を含め、対象の人権を守りつつ、回復（リカバリー）を助けることが必要となる。そして、対象の自立を目指し、段階的に社会の中で生活できるような仕組みの整備に加え、対象の人らしい生活の実現のための支援が、医療の側面からだけでなく地域の保健行政機関や住民等とともに構築されることが求められている。

科目は「精神看護学概論」「精神看護学疾病論」「精神看護学援助論」で構成した。「精神看護学概論」では、心の健康と発達の理解を基盤に精神障害をとらえ、地域で生活している対象と家族を支えるための保健活動を学ぶ。精神看護学の対象は、小児から高齢者まであらゆる発達段階にある。近年は、様々なストレスにより、不安や悩みを抱えながら生活している人々が多く、精神疾患の対象者は増大している。このような現代社会における精神保健医療福祉の動向を概観しながら、精神看護の役割を学ぶ内容とした。精神看護は、患者－看護師関係の構築を前提に、精神障害のある対象の生活を支える役割と機能を担うことを目指すため、人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて学ぶ内容とした。「精神看護学疾病論」では、精神障害に伴う病態像とその診断、治療過程を学ぶ内容とした。「精神看護学援助論」では、精神症状の影響を受けながら生活している対象の回復を助ける看護を学ぶ内容とした。そして、「精神看護学概論」で学習した人間関係構築やコミュニケーションスキルをもとに、精神障害のある対象に対する見方や態度について倫理的側面を考えながら、洞察できる力を高められるよう演習を組み込んだ。

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護学概論
講師名	東 孝子(15) 岡本 諭(15)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：心の健康と発達から精神障害をとらえ、地域での生活を目指す、地域で生活をしている対象と家族を支えるための看護活動および、精神障害のあるあらゆる対象の生活を支える役割と機能について理解する。</p> <p>目標：1. 現代社会の特徴と、心の健康問題について理解する。 2. 精神看護の役割と機能を担うための人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて理解する。 3. これからの精神看護における課題を理解する。</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1～2	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3) 心的外傷と回復 4) 精神障害というとらえ方 2. 関係の中の人間 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団	講義	
3	3. 地域におけるケアと支援 1) 「器としての地域」 2) 地域で精神障害を支援する際の原則	講義	
4～5	3) 地域生活を支えるシステムと社会資源 4) 地域におけるケアの方法と実際 5) 学校・職場におけるメンタルヘルスと看護	講義	
6～7	4. 社会の中の精神障害 1) 日本における精神医学・精神医療の流れ 2) 精神障害と法制度	講義	
8	5. 精神障がい者が体験していること	講義	
9	6. 精神看護学で学ぶこと 1) 精神科看護学とはなにか 2) 精神障害者をもつ人の病の体験と精神看護 3) 「心のケア」と日本社会 4) 精神看護の課題 7. 対象関係論（コフォートの自己心理学・土谷健郎の「甘え」理論）	講義	
10	8. ケアの人間関係 1) ケア的前提・原則・方法 2) 患者 - 看護師関係における感情体験 3) チームのダイナミクス	講義	
11	9. 関係をアセスメントする 1) プロセスレコード 2) 自己理解の必要性と治療的コミュニケーション	講義	
12	10. 入院治療の意味 1) 精神科を受診するということ 2) 治療の器としての病院・病棟 3) 入院中の観察とアセスメント 4) 退院に向けての支援とその実際	講義	

13~14	11. 災害と精神看護 12. リエゾン精神看護 13. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義
15 (45 分)	まとめ	
16 (45 分)	終了試験	
評価方法	筆記試験 100 点 (保健 50 点 看護 50 点) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学①精神看護の基礎 精神看護学②精神看護の展開	
備考	既習関連科目：心理学、生活援助技術 I	

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護学疾病論
講師名	松本 貴久(7) 内田 有彦(8)	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	精神に障害を持つ人の疾患や症状、またその治療や検査を理解することで、精神疾患は脳の疾患であることを理解してほしいです。そして対象が障害とともに生きていく中でどのような援助が必要になるのかも考えていきましょう。		
<p>目的：精神障害者の疾患の病態の特徴、症状、および治療法を理解できる。</p> <p>目標：1. 精神症状と病理について理解できる 2. 治療について理解できる 3. おもな疾患について、症状、治療、検査について理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 精神疾患の基礎知識 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像	講義	
2	2. 対象を理解するための考え方 1) 脳の仕組みと精神機能 2) 精神疾患の診断基準 (1)統合失調症と関連疾患	講義	
3	(2)気分障害 (3)神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害 (4)精神作用物質使用による精神および行動の障害	講義	
4	(5)パーソナリティ障害 (6)器質性精神障害 (7) てんかん	講義	
5	(8) 精神遅滞 (9) 神経発達障害・秩序破壊的・行動制御・素行症候群 (10) 生理学的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	講義	
6	3) 検査 (脳波・知能検査・記銘力検査・人格検査)	講義	
7	4) 治療 (1)薬物療法 (2)電気けいれん療法 (EST) (3)精神療法 (4)環境療法・社会療法 ①精神科リハビリテーション ②作業療法	講義	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (100 点)	評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学①精神看護の基礎		
備考	既習関連科目：人体形態機能学Ⅳ、病態治療学Ⅲ、精神看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護援助論
講師名	錦織 亜紀(7) 八重 愛(8) 岡本 諭(15)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的: 精神症状の影響を受けながら生活している対象の回復を助けるために必要な看護を行うための基礎的な知識とコミュニケーション技術を習得することができる			
目標: 1. 精神に障害のある対象の生活行動上の問題や症状に対する援助方法を理解する 2. 精神に障害のある対象の治療過程に応じた看護方法や多職種との連携を理解する 3. 対象の回復を助けるためのコミュニケーション技術を習得する			
回	授業内容	授業方法	
1 2	1. 回復を支援する 1) 回復の意味 2) リカバリーのビジョン 3) リカバリーを促す環境 4) リカバリーを促す方法としてのグループ 5) 様々な回復のためのプログラム	講義	
3 4(45分)	2. 安全を守る 1) リスクマネジメントの考え方と方法 2) 行動制限、隔離、身体拘束を受ける患者へのケア	講義	
5	3) 緊急時の対処 ①自殺、自殺企図、暴力、転倒、骨折、窒息、誤飲、院内感染、無断離院など 4) 緊急事態とスタッフの支援	講義	
6~7 (135分)	3. 身体をケアする 1) 精神科における身体ケア 2) 精神の治療に伴う身体のケア	講義	
8	3) 精神科における身体を通じたケアの実際 4) 身体合併症のアセスメントとケア 5) 精神科における終末期ケア	講義	
9	1. 演習の導入 1) ワークの進め方・事例説明・事例からの情報整理(個人ワーク)	講義	
10	2. 事例から予測される事象とその援助内容(個人ワーク) 1) 情報から事例に起こると予測される事象を考える抽出と事例へ必要となる援助の検討	講義	
11	3. コミュニケーション計画の構想と試行 1) 模擬患者へ援助を実施するためのコミュニケーション計画の構想(個人ワーク) 2) コミュニケーション計画に沿って練習	講義	
12~13 (135分)	4. ロールプレイングとプロセスレコードの振り返り 1) 模擬患者へコミュニケーション計画の実施とプロセスレコードの記入・分析(個人ワーク)	演習	
14	5. コミュニケーション計画の再構想と試行 1) プロセスレコードの分析から自己のコミュニケーションの傾向を明確にする 2) 自己のコミュニケーションの傾向を踏まえた、コミュニケーション計画の見直し(個人ワーク) 3) コミュニケーション計画に沿って練習	講義	

15～16 (135分)	6. ロールプレイングとプロセスレコードの振り返り 1) 模擬患者へコミュニケーション計画の実施とプロセスレコードの記入・分析(個人ワーク)	演習
17 (45分)	終了試験	
評価方法	精神看護援助論の筆記試験(50点満点 45分)と演習の個人ワークの提出物(50点満点) 科目評価は、精神看護援助論(筆記試験)+演習の個人ワークの提出物とする。 評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学②精神看護の展開	
備考	既習関連科目：精神看護学概論、精神看護疾病論	

看護の統合と実践

■構築の考え方

看護の統合と実践では、看護が実践される多様な場において、チームや組織における看護師の役割を理解するとともに、多職種と連携・協働しながら看護を提供する基礎的能力を学ぶ内容とした。科目は、「医療安全」、「災害・国際看護」、「看護管理」、「統合看護技術演習」で構成した。

「医療安全」ではヒューマンエラーとシステム管理の視点を学習する。看護師は診療の補助、療養上の世話と、他の医療職よりもはるかに多様な業務を担当する。とくに急性期医療の現場では、医療の進歩で診療の補助はますます高度化・複雑化し、療養上の世話においても、患者の高齢化で一層繊細な気遣いが求められていることから、安全な医療・看護の提供の基礎を学ぶ内容とした。学習内容の関連を考慮し進度は2年次に設定する。できるだけ臨床実践と近い状況下での学習をねらいとし2年次後期の臨地実習と並行する進度をとり、ヒヤリハット体験から起こった事実を正しくレビューできる能力を基礎教育で学習できる内容とした。

「災害・国際看護」では、災害看護を実践できる基礎的能力を身につけ、諸外国における保健・医療・福祉の課題を学習する。近年、洪水や土砂災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大しているなか、看護職者は人々の健康にかかわる専門職として役割を発揮していくことが求められている。グローバル化が進んでいる現在、各国のできごとは相互に影響を及ぼし合う状況にあり、諸外国との協力をはじめとした国際看護活動を考察することを期待している。世界全体に目を向け、多くの既習の知識を統合する看護実践が求められる為、進度は3年次に設定する。

「看護管理」では、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学習する。看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動であり、活動の場は病院のみならず地域の保健・医療・福祉の場へと拡大している。そして、管理者だけでなく看護実践者がよりよい看護を提供するため資源の有効利用とそのしくみを学ぶ内容とした。

「総合看護技術演習」は横断的な科目立てとして、1年次は基本技術に対する実践力の強化、2年次は対象の状態を総合的に捉えた実践力の強化、3年次は臨床に近い設定での実践力強化のための科目とする。

科目区分	専門分野	授業科目	医療安全
講師名	平田 洋子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（15 時間）	開講年次	2 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護師は、診療の補助、診療の世話と、他の医療職よりもはるかに多様な業務を担当する。とくに急性期医療の現場では、医療の進歩で診療の補助は、ますます高度化・複雑化し診療上の世話においても、患者の高齢化で一層繊細な気遣いが求められていることから、安全な医療・看護の提供の基礎を学んでほしい。		
目的：安全な医療・看護の基礎的知識を理解する 目標：1. 危険予測できる知識を理解できる 2. ヒューマンエラー、システム管理の視点から事故分析できる基礎的知識を理解できる 3. 医療システム（組織）の中の危険要因を知り、安全なシステムの構築における看護の役割を理解できる			
回	授 業 内 容		
1 【演習】	1. 医療安全の基本的な考え方 1) 医療事故とは何か 2) 患者への影響度による医療事故レベルの分類		
2～3 【演習】	1. 医療安全の基本的な考え方 1) 国の医療安全対策、組織の医療安全対策 2. インシデント アクシデントについて 1) インシデントレポートの意義と活用 2) 事故が生じた際の対応 報告 レポート 3) 事故防止、事故後の対応 *針刺し事故の事例で検討する 3. 患者の誤認防止、転倒・転落・外傷予防対策 4. 事故発生のメカニズム 5. ヒューマンエラーとヒューマンファクター、 6. P m S H E L モデル		
4～5 【グループワーク】	1. 看護における医療安全と安全対策 1) 看護業務の特徴的な環境とリスク 2) 多重課題の特長と対応 3) 医療事故の種類		
6～7 【演習】	1. 医療事故の事故分析と対応 1) 危険予知トレーニングの理論と方法 2) 事例分析 病院内（ベッド周囲）の事故について		
8 (45 分)	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験（90%）、授業参加度・レポート（10%）		評価基準参照
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践【2】医療安全		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	災害・国際看護
講師名	畑中 美保、岩本 典子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	3 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	近年、洪水や土砂災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中、看護職者は人々の健康にかかわる専門職として役割を発揮していくことが求められる。グローバル化が進化している中世界全体に目を向け学習の視点を広げ学んでほしい		
目的：災害看護を実践できる基礎的能力を身につけ国際看護における基礎的知識を理解する			
目標：1. 災害の概念と災害サイクルに応じた看護の役割について理解できる 2. 災害時に必要な基礎的実践技術を身につけることができる 3. 国際社会における看護の役割、機能を理解し、保健・医療・福祉の課題を考えることができる			
回	授 業 内 容		
1～2 【講義】	災害医療・看護の基礎知識 1) 災害の定義、分類、特徴、災害関連死 2) 災害サイクルと各期の特徴 3) 災害と法制度 4) 災害の医療体制 5) 災害時の対象 6) 災害時の看護師の役割と機能		
3～4 【講義・演習】	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 1) トリアージ 4) 災害とこころのケア ①災害後の心的反応とスクリーニング ②災害時における救 援者自身のケア 5) 被災者特性に応じた災害看護：高齢者、子ども、妊産婦、障害者		
5～6 【グループワーク】	災害拠点病院としての目的・役割と活動：急性期・亜急性期 1) DMAT（ディーマット）の救命活動 ①発災直後から出勤までの看護 2) 災害シミュレーション（過去の災害事例から考える災害時の看護の役割） ①亜急性期の看護、避難所の看護		
7～8 【演習】	災害看護の実際 1) 災害時に必要な技術 トリアージ 応急処置（三角巾法 一次救命処置 BLS 止血法）と搬送法 等		
9～10 【講義・演習】	慢性期の看護：仮設住宅における看護 静穏期の看護		
11 【講義： オンライン】	国際看護 1) 国際救護活動 2) 国際看護の基本理念、異文化理解 3) 世界の保健の動向 4) 国際協力機関との連携		
12 【講義・演習】	国際看護 1) 国際化の視点、対象 2) 国際協力活動、多様な文化と看護		
13～14 【グループワーク】	国際社会における看護の役割、機能 保健・医療・福祉の課題		
15（45分）	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験（100点） 評価基準参照		
テキスト	医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実際【3】災害看護学・国際看護学		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護管理
講師名	藤津 京子、明野 恵子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（ 15 時間）	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護を提供するあらゆる場において、よりよい看護を提供するためにマネジメント（管理）が必要です。組織の一員としての役割および機能を学び、自身のキャリア形成を考える機会にしましょう。		
目的：組織における看護管理の基礎について学ぶ。			
目標：1. 看護管理の目的が理解できる。			
2. 組織と組織を構成する人の役割と機能が理解できる。			
3. 看護師のキャリア開発が理解できる。			
回	授 業 内 容		
1	1. 看護とマネジメント 1) 管理とは 2) マネジメントとはなにか 3) 看護ケアのマネジメント 4) 看護業務の実践		
2・3	2. 看護サービスのマネジメント 1) 看護管理の定義 2) 看護管理の対象 ①看護サービスの提供システムと職員配置 ②労務管理 ③物的資源管理 ④医薬品の管理 ⑤廃棄物の管理 ⑥情報の管理 ⑦サービスの評価		
4	3. 組織と組織を構成する人の役割と機能 1) 組織とは 2) 組織の形 (1) ラインとスタッフ (2) 看護の組織化 3) 組織論 4) リーダーシップとマネジメント 5) 組織の調整		
5	4. キャリア開発 1) 専門職業人とキャリア 2) ライフサイクルとキャリア 3) キャリアアンカー 4) キャリア発達とキャリア開発 5) 目標管理		
6・7 【グループワーク】	5. 日本の医療制度と病院経営 1) 医療保険制度のしくみ 2) 診療報酬とは 3) クリニカルパス 4) 重症度、医療・看護必要度		
8 (45分)	終了試験		
授業方法	講義、グループワークおよび発表		
評価方法	筆記試験 (80%)、レポート (20%) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎の統合と実践 [1] 看護管理		
参考図書	メヂカルフレンド社：看護実践マネジメント／医療安全 医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論		
備考	既習関連科目：看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習 I
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	1 学年 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	基礎実習に繋げることができるように、基礎的な看護の知識や基本的な技術を活かし看護の実践力を身につけてほしい		
<p>目的：対象者の状況に応じて安全・安楽な日常生活援助を判断し、実践力を身につける</p> <p>目標：1. 事例患者の状態・状況に応じた日常生活援助の必要性を理解する</p> <p>2. 事例患者の状態・状況に合わせた日常生活援助を実施できる</p> <p>3. 看護実践からの学びを評価する</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション 貧血の患者の事例説明 2. 対象の状態アセスメント		
2 【グループワーク】	1. 対象の状態のアセスメント バイタルサイン・対象の状況から必要な日常生活援助の選択 2. 日常生活援助の方法検討		
3 【演習】	グループで考えた日常生活援助の発表・意見交換		
4 【グループワーク】	方法の再検討・修正		
5・6 【演習】	模擬患者を対象とした技術の実施 1) 対象に応じたコミュニケーションの実際 2) 安全・安楽を考慮した対象に必要な援助を実施		
7 【グループワーク】	1. 振り返り 2. 演習を通じた学びと自己の課題の明確化		
8 (45 分)	ふりかえり 意見交換		
授業方法	グループワーク・演習		
評価方法	課題・レポート提出 (個人・グループ) 評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習Ⅱ
講師名	畑中 美保	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（15時間）	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	患者の状態を総合的に捉える能力を身につけてほしいと思います。特に、リスクアセスメントの能力を養ってほしいと思います。		
目的：患者の状態を総合的に捉え、実践力を身につける			
目標：1. 事例患者の状態をアセスメントできる 2. 事例患者の状態からリスクアセスメントを理解する 3. 事例患者を総合的に捉え、安全・安楽・自立を配慮した援助が実施できる			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション：肺炎により心不全が増悪した事例 2. 事例説明 画像、血液検査データから状態をアセスメントする 3. 患者の情報から基本データを読み取る		
2	1. 患者状態のアセスメント 1) 患者の病態や経過・治療など全体像を理解する 2) 患者のリスクを検討する		
3 【グループワーク】	1. 患者のリスクアセスメントと援助計画の立案 1) 安全・安楽・自立を配慮した援助計画を立案し、検討する		
4 【グループワーク】	1. 援助計画の発表・意見交換 1) 援助方法の再検討と追加・修正する		
5・6 【演習】	1. 模擬患者を対象とした援助技術の実施 1) リスクを回避する 2) 安全・安楽・自立性を考慮する		
7	1. 振り返り 1) 演習を通じた学びと自己の課題の明確化		
授業方法	グループワーク、演習		
評価方法	課題・レポート提出（個人・グループ） 評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習Ⅲ
講師名	平田 洋子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	臨床現場を想定し複数患者の状況を推察し、優先度や時間管理、チームメンバーとの連携などの実践力を身につけてほしい		
<p>目的：臨床現場を想定した課題に既習学習の知識・技術を統合して実践力の基礎を身につける</p> <p>目標：1. 複数患者受け持ちにおける優先順位・時間配分を考慮した援助を考える</p> <p>2. 対象に安全・安楽に配慮した援助が実施できる</p> <p>3. 看護実践中に起こった突発的事態に対して、対処方法の必要性を理解する</p> <p>4. チームメンバーと連携しながら状況を判断し援助が実施できる</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション 複数患者の事例説明		
2・3	1. 受け持ち患者のアセスメント 1) 患者の病態や経過・治療などの全体像を理解する。 2) 患者の看護診断とその対策を考える。		
4	1. 複数患者受け持ち時の一日の行動の業務計画の立案 1) 優先度の判断 2) 時間管理		
5・6 【グループワーク】	1. 複数患者受け持ち時の一日の行動業務計画の検討 1) 優先度の判断 2) 時間管理 3) 安全安楽な援助・医療安全 4) チームメンバーとの連携・協働		
7・8 【演習】	1. 複数を受け持つ中での責任感に基づいた看護実践と振り返り 1) セルフモニタリング 2) 自己能力の判断 3) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 4) 突発的な事態への対処 5) チームの一員として連絡・相談・報告 6) 看護師としての責任		
9	評価(演習をととした学びと自己の課題の明確化) まとめ		
10	1. 看護実践中の突発的事態の対処方法 1) 優先度の判断 2) 時間管理		
11・12 【グループワーク】	1. 看護実践中の突発的事態の対処方法 1) 優先度の判断 2) 時間管理 3) 安全安楽な援助・医療安全 4) チームメンバーとの連携・協働		
13・14 【演習】	1. 時間が切迫する中での責任感に基づいた看護実践と振り返り 1) セルフモニタリング 2) 自己能力の判断 3) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 4) 突発的な事態への対処 5) チームの一員として連絡・相談・報告 6) 看護師としての責任		
15	評価(演習をととした学びと自己の課題の明確化) まとめ		
授業方法	グループワーク、演習		
評価方法	レポート課題(100%)、評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

基礎看護学実習の考え方

基礎看護学は、各看護学の基礎であり、かつ共通する内容として各看護学の基盤となるものである。したがって、基礎看護学実習では、対象の生活環境を理解し、看護実践の基盤となるコミュニケーションを用いた対象の理解と、対象に必要な日常生活援助技術の実践を行う。

次に、対象理解に基づいた、看護上の問題の明確化、看護計画の立案と実施、その際に得られた対象の反応から評価、という看護過程の展開の一連を学ぶ。対象とのコミュニケーションをとまなう看護実践を通して形成される対人関係能力の基礎的能力と倫理的態度を養う。

「基礎看護学実習Ⅰその１（１単位 45 時間の内 15 時間）」では、対象の生活の場となる療養環境と、入院生活が対象に与える影響について、コミュニケーションの中から理解させる。また看護師の実践している援助場面の見学を通して、看護師も環境因子の１つであり、対象に与える影響について考えさせる。初めての臨地であることから、講義で学んでいる知識、技術の統合の場を見学し、今後の学習の動機づけにつなげる。

「基礎看護学実習Ⅰその２（１単位 45 時間の内 30 時間）」では、既習学習の知識、技術を生かして、対象に必要な日常生活援助を実施する。実施に際しては、倫理的態度をもって、看護師等の見守りの下、基本動作を安全安楽に提供できることを目指す。また日常生活援助が対象に与える影響について、バイタルの測定等観察を通して考えさせる。

「基礎看護学実習Ⅱ（２単位 90 時間）」では、１年次の共通基本技術で学んだ看護過程の展開の実際を学ぶ。対象から収集した情報の解釈・分析を行い、看護上の問題の明確化を図り、看護計画を立案し、それに基づき、実施する。そして得られた対象の反応・変化を根拠に基づき評価するという一連の過程を通して、看護の展開方法を理解させる。

科目名	単位	時間	目的
基礎看護学実習Ⅰ（その１）	1	15	対象と対象の療養環境を理解し、対象のニーズに応じた日常生活援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅰ（その２）		30	対象と対象の療養環境における日常生活を理解し、ニーズに応じた援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	看護の対象となる患者及び家族を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、科学的根拠に基づいて看護過程の展開ができる基礎的能力を養う

1. 基礎看護学実習Ⅰ（その１）

1) 実習目標

- (1) 対象の生活と療養環境を理解できる
- (2) 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる
- (3) 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：１年次 第１学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：15時間 /45時間（1単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	A グループ		B グループ	
臨地実習	14 時間	1 日目	9：30～15：45	1 日目	9：30～15：45
		2 日目	9：00～15：15	2 日目	9：00～15：15
実践活動外学習時間 (学内でまとめ)	1 時間	1 日目	15：45～16：00	1 日目	15：45～16：00
		2 日目	15：15～15：45	2 日目	15：15～15：45

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象の生活と療養環境を理解できる	1) 対象の療養環境について述べるができる (1) 個室・多床室の特徴 (2) ベッドの位置・物の配置 (3) 環境の要素(空気・光・臭気・暖かさ・騒音・気分転換・ベッドと寝具・栄養と食物) の実際 (4) 環境の要素に対する患者の気持ち (5) プライバシーの守り方 2) 入院による生活の変化について述べるができる (1) 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち (2) 病気及び身体機能低下からくる気持ち (3) 療養生活で感じる時間
2. 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる	1) 対象とのコミュニケーションに関する学びを述べるができる (1) 患者に配慮した言語的・非言語的コミュニケーションの実際 (2) 目線・あいづち等を活用し、相手が話しやすい状況 (3) 相手へ自分が行うことをわかりやすい説明 (4) 情緒的安定をもたらす、人的環境である看護師の対応 2) 看護場面(環境調整・日常生活援助)の実際について述べるができる (1) 患者の状況に合わせた環境調整 (2) 患者の状況に合わせた訪室 (3) 相手の反応を捉える観察力 (4) 日々の相手の変化を捉える観察力 (5) ナースステーションで行われていること (6) 看護師同士の報告・連絡・相談
3. 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる	1) 対象を尊重する態度で、相手に向き合うことができる (1) 相手の思いと学生の受け止めに大きな相違がない (2) 相手の立場に立ち何が良いかを考える (3) 看護者として必要なルール・マナー (言葉使い、挨拶、清潔感のある身だしなみ) (4) 学生と指導者との報告・連絡・相談 (5) 学生と教員との報告・連絡・相談 (6) 学生同士の報告・連絡・相談 (7) 病棟で患者にかかわる様々な職種 2) 適切に情報管理ができる (1) 記録の匿名性の遵守 (2) 記録物の管理 (3) 守秘義務(記録・会話等)

2. 基礎看護学実習 I (その 2)

1) 実習目標

- (1) 対象の日常生活を理解できる
- (2) 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる
- (3) 看護者として必要な態度を養うことができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1 年次 第 2 学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター

3 階北病棟・3 階南病棟・4 階北病棟・4 階南病棟・5 階北病棟・5 階南病棟

(3) 実習時間：30 時間 /45 時間（1 単位） 実習 1 単位時間：45 分

内容	時間	詳細	
臨地実習	26	1 日目 10：30～15：15（5 時間/日） 2～4 日目 9：00～15：15（7 時間/日）	1 日目の午前中は患者情報受け取り時間とする
実践活動外 学習時間	4	4 日間 15：15～16：00（1 時間/日）	記録整理・文献検索・技術練習

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 対象の日常生活を理解できる	<p>1)対象の 24 時間の日常生活の把握</p> <p>(1) 毎日のスケジュール：食事・排泄・活動・休息・清潔・整容・レクリエーション等の状況把握</p> <p>(2) 治療や処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>2)対象の生活に対する思いの把握</p> <p>(1)症状や検査・治療環境の心理面への影響、本来の生活の場から離れた事による影響</p>
2. 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる	<p>1) 対象のニーズに関する総合的判断</p> <p>(1) 基本的欲求</p> <p>(2) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の把握</p> <p>(3) 基本的欲求を変容させる病理的存在の把握</p> <p>2) ニーズに応じた日常生活援助の明確化</p> <p>(1)セルフケア状況と充足・未充足の程度の確認</p> <p>3) 看護師と共に対象へわかりやすい言葉で説明する</p> <p>(1) 看護ケアの目的・方法</p> <p>(2) 効果とリスク</p> <p>(3) 代替方法</p> <p>4) 日常生活援助実施が可能かどうかの判断</p> <p>(1) バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）の測定</p> <p>(2) 正常値やこれまでの経過との比較</p> <p>5) 看護師と共に安全安楽に基づいたケアを実施</p> <p>(1) 安全確保・感染予防・苦痛緩和・安楽確保 プライバシー保護 モニタリング</p> <p>6) 日常生活援助中の臨床判断</p> <p>(1) 看護師と共に対象の反応に気付く</p> <p>①対象の表情や反応・しぐさからの把握</p> <p>(2) 看護師と共に対象の反応に呼応しながら実践</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の把握</p> <p>②状況に応じた修正</p> <p>(3) 看護師と共に対象の反応や変化を解釈する</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の意味づけ</p> <p>②日常生活援助の継続が可能かどうかの検討</p> <p>(4) 対象に実施した日常生活援助の振り返りおよび追加・修正</p> <p>①対象のニーズを基にした看護の必要性</p> <p>②対象にあわせた援助の工夫（方法・手順等・全面介助・部分介助・見守り）</p> <p>③対象の希望を取り入れる</p> <p>④実施後の客観的評価と主観的評価の記録を踏まえた改善策</p> <p>7) 看護者と対象の信頼関係の構築について自分の考えを述べる</p> <p>(1) 対象のニーズを充たす援助を通して徐々に信頼関係を築いていくことの重要性</p>
3. 看護者として必要な態度を養うことができる	<p>1) 相手（患者・家族・指導者）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 疑問を放置しない姿勢 (技術練習・文献検索) (3) 振り返り会の積極的な参加 (4) 期限の厳守 (提出物・約束等) (5) 体調管理 3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の自分の役割の遂行 (リーダーシップ・メンバーシップ) 4) 安全への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 個人情報の管理 5) 自己の実践を振り返りと意味づけ—看護観の形成につなげる— (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしたい看護の明確化

3. 基礎看護学実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 対象を理解するために必要な情報を収集する
- (2) 情報を解釈・分析し看護上の問題点を明確にする
- (3) 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する
- (4) 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する
- (5) 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する
- (6) 看護者として必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第1学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	80H	9:00~16:00 (8時間/日) 8:45 までに出席・健康状態を報告する 8:55 までに実習場所へ到着する 12:00~13:00 休憩 15:30~16:00 振り返り
実践活動外学習時間	10H	16:00~16:45 (1時間/日) 文献検索・技術練習・記録整理

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象を理解するために必要な情報を収集する	1) 情報源を選択し収集できる 2) 必要な方法を用いて情報を収集できる (1) 観察 (フィジカルイグザミネーション) (2) コミュニケーション

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 情報の種類を分類できる (1) 情報の種類 主観的データ (S) 客観的データ (O) (2) 情報の分類 ①アセスメントの枠組み (ゴートン: 機能的健康パターン) 4) 経過に応じて情報を整理できる (1) 経過の段階・種類
2. 情報を解釈・分析し、看護上の問題点を明確にする	1) 情報を整理し、分析できる (1) 現状の把握 ①情報の整理 (2) 現状を引き起こしている原因の分析 ①健康逸脱の有無と解釈 ②強みの把握 2) 成り行きを推論し、判断できる 3) 看護の必要性を述べる 4) 全体像を把握できる (1) 情報と情報との関連性 (2) 領域間の同一情報の総合 5) 看護上の問題を抽出できる (1) 実在型 (2) リスク型 6) 優先度を判断できる (1) 生命の維持に関連すること (2) 緊急性が高いこと (3) 苦痛に感じていること (4) 価値観による
3. 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する	1) 目標を設定できる (1) 長期目標・短期目標の設定 (2) 対象を主語にした目標設定 (3) 具体的に観察でき測定可能な目標 2) 計画を立案できる (1) 観察計画・ケア計画・教育計画 (2) 安全・安楽・自立性の考慮 (3) 具体的に 4W1H で表現
4. 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する	1) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助を実施できる 2) 対象の反応を確認しながら実施できる 3) 援助技術の安全性・安楽性・自立性の原則に基づいて実施できる 4) 日常生活援助を実施できる (1) 食事の援助 (2) 排泄の援助 (3) 清潔の援助 (4) 環境への援助 (5) 移動・移送への援助 5) 精神的、社会的側面の援助を述べる (1) 不安の緩和 (2) 社会的役割、家族を考慮した関わり (3) 家族への配慮
5. 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する	1) 実施した看護を評価できる (1) 実施可能かどうかの判断 (2) 実施前の計画の見直し (追加修正) (3) 対象の反応の観察 (4) 安全・安楽・自立性の考慮 (5) プライバシーの保護 (倫理的配慮) (6) 目標達成の有無と判断 2) 目標の達成度を評価できる (1) 目標達成の状況 (2) 評価レベル (3) 目標達成または、目標達成に至らなかった状況の考察

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 追加または修正できる (1) 新たな情報の追加 (2) 新たな看護上の問題の追加 (3) 短期目標・長期目標の修正 (4) 具体策の修正
6. 看護者として必要な態度を養うことができる	1) 相手（患者・家族・医師・看護師・指導者）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（技術練習・文献検索） (3) カフェニス・振り返り会等の積極的な参加 (4) 期限の厳守（提出物・約束等） (5) 体調管理 3) チームワークを考えた行動 (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） 4) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 事故を起こすリスクを考えた行動 (4) 個人情報の管理 5) 自己の実践の振り返りと意味づけ：看護観の形成につなげる (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護師像）

※ 看護過程の展開は1事例で行う。2事例以降は実習目標が達成できるように学習課題を明確にして取り組む。

地域・在宅看護論実習の考え方

地域・在宅看護論実習は、専門分野の位置づけであり、地域・在宅看護論実習Ⅰ～Ⅲで構成される。

1年次の地域・在宅看護論実習Ⅰは、地域への関心を高める実習として、実際に地域で暮らす市民の生活などに参加して地域の人々がどのような生活をしているのか理解する。2年次の地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域包括ケアシステムを構成する施設について授業でまとめた内容を地域に出て展開する。3年次の地域・在宅看護論実習Ⅲは、地域で生活する在宅療養者や家族を含めてあらゆる発達段階の人を対象とし、地域で展開している場での継続看護（訪問看護ステーション）、社会資源である病院・施設でのケア・サービス、介護支援センター、居宅介護支援事業所など地域の実情に合わせた実習を展開する。この中で、居宅から病院、病院から居宅への看護の継続性や多職種との連携を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	宿泊体験における交流を通して、地域住民の生活・思いを知り、自分たちにできることを考え実行する
地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	45	地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを理解し、通所・入所施設を利用する地域の人々との交流を通し、看護師の役割を学ぶ
地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	90	疾病や障害を抱えながら在宅の場で生活している療養者及び家族を総合的に理解し、健康管理と生活を支援するための基礎的知識・技術・態度を養う

1. 地域・在宅看護論実習Ⅰ

1) 実習目標

- (1) 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る
- (2) 地域住民のためにできることを考える
- (3) 看護者としての必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1年次 第1学期～第2学期（1泊2日×2回、まとめの会1日の計5日間）

	宿泊1回目	宿泊2回目	まとめの会
期間	第1学期	第2学期	第2学期

- (2) 実習場所：浜田市周辺の民泊施設、看護学校5階講堂

- (3) 実習時間：45時間（1単位）実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	30	7.5時間/日、1泊2日で15時間	1泊2日×2回
実践活動外 学習時間	15	2	実習村エンターション
		4	事前準備
		5	まとめの会準備
		4	まとめの会（地域の人々と一緒に）

- (4) 臨地実習1泊2日（7.5時間の詳細）

時刻	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00
1日目	学校集合（8:50）		準備	昼食	対面式・出発	共同調理・食事	交流・入浴等	就寝		
2日目	起床 朝食 活動 出発（11:00）				振り返り・まとめ					

3) 学習内容

実習目標	行動目標／学習内容
1. 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る	1) 地域住民の生活環境を知る (1) 家族形態 (2) 交通 (3) 買い物 (4) 医療 (5) 冠婚葬祭 (6) 人との交流 (7) 生活共同体としてのコミュニティ (8) 地域風土 2) 地域住民の思いを知る (1) 価値観 (2) 地域への思い (3) 健康管理 (4) 生活上の問題 (5) 行政や医療・福祉への期待・要望 3) 地域住民の生活にみられる変化を述べる (2回の宿泊体験を通して理解する)
2. 地域住民のためにできることを考える	1) 対象にどのようなニーズがあるのか知る 2) 対象のニーズに沿って自分にできることを考える
3. 看護者として必要な態度を養う	1) 対象を尊重する態度ができる 2) 主体的な学習ができる 3) チームワークがとれる 4) 感染対策など保健行動がとれる (医療安全に対する配慮ができる) 5) 対象の反応をとらえ、自己の経験を振り返り意味づけをする (自己の看護観を明確にできる)

2. 地域・在宅看護論実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る
- (2) 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る
- (3) 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (4) 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (5) 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る
- (6) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第1学期

(2) 実習場所

浜田市支所、浜田市社会福祉協議会、特別養護老人ホーム偕生園、
複合型小規模多機能施設ほっとの家、デイサービス やまもの家、養護老人ホーム寿光苑

- (3) 実習施設の組み合わせ一覧 (実習要綱参照)

- (4) 実習時間：45時間 (1単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習①社会福祉協議会	5	8：30～12：15 (5時間/日)
臨地実習②その他3施設	27	9：00～16：45 (9時間/日)
実践活動外学習時間	1	9：00～9：45 (1時間/日) 実習オリエンテーション
	4	9：00～12：00 まとめの会準備①
	4	13：00～16：00 まとめの会準備②
	4	13：00～16：00 (4時間/日) まとめの会

3) 実習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る	1) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしての社会保障制度 (1) 療養者と家族を支える社会保障制度 ① 社会保障制度の中の医療保険制度、介護保険制度 ② 医療保険制度 被用者保険(職域保険)、国民健康保険(地域保険)、後期高齢者医療制度 ③ 介護保険制度 保険者(市町村：特別区を含む)と被保険者(第1号、第2号被保険者) 介護保険法で定める16特定疾病 2) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしてのフォーマル・インフォーマルな活動
2. 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る	1) 地域包括ケアシステムの構築に関わる施設 (1) 行政関連施設 (2) 社会福祉協議会 (3) <u>通所施設サービスと目的</u> 通所リハビリテーション(デイケア)、通所介護(デイサービス)、地域密着型通所介護、療養通所介護、認知症対応型通所介護 (4) <u>入所施設サービスと目的</u> 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設(老健)、介護療養型医療施設、特定施設入居者生活介護施設(有料老人ホーム、軽費老人ホーム)、介護医療院 (5) <u>訪問・通所・宿泊を組み合わせたサービスと目的</u> 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)、短期入所生活介護(ショートステイ)、短期入所療養介護 2) 多職種連携と看護師の役割 (1) 利用者を支える人々と各職種の強み ① <u>医療専門職</u> 医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・栄養士・保健師・助産師 ② <u>福祉専門職</u> 介護支援専門員(ケアマネジャー)・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・訪問介護員(ホームヘルパー) (2) 多職種連携の中で求められる看護師の役割 ① 情報共有の場や人脈づくり ② 看護師として情報を把握することの意味 ③ 住み慣れた地域でのシームレスなケアの提供 ④ 支えられる存在としての看護師
3. 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 通所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる
4. 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 入所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる

実習目標	行動目標/学習内容
5. 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る	<p>1) ライフステージによる健康問題と予防</p> <p>(1) 子どもの健康問題と予防 (2) 青年期・壮年期の健康問題と予防</p> <p>(3) 妊娠・出産をめぐる健康問題と予防 (4) 老年期の健康問題と予防</p> <p>2) 健康問題と予防に関わる職種と役割</p> <p>(1) 地域包括支援センターの役割 関連職種：主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)、保健師、社会福祉士 役割：介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>(2) 社会福祉協議会の役割 関連職種：民生委員、児童委員、福祉委員、町内会長 役割：地域福祉活動・地域づくり(サロン等交流の場、見守り活動等) 相談支援、権利擁護(福祉総合相談・専門相談、日常生活支援事業等) 介護予防、介護・生活支援サービス</p>
6. 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)	<p>1) 相手(患者・家族・医師・看護師・多職種)を尊重し思いやる態度</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求</p> <p>2) 学習に対する主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み(看護技術の自己研鑽・文献検索)</p> <p>(3) カンファレンス・振り返り会等の積極的な参加 (他者の意見を受け止め、自己の考えを表現)</p> <p>(4) 期限の厳守(提出物・約束事)</p> <p>(5) 体調管理</p> <p>(6) 批判的思考</p> <p>3) チームワーク</p> <p>(1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内の相互の役割調整</p> <p>4) 安全管理への配慮</p> <p>(1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換</p> <p>(3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動</p> <p>(5) 個人情報管理</p> <p>5) 自己の看護観の明確化 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)</p>

3. 地域・在宅看護論実習Ⅲ

1) 実習目標

- (1) 継続した医療管理やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる
- (2) 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる
- (3) 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る
- (4) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第2学期～3年次
- (2) 実習場所
 浜田医療センター地域連携室
 診療所(国民健康保険弥栄診療所、国民健康保険あさひ診療所、国民健康保険波佐診療所)
 訪問看護ステーション(訪問看護ステーション浜田、訪問看護ステーションそよかぜの丘、高砂訪問看護ステーション)

(3) 実習時間：90 時間（2 単位） 実習 1 単位時間：45 分

実習場所	時間数/日	実習時間帯	備考
診療所実習	9 時間 (6 時間 45 分)	9：30～17：15（振り返り 30 分含む）	利用する公共交通機関によつて実習時間帯を調整する
地域連携室	9 時間 (6 時間 45 分)	9：00～15：30（振り返り 30 分含む） 15：30～16：45（実践活動外学習時間）	15 時 30 分以降、学びのまとめと訪問看護ステーション実習の準備を行う
訪問看護ステーション	9 時間 (6 時間 45 分)	8：30～16：15	現地集合・現地解散とする
実践活動外学習時間	9 時間 (6 時間 45 分)	9：00～16：45	

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 継続した医療やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる	<p>1) 疾病や障害を抱えながら生活している療養者と家族の身体的・精神的・社会的側面に関する情報を得て整理する</p> <p>(1) 療養者の生活環境（居住地域の環境、住宅および居室の環境）</p> <p>(2) 療養者や家族の思いやエピソード</p> <p>(3) 療養者と家族の関係性（ジェノグラム[®]の活用）</p> <p>(4) 療養者の生活リズム・スケジュール</p> <p>(5) 療養者の健康状態</p> <p>既往歴・現病歴・治療方針・内服薬・心身の状況や基本的日常生活動作(ADL) 障害高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～C2）</p> <p>認知症高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～M）</p> <p>2) 療養者や家族が地域包括ケアシステムの中でどのように継続した医療やケアを受けているのか関連性を整理し述べる</p> <p>(1) 生活支援・介護予防的側面 (2) 医療的側面</p> <p>(3) 看護的側面 (4) 介護的側面</p> <p>3) 療養者や家族の生活を「自助」「互助」「共助」「公助」の視点で捉え整理する</p> <p>4) 看護師に相談しながら訪問看護に至るまでの準備・調整を行う</p> <p>5) 看護師の訪問看護に同行し療養者と家族を支援する看護を共に実践する</p> <p>6) 療養者や家族の些細な変化にも気づき、先を見越して対応する看護師の臨床判断に関する自己の学びをまとめる</p> <p>(1) 療養の場におけるフィジカルアセスメント・症状別アセスメント（訪問看護師による臨床判断）</p> <p>(2) 療養の場における看護ケア（ケアの実際・ケア方法の指導）</p> <p>(3) 療養者や家族に対する継続看護がどのように実践されているのか述べる</p>
2. 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる	<p>1) 療養者や家族がどのように社会制度を利用しながら在宅療養生活を継続しているのか具体的に述べる</p> <p>(1) 療養を支える人々・施設</p> <p>地域連携室の役割（前方連携・後方連携）の実際、看護の継続性の意味</p> <p>(2) 活用しているサービス（エコマップ[®]の活用）</p> <p>(3) 地域の社会資源の把握と情報提供</p> <p>(4) 諸手続きの支援</p> <p>2) 療養者と家族を支える多職種との情報共有の在り方について述べる</p> <p>(1) 多職種との連絡・調整</p> <p>3) 地域で生活する療養者と家族を支える看護師の役割について述べる</p>
3. 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る	<p>1) 中山間地域におけるプライマリ・ケア（ACCCA を基盤とする）</p> <p>(1) 療養者の抱える問題への対処 (2) 継続的なパートナーシップ</p> <p>(3) 最初の第一線の関わり (4) 療養者の総合的な捉え方</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 地域の病院、施設との連携 (1) 中山間地域における診療所の役割 (2) 地域の医療機関との情報共有 (まめネット)
4. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・看護師・他職種) を尊重し思いやること (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求 2) 学習に対して主体的に取り組むこと (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(研究的視点・他の研究成果の活用) (3) カンファレンス・振り返り会への積極的な参加(他者の価値観を受け止め、自己の考えを表現) (4) 期限の厳守(提出物・約束事) (5) 体調管理 (6) 批判的思考 3) 報告・連絡・相談ができる (1) 報告・連絡・相談の必要性の理解 (2) 困難な状況時の応援要請 (3) タイムリーな報告・連絡・相談 4) チームワークを考えた行動がとれる (1) グループ内での情報共有 (2) 他者の状況の把握 (3) リーダーシップ・メンバーシップ 5) 安全への配慮ができる (1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (5) 個人情報管理 6) 自己の実習を振り返り、課題を明確にできる 大切にしていきたい看護について自分の考えを表現する (目指す看護師像・自分と向き合うことで見えた課題解決のための具体的行動)

成人・老年看護学実習の考え方

「成人・老年看護学実習」は、成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）、成人・老年看護学実習（急性・回復期）、成人・老年看護学実習（慢性期）、成人・老年看護学実習（終末期）で構成した。また、対象の全体像を把握し、科学的な判断力や問題解決能力を養う内容とした。成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）の考え方は、健康障害を持つ成人・老年期にある対象のQOLに着目した個別性のある看護が提供できることを目指して、慢性期にある成人・老年期の対象の看護過程を展開し、生活者の視点から回復を促す看護の実践を学ぶ内容とした。成人・老年看護学実習（急性・回復期）（慢性期）（終末期）では、成人・老年期にある対象の個別性を踏まえた看護を提供できることを目指し、各実習を健康段階別にⅠ～Ⅳ組み立て対象の特徴に応じた看護を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
成人・老年看護学実習Ⅰ (対象理解/看護過程の展開)	2	90	健康障害のある成人・老年期の特徴をとらえて病態や治療計画を理解し、生活者としての視点から対象の健康を維持・向上する看護が実践できる基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	2	90	健康障害を持つ成人期にある患者および家族を総合的に理解し、急性期から回復期の看護が実践できる基礎的能力を養う
成人・老年看護学実習Ⅲ (慢性期)	2	90	成人・老年期で慢性的過程にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅳ (終末期)	2	90	成人・老年期の終末期にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける

1. 成人・老年看護学実習Ⅰ（対象理解／看護過程の展開）

1) 実習目標

- (1) 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる
- (2) 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる
- (3) 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる
- (4) 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる
- (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	備考
実習前準備	—	8:30～ 9:00	健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00 (8時間/日)	8:55までに実習場所へ到着する 12:00～13:00 休憩（食事介助、検査の見学などで変更可） 1日目：9～15時、午前刈エンターション、受け持ち患者紹介、情報収集
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける 臨地でのカンファレンスは16:45まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる	1) 入院までの健康状態を述べる 健康に対する意識・既往歴・健康管理行動 2) 入院前の生活状況を述べる 生活背景・生活習慣・生活史・居住環境 3) 入院から現在までの健康障害を述べる 現疾患の治療状況の把握・実在型の合併症の把握 4) 健康障害のある成人・老年期にある対象の身体的側面を述べる 症状に関連する要因・症状体験の理解・症状の種類や性質・主観的客観的情報の適時観察・症状に伴う生活上の支障（防衛力・予備力・適応力・回復力） 5) 健康障害のある成人・老年期にある対象の精神的側面を述べる 病気の受け止め方・本人と家族が抱えるストレス・価値観・強み・問題認識 6) 健康障害のある成人・老年期にある対象の社会的側面を述べる 家族との関係性・役割の遂行状態・経済状況・介護力
2. 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる	1) 健康障害や加齢に応じたコミュニケーション方法を実践する 対象の考えや思いや価値観に配慮し尊重する姿勢・目標や関心事等の共有・看護者のまなざしや声掛けやタッチング・対話と共感・対象に応じた声の大きさや言葉遣い 2) 健康障害や加齢に伴う ADL・IADL を考慮した日常生活の援助を実践する ADL と IADL の把握・日常生活動作の改善や向上への援助 3) 安全な環境調整と危険防止の援助を実践する 外的要因と内的要因に応じた環境調整・見守りの意味・対象へ配慮した援助の工夫 4) 対象の思いに考慮した援助を述べる 対象のニーズや強み、〇〇したいという意欲や自立
3. 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる	1) 治療・検査・処置が対象に与える影響を述べる 治療への参加態度・今後予測される症状の変化・治療目的の把握・治療効果のモニタリング 2) 対象にとって安全安楽な治療・検査・処置の援助を実践する 合併症予防の実践・病状の安定化への援助
4. 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる	1) 対象とその家族の今後の生活に向けた援助を述べる 日常生活の規制とその受け止め方・セルフケアや症状マネジメントの把握と援助の理解 2) 対象に必要な退院支援を述べる 退院先の把握（自宅・施設）・療養の場に応じた医療やケアの把握
5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）	1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェリス・振り返り会等の積極的な意見（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事）

実習目標	行動目標/学習内容
	3) 報告・連絡・相談 (1)自分の行動を言語化する (2)要点を整理して伝える (3)相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4)タイムリーに報告する (5)連絡することにより情報を共有する (6)気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 (1) チーム内の相互の役割調整 (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)

2. 成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)

1) 実習目標

- | | | |
|---|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 合併症予防のための観察ができる (2) 自己管理に向けた看護援助について述べる (3) 手術室の看護の実際を述べる：手術室 (4) 生命の危機的状況にある患者・家族の看護の実際を述べる：救急外来・救命救急センター (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる (共通目標) | } | 病棟 |
|---|---|----|

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次 (詳細は学生配置表参照)
- (2) 実習場所：浜田医療センター 3階北病棟・3階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80H	9:00～16:00 (8時間/日)	1日目～10日目 受け持ち患者の看護、手術室・救命救急センター実習 ※臨地でのカンファレンス等は16:45まで実施可 ※手術室実習は最大18:00まで実施可
実践活動外 学習時間	10H	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理・文献学習・技術演習・カンファレンス準備・教員からの指導

※6日目以降にカンファレンス、最終日に振り返り会実施予定。救命救急センターでの実習は手術見学等のスケジュールを考慮して調整。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 合併症予防のための観察ができる	1) 手術前から合併症を予測した情報収集ができる (1) 手術前検査 (2) 既往歴 (3) 対象の手術に対する心理 2) 収集したデータを基に合併症リスクを予測できる (1) 手術侵襲における生体反応 (ムア)の分類 (2) 呼吸・循環・意識・創部・消化管への影響 3) 精神的に安定した状態で手術が受けられるよう援助できる (1) 手術・麻酔に対する受け止め、理解度の把握 (2) 不安・恐怖心の軽減 (3) ホテイイメージ変容に対する支援 4) 術後の経過に合わせた観察ができる (1) 術後のフィジカルアセスメント (2) ドレイン排液・点滴・チューブ類の観察 ①異常の早期発見・予知 ②系統的・継続的な観察と記録 ③多面的な観察からの患者のニーズの予測 ④安全・安楽・安心のケア 5) 観察結果を基に術後合併症のアセスメントができる (1) 急性疼痛の弊害：身体への影響・心理社会的側面への影響 (2) 検査データ・薬物動態 (3) ADLアセスメント 6) 術後合併症予防のための援助を実施できる (1) 症状・合併症予防の援助 ①呼吸循環動態の維持・促進 ②術後合併症および廃用性症候群の予防(術後出血・循環器合併症・呼吸器合併症・感染症・廃用症候群) ③治療箇所の治癒促進および負担の軽減 ④苦痛緩和と安楽・安心の促進 (2) 創傷管理 ①薬理学的方法による鎮痛ケア ②疼痛の影響要因をコントロールする看護技術 (3) ドレイン管理 (4) 清潔操作
2. 自己管理に向けた看護援助について述べる	1) 患者・家族の入院前の生活状況を述べる (1) 生活スタイル・社会的立場・入院前の役割 (2) キーパーソン・ソーシャルサポートの有無 2) 患者・家族の形態変化や機能障害に対する適応への援助についての必要性和実践方法を述べる (1) 回復促進のための援助 ①酸素化の促進 (2) 栄養管理 ③体液バランスの管理 (4) 感染予防 (2) 日常生活再構築のためのリハビリテーション促進の援助 (呼吸・循環・運動器・消化器への影響) 3) 患者・家族の心理的状況を考慮した看護援助を述べる (1) 精神活動への影響 (2) ホテイイメージの受容状況
3. 手術室の看護の実際を述べる	1) 手術室における安全管理の実際を述べる (1) 患者の確認 (2) 手術部位の確認

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (3) 安全な移乗・移送 (4) 器械・器具、ガーゼの確実な確認 (5) 標本の正しい取り扱い (6) 無菌操作 (7) 他職種との連携 2) 手術侵襲が患者に及ぼす影響を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 麻酔導入時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①全身麻酔・硬膜外麻酔・脊椎麻酔の介助 ②気管挿管の介助 ③麻酔導入時のバイタルサイン変動の観察と対応 (2) 手術中の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①手術中のバイタルサイン変動の観察方法（モニター・触知） ②手術中の変動に対する援助 ③手術中の体位と注意点 (3) 麻酔覚醒時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①麻酔覚醒時の観察 ②麻酔覚醒後手術室退室までの身体観察と援助 (4) 病棟への引継ぎ（申し送り）
<p>4. 生命の危機的状況にある患者・家族への看護の実際を述べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 救急外来の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 搬入患者の特徴 (2) 初期情報からのアセスメント・トリアージ (3) 治療環境・物品管理 2) 集中治療を受ける患者の看護の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者の身体的特徴、心理・社会的特徴 (2) 意識レベル・フィジカルアセスメントや援助実施における観察 (3) 生命の危機的状況にある患者・家族の心理への支援 <ul style="list-style-type: none"> ①家族の特徴 ②危機的状況への支援・意思決定支援
<p>5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3) 報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える

実習目標	行動目標/学習内容
	5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

3. 成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期）

1) 実習目標

- (1) 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する
- (2) 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる
- (3) 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する
- (4) 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる
- (5) 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階南病棟・5階北病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する 1日目：9:00～15:00 午前オリエンテーション、受け持ち患者紹介、情報収集 休憩は12:00～13:00（見学や援助により時間調整可）
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45（1時間/日）	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける、 臨地でのカンファレンスは16:45まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する	1) 対象の不可逆的な病態の変化による健康障害の理解ができる (1) 入院までの状態 (2) 入院前の生活状況 (3) 入院から現在までの健康障害に対する治療過程・回復状態を述べる (4) 現在の状態（検査の結果）などから、増悪した場合のリスクを予測する (5) 身体に加齢変化

	<ul style="list-style-type: none"> (6) 残存機能 (7) 身体的 ADL/手段的 ADL (8) 検査・治療内容 <p>2) 対象が長期にわたる健康障害をどのように受け止めているかについて理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 役割喪失による無力感 (2) 孤独感 (3) 生きがい (4) 家族の支え (5) 発達課題 <p>3) 長期にわたる健康障害が社会的役割に与える影響の理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会での役割 (2) 家族関係 (3) キーパーツの有無 (4) 対人関係 (5) 家屋の状況 (6) 生活環境 (7) 入院前の社会資源の利用状況
2. 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる	<p>1) 健康障害に伴う日常生活の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状・治療に伴う日常生活の援助 (2) 運動機能障害に伴う日常生活の援助 (3) 侵襲の大きい治療に伴う日常生活の援助 (4) QOL を考えた援助 <p>2) 慢性期疾患に関連する合併症予防の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状の進行に伴う合併症の予防 (2) 治療に伴う二次合併症予防 (3) 廃用症候群の予防 <p>3) 安全の確保ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 転倒・転落予防 (2) 誤嚥・窒息予防 (3) せん妄の対応 (4) 認知症の対応
3. 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する	<p>1) 長期にわたり疾病のコントロールが必要となる対象・家族の障害受容段階がわかる</p> <p>2) 対象・家族の障害受容の段階に応じた支援方法がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 傾聴、受容、共感的態度 (2) ストレンガス・エンパワメント <p>3) 対象の想いを表出する支援がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 対象自らどのようにしたいのかを考える機会の提供 <p>4) 自己決定への支援がわかる</p>
4. 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる	<p>1) 社会復帰に向けた自己管理能力拡大への援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自立度に応じた日常生活の指導 (2) 自己モニタリングの方法を指導 (3) 動機づけを考慮した指導（アット・ラゴジー・自己効力感・行動変容モデル） <p>2) 対象に合わせた指導・教育・援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)セルフケア能力に合わせた援助の内容・方法
5. 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する	<p>1) 退院後、生活能力を維持し日常生活が継続できるための援助がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 継続看護（外来・在宅・施設） (2) 退院支援に向けての関連職種（ソーシャルワーカー・ケアマネジャー・退院調整看護師 他） (3) 関連職種との連携の必要性とその内容 (4) 活用可能な社会資源・経済支援のための制度
6. 看護者として必要な態度を養うことが出来る（共通目標）	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習

	<ul style="list-style-type: none"> (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見(他社の意見を受け止め自己の考えを表現) (5) 期限の厳守（提出物・約束事） <p>3) 報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する <p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（リスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）
--	--

4. 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期）

1) 実習目標

- (1) 対象が持つ全人的苦痛とは身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる
- (2) 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助を実施することができる
- (3) QOLを考慮した日常生活援助を看護師と共に実施することができる
- (4) 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる
- (5) チームアプローチの実際と調整役としての看護の役割がわかる
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
		8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45(1時間/日)	記録整理・文献検索・技術演習・カンファレンス 臨地でのカンファレンス等は15:30以降に設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/指導内容
1. 対象が持つ全人的苦痛とは、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる	1) 身体的側面を述べる (1) 病態と予後 (2) 症状の有無と程度 (3) 対象の基本的ニーズとその逸脱 (4) 治療・処置・検査の目的 (5) 症状マネジメント 2) 精神的側面を述べる (1) 告知の有無と心理的影響 (2) インフォームド・コンセント (3) 対象の疾患や症状に対する受け止め (4) 死の受容過程 3) 社会的側面を述べる (1) 社会的役割の変化 (家庭・職場・地 (2) 家族間の人間関係 (3) 経済的問題の有無 (4) 医療者と家族との関係 4) スピリチュアルな側面を述べる (1) 対象の生と死に関する考え方 (死生観) (2) 信仰 (宗教)、個人の信念、ライフスタイル、生きがい、価値観
2. 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助が実施できる	1) 身体的苦痛の援助、精神的苦痛の援助、社会的苦痛の援助、スピリチュアルな苦痛に気づき援助が実施できる 2) 危篤時、看取りの援助が理解できる (1) 急変時・看取り時の身体変化の理解と気づき (対象および家族の希望) (2) 急変時・看取り時の援助 (対象および家族の希望) 3) 安全を考慮した援助を実施する (1) 転倒・転落予防 (2) 窒息予防 (3) 皮膚損傷予防
3. 対象の希望を考慮した日常生活援助を看護師と共に実施できる	1) 対象の希望、生きがい、その人らしさを考慮した日常生活援助を計画できる (1) 食事の意味を考慮した援助 (2) 排泄の援助、尊厳への配慮 (3) 清潔・整容の援助 (4) 睡眠の確保 (5) 物理的・人的環境の調整 2) 対象の希望、生きがい、その人らしさを踏まえた援助が実施できる
4. 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる	1) 対象、家族が大切にされていることの理解ができる 2) 対象と家族を尊重した態度がとれる 3) 家族の疾患や症状に対する受け止めが把握できる 4) 対象と家族の心理過程に応じた援助が実施できる (1) キューパー・ロス、アギェラ、メズィック (2) グリーフケア
5. チームアプローチの実際と調整役としての看護師の役割が理解できる	1) 対象、家族へのチームアプローチの実際が分かり、調整役としての看護師の役割が理解できる (1) 病棟内でのカンファレンスにおける看護師の役割 (2) 他職種での回診における看護師の役割
6. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・医師・看護師) を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み

実習目標	行動目標/指導内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェニス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3) 報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

小児看護学実習の考え方

「小児看護学実習」では、実際に子どもと接し、健康な小児の理解と健康障害を持つ小児の看護が展開できることを目的とし学習をすすめる。「保育所実習」では、地域の中で生活する小児を成長発達の見点で理解し、保育の実際を通して基本的な生活習慣や社会性の発達を促す援助方法を学ぶ内容とした。「小児病棟実習」では疾病あるいは障害をもつ小児およびその家族との関係の持ち方を学ぶ内容とした。更に、疾病・障害、入院が小児およびその家族に及ぼす影響を理解し、看護に必要な観察、アセスメントを行い小児とその家族に必要な援助を判断した上で援助の実際について学ぶ内容とした。実習を通して、小児をとりまく保健・医療・福祉の連携の中で小児看護にはどのような役割があるのかを学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
小児看護学実習	2	90	子ども及び家族に対して成長・発達段階、健康段階に応じた看護が実践できる

小児看護学実習

1) 実習目標

- (1) 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる
- (2) 成長発達段階に応じた基本的な生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる
- (3) 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる
- (4) 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる
- (5) 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる
- (6) 子どもが利用できる社会資源を理解できる
- (7) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

(1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）

(2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 小児科外来 保育所

<保育所 施設内訳>

施設	住所	電話番号
社会福祉法人さくら会 みのり保育園	〒697-0034 浜田市相生町1392-11	0855-23-5686
社会福祉法人さくら会 みのり第2保育園	〒697-0034 浜田市相生町3973-5	0855-25-7771
おおぞら保育園（浜田医療センター内）	〒697-8512 浜田市浅井町777-12	内線6700

(3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	保育所	40 9:00～16:00（8時間/日） ※3,4日目は15:30移動し帰校する。
	病棟・外来	40 9:00～16:00（8時間/日） <外来 火・金> 13:00～16:00（3時間）2日間 ※それ以外の基本は病棟実習、入院患者不在時は外来実習とする
実践活動外学習時間	10 16:00～16:45（1時間/日）	・実習振り返り、学びの共有 ・明日の看護の方向性の明確化 ・健康教育の準備・デモスト

※基本は保育所実習の後、小児病棟・外来実習とする。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
<p>1. 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる</p>	<p>1) 子どもの成長・発達段階を理解する</p> <p>(1) 身体(形態・機能的)発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体(形態)の発達 身長・体重、身体(機能)のバランス・身体発育の評価/・骨、歯の発達 ・パーセンタイル値、カブ指数、ロール指数 <p>(2) 精神・運動・感覚機能的発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂日本版デューク式発達スクリーニング検査 <p>(3) 知的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアジェの認知発達理論 (乳幼児期：感覚運動位相、前操作位相) ・コミュニケーション機能 <p>(4) 情緒・社会的特徴と発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成と分離不安、性差 ・自律性・自発性 エリクソン自我発達理論(乳幼児期：基本的信頼感対不信感、自律感対恥・疑惑、積極性対罪悪感) <p>2) 子どもの日常生活状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の自立段階 (食事、排泄、清潔、更衣、睡眠)、遊び、学習 <p>3) 子どもに対する家族の関わり方を知り、現在の子どもの状況と関連づけられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウルビエのアタッチメント理論 (愛着形成)、マラーの分離-固体化理論 ・生育歴(親子関係)から生じる問題
<p>2. 成長発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる</p>	<p>1) 成長発達段階と病状に応じた関わりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病状に配慮したコミュニケーション方法・説明の工夫 ・必要な休息を含めた生活のリズムの考慮 <p>2) フィジカルアセスメントを行い、全身状態を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な計測・観察 <p>3) 子どもと家族にとって、最適な生活環境の調整をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保、環境整備、家族の協力を得る ・プライバシーの保護、安心できる環境の工夫 <p>4) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助を実施する</p> <p>(1) 基本的生活習慣の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活行動の把握 ・生活環境の把握・活動と休息の一日の流れとしての捉え ・生活環境 (保育所の規則・行事・日課) <p>(2) 発達段階に応じた基本的生活習慣の確立への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事 (食事の調理形態、必要摂取量、アレルギー) と食行動 ・おやつ(間食)の意義・工夫 ・排泄行動、トイレトレーニングの関わり ・清潔行動・衣服の着脱、感染予防など ・睡眠 (レム、ノンレム、午睡) ・休息と活動・運動 <p>(3) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事、排泄、睡眠、清潔、更衣、遊び、学習 <p>(4) 成長発達段階に応じた遊びや学習の援助の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの意義 ・遊びと成長発達の関連 成長・発達段階に応じた遊び ・遊びの内容・遊具玩具の選択 想像・発想力、興味関心の広がり、遊びと社会性の発達 ・友達・保育士・他の人との関係と関わりへの反応

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>子ども間のトラブルと対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への情報提供・依頼
<p>3. 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期に起こる事故の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故の起きやすい場所・原因 <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境（保育所の構造・施設・設備） ・発達上の特性 (2) 事故の危険性を把握し、安全に対する配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境 ・物的環境 ・人的環境 (3) 施設が行っている安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・外部侵入者への対策 ・園外保育時の危険性と対策 2) 成長発達段階、健康レベルに応じた事故防止の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・保育、病室環境の整備（危険物の除去、寝具の整理整頓） ・危険な行動の説明 ・家族への説明、指導 3) 感染予防の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードプリコーション 4) 健康の保持増進のための支援（健康教育）を実施する <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康状態の把握と対処方法の理解 (2) 健康管理の必要性の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く諸環境 ・育児不安 ・事故(誤飲、窒息、転倒・転落、交通事故など) ・不適応行動 ・感染 ・アレルギー（アレルギー性疾患、ハウスダストなど） (3) 健康教育の実施の振り返りと改善
<p>4. 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病状と行われている診療内容を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤の用量の算出含む 2) 健康障害・入院による環境の変化とその影響について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害や診療・入院が子どもと家族・きょうだいに及ぼす影響 ・健康障害の経過による特徴 ・入院前の生活からの変化と問題 3) 子どもや家族が示している苦痛とその原因を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害・入院を子どもと家族がどのように受け止めているかを理解する ・子どもの苦痛の捉え方（痛みなどの症状・活動制限による苦痛・不安） 4) 小児看護の視点から対象の状況を分析し理解する <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理、アセスメント 5) 看護上の問題点を把握し、看護計画を立案・評価・修正する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害の経過による特徴をふまえた援助計画 ・痛みなどの症状・活動制限・不安緩和と安楽への援助計画
<p>5. 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもに説明、了解を得てから行動し小児の基本的権利を尊重した関わりができる <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護実践における小児の権利と擁護の援助 (2) 治療・検査・処置の援助方法と配慮を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーション、インフォームドコンセント、インフォームドアセント ・デストラクション

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心のための工夫 ・患児・家族への細やかな説明と納得 ・患児・家族の治療参加を促す <p>(2) 関わりが子どもにどのような影響を与えるかを考える</p> <p>1) 家族や周囲の大人が関わった時の子どもの反応の理由・意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに与える影響：安心、学習（しつけ）、意欲など ・家族の小児に対する思いに対する配慮
<p>6. 子どもが利用できる社会資源を理解できる</p>	<p>1) 子どもを守り支える法律・制度、事業、施設などの社会資源を理解する</p> <p>(1) 継続看護の意義 外来との連携</p> <p>(2) 他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センター（県） ・保健センター（市町村）、学童保育、放課後デイケア、病児、病後児保育 ・児童相談所 ・学校・保育園 <p>(3) 小児を保護する法律と保健対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・母子保健法（養育医療） ・予防接種法 ・障害者総合支援法 ・小児慢性特定疾患治療研究事業 小児慢性特定疾患
<p>7. 看護者として必要な態度を養うことができる (共通目標)</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師・多職種）を尊重し思いやることができる</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>(5) 乳幼児を尊重し、思いやりの姿勢をもったコミュニケーションがとれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースに合わせた会話 ・子どもの思いを聴く姿勢（待つ、理解する気持ち） ・子どもの特徴、反応をとらえた行動・話しかけ/子どもの関心事 ・子どもに合わせた言葉づかい ・子どもと視線を合わせる <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カフェニス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め、自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリーに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)

母性看護学実習の考え方

「母性看護学実習」では、正常妊娠の経過と正常な妊産婦、褥婦、新生児の看護の実際を学習する機会とする。母性看護技術の修得とともに、母性看護の対象を幅広くとらえた看護実践の基礎を学ぶ内容とした。そのために、母児を対象の中心としながらもさらにその家族、社会背景、母児とその家族を擁護する社会制度（行政・地域サービス）まで考えられるような実習としていく。

科目名	単位	時間	目的
母性看護学実習	2	90	マタニティケアにある対象を理解し、妊婦・産婦・褥婦・新生児に対する健康維持・促進・回復のための看護が実践できる基礎的能力を養う

母性看護学実習

1) 実習目標

- (1) マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる
- (2) 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる
- (3) 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる
- (4) 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳・神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」
うい助産院

<詳細>

施設名	時間数	住所	電話番号
浜田医療センター 4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来	72時間 (8日間)		
浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」	9時間 (1日間)	浜田市野原町 859-1	0855-22-1253
うい助産院	9時間 (1日間)	浜田市牛市町 82 2階	050-3631-8330

- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

	1日目	2日目	3～4日目	6日目	7～9日目	10日目
9:00～16:00	AM 病棟オリエンテーション	浜田医療センター4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来 うい助産院 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」				
16:00～ 16:45	実践活動外学習時間（学内）					
カンファレンス等			カンファレンス	カンファレンス 中間評価	カンファレンス	振り返りの会

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる	1) 妊娠期における対象の理解 (1) 妊娠による母体の変化 生殖器における変化、初産婦・経産婦の区別、妊娠による全体的変化(体重、皮膚、代謝、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌系) (2) 妊婦一般健康診査による母体の生理的变化の把握 妊婦健康診査の目的・方法・内容、受診の回数と間隔、妊婦健康診査受診

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>券の利用（公費負担）、血液抗体検査、血液一般、尿検査（蛋白・糖）</p> <p>(3) 正常からの逸脱または逸脱の可能性 妊娠の定義、妊娠週数の確認、予定日の算出</p> <p>(4) 妊娠経過に影響を及ぼす因子 家族背景、労働環境、日常生活</p> <p>(5) 母体の変化に応じたセルフケアの現状 不快症状（マイトラブル）への対処、日常生活（食生活、嗜好品、排泄、清潔、運動姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレスコピソク）</p> <p>(6) 妊娠週数に応じた胎児及び付属物の状態 胎盤の形成と位置、羊水量、胎児の発育、胎動</p> <p>(7) 妊婦の心理・精神状態 身体的・社会的変化に伴う心理、妊娠経過に伴う不安や葛藤</p> <p>(8) 妊婦の心理・精神状態に影響を及ぼす因子 妊娠の受容、家族の反応</p> <p>2) 妊娠期における対象への看護実践</p> <p>(1) 妊婦の健康診査の見学・介助 体重測定、血圧測定、子宮底長・腹囲測定、レボルト触診法（第1段法・第2段法）、ノストレスト、超音波断層法、内診介助（安全安楽を考えた介助、羞恥心への配慮、内診台の操作、昇降の介助、必要物品と清潔操作）</p> <p>(2) 妊婦の心理的な援助 プライバシーへの配慮</p> <p>(3) 早期に受診する必要がある症状</p> <ol style="list-style-type: none"> ①妊娠悪阻 ②流・早産 ③妊娠糖尿病 ④妊娠高血圧症 ⑤常位胎盤早期剥離 ⑥前期破水 <p>(4) 入院が必要な妊婦に対する援助 家族の再調整、出産・育児の準備、日常生活への援助、症状に伴う治療・援助</p> <p>3) 分娩期における対象の理解</p> <p>(1) 分娩の要素と各期の経過 分娩の3要素、分娩の経過</p> <p>(2) 分娩第1～3期の正常な経過 陣痛（発作・間歇）、産痛部位、破水、血性分泌物、子宮口の開大度、排臨・発露、胎児娩出、胎盤娩出様式、分娩時出血量、分娩所要時間</p> <p>(3) 分娩進行に影響を及ぼす母体・胎児因子 既往歴、妊娠経過</p> <p>(4) 分娩第4期の正常な経過 分娩後30分、1時間、2時間の子宮収縮の状態と悪露の性状・量、縫合部痛、後陣痛</p> <p>(5) 胎児及び付属物の状態 連続的胎児心拍数モニタリング（CTG）、胎盤の観察と計測</p> <p>(6) 胎児の健康状態に影響を及ぼす母体の健康状態 薬剤・放射線、喫煙、飲酒、既往症の有無、多胎、母体感染・合併症の有無</p> <p>4) 分娩期における対象への看護実践</p> <p>(1) 分娩第1～3期の援助 産婦の基本的ニーズへの援助（水分・栄養補給、清潔、更衣、排泄、睡眠・休息）</p> <p>(2) 産婦の心理的援助 分娩進行に伴う産婦の心理的变化</p> <p>(3) 陣痛（産痛）緩和の援助 分娩を促進させる援助、産痛緩和</p> <p>(4) 子宮内感染防止の援助 スタンダードプリコーション、清潔の保持</p> <p>(5) 家族への援助 家族の分娩に対する思い、産婦に付き添う家族への支援</p> <p>(6) 分娩直後の産婦の援助 早期母子接触</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる</p> <p>3. 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる</p>	<p>(7) 緊急事態の対処 産科出血、胎児仮死</p> <p>5) 産褥期における対象の理解</p> <p>(1) 生理的变化に影響する因子 年齢、既往歴、妊娠・分娩歴、日常生活動作、授乳の有無</p> <p>(2) 乳汁分泌経過 乳房の変化、乳汁の性状と分泌のしくみ</p> <p>(3) 復古現象の経過 子宮復古と悪露、全身の変化、分娩による損傷</p> <p>(4) 復古現象に影響を与える因子 既往歴、妊娠経過、分娩経過、不快症状（後陣痛、縫合部痛、排尿障害、便秘、脱肛痛）</p> <p>(5) 褥婦の心理状態 分娩に対する思い、新生児に対する思い、母親への適応過程（ルビソ、マニエール、産後うつ</p> <p>(6) 褥婦の過程・社会環境から退院後の生活の把握 家族構成、家族間の役割調整、生活環境、夫・家族の面会状況、ソーシャルサポート、職場復帰、父親の心理的变化、きょうだいの心理的变化</p> <p>6) 産褥期における対象への看護実践</p> <p>(1) 乳汁分泌促進の援助と指導 直接授乳の介助、乳頭・乳房マッサージなど</p> <p>(2) 乳房・乳頭トラブルの援助 乳頭・乳房マッサージ、巻法、創処置、搾乳 など</p> <p>(3) 復古現象を促す援助 日常生活援助と保健指導（栄養、休息・睡眠、活動、清潔、排泄）、産褥体操</p> <p>(4) 産褥期に起こしやすい感染症の予防への援助 悪露交換・排尿後消毒</p> <p>1) 新生児期における対象の理解</p> <p>(1) 出生直後の児の生理的变化 出生直後の評価（アプガースコア）、成熟度の評価、全身の観察（身体各部の計測、奇形の有無）、応形機能、産瘤・頭血腫</p> <p>(2) 新生児の胎外生活適応過程 体温・呼吸・循環、生理的体重減少、消化・吸収、生理的黄疸、免疫、原始反射、排尿・排便</p> <p>(3) 新生児の栄養状態 栄養方法（母乳・人工乳）、授乳方法（直接授乳、搾乳、哺乳瓶授乳）、授乳量</p> <p>(4) 新生児の胎外生活適応過程を阻害する因子 母体因子、妊娠中の因子、分娩中の因子</p> <p>(5) 新生児に起こりやすい感染症の徴候 敗血症、髄膜炎、臍感染症、新生児結膜炎</p> <p>2) 新生児期における対象への看護実践</p> <p>(1) 出生直後の新生児の看護の見学 アプガースコア、臍帯の処置、低体温の予防、点眼、識別票（ネームバンド）の装着、全身の観察（身体各部の計測、成熟度、奇形の有無）</p> <p>(2) 出生直後の新生児の受け入れ準備 保育環境の準備、産婦受け持ち助産師と新生児室看護師との連携</p> <p>(3) 新生児の胎外生活適応の援助 育児技術（抱き方、寝かせ方、調乳、瓶哺乳・排気、衣服の着脱、沐浴・清拭、臍処置、おむつ交換、環境調整</p> <p>(4) 新生児の診察と検査 経皮的黄疸測定、血清ビリルビン検査、先天性代謝異常検査（ガスリー法）、新生児聴カスクリーニング検査（ABR）、K₂シロップの投与</p> <p>1) 妊娠・分娩・産褥による社会的変化 妊婦と家族（夫婦、きょうだい、祖父母）、職場・地域社会の環境</p> <p>2) 母親役割獲得及び家族との役割調整 母親学級（集団指導）、助産師外来（個別指導）役割モデルの探索、母親の役割獲得過程、出産・育児に対する期待・希望・不安、育児技術獲得への援助と指導（おむつ交換、更衣、授乳指導、沐浴指導）</p> <p>3) 退院後の母児への継続した支援 ・退院指導 ・褥婦の不安アセスメント（助産師と保健師の連携）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>4. 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳、神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳外来 ・産後2週間健診 ・産後1か月健診 ・周産期カンファレンス（小児科・産科医師、助産師、外来看護師の連携） ・妊婦保健指導外来（医師から助産師に依頼） <p>4) 社会資源の活用や諸制度の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の届出・出生通知書 ・母子健康手帳の交付・活用 ・妊婦健康診査 ・訪問指導 ・市町村の保健指導（母親学級、両親学級） ・乳幼児健診 ・こんにちは赤ちゃん事業 ・特定妊婦・養育支援訪問事業 ・子育て支援サービス ・産後ケア事業 ・低出生体重児の届出 ・未熟児養育医療 ・分娩費（産科医療補償制度・出産育児一時金）、出産手当金 ・出生届（戸籍法） ・死産届（死産の届出に関する規定） ・産前・産後の休暇（労働基準法） ・育児休業（育児休業法） <p>1) 各期の看護実践を通して、自己の母性観・父性観を深める</p> <p>(1) 妊娠期の看護実践</p> <p>(2) 分娩期の看護実践</p> <p>(3) 新生児の看護実践</p> <p>(4) 産褥期の看護実践</p> <p>(5) 母児の関係確立、家族役割適応の看護実践</p> <p>母親の声のかけ方、新生児へのふれ方、母親の表情、新生児の表情、ホウ乳ビンの愛着行動（アタッチメント）、クウスとケルの母子相互作用、ミルクの基本的信頼の獲得、ルビンの母親役割獲得過程（母親になること）</p> <p>上記（1）～（5）を通して深める</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p> <p>(1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ）</p> <p>(2) アクティブなコミュニケーションがとれる</p> <p>(3) 得た情報を交換し対応を考える</p> <p>5) 安全管理への配慮</p> <p>(1) 感染対策の徹底</p> <p>(2) 医療事故防止のための意見交換</p> <p>(3) 医療事故防止のための共有化</p> <p>(4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none">(5) 個人情報管理（記録物の管理を含む）6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成<ul style="list-style-type: none">(1) 自己の傾向の振り返り（分析）(2) 自己の課題の明確化(3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

精神看護学実習の考え方

精神看護学実習では、精神に障害のある対象の特徴を理解する。そして、さまざまな制限や症状・障害で日常生活技能が低下している対象に対し、精神の健康障害のレベルに応じた自立に向けた看護を学ぶ。さらに社会復帰を目指した多職種チームの支援について理解する。精神看護は対人関係を基盤とし、看護が行われる。そのため、プロセスレコードにより自己を洞察することで、他者を理解することを学ぶ。対象との関わりを通して、精神に障害がある対象に対する人権擁護や倫理について学ぶ。

科目名	単位	時間	目的
精神看護学実習	2	90	精神に障害のある対象を理解し、看護の実践を通して他者を尊重する姿勢を身につける

精神看護学実習

1) 実習目標

- (1) 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける
- (2) 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リハビリの観点から踏まえながら必要な援助を実践する
- (3) 患者－看護者関係の発展過程を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する
- (4) 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 社会医療法人清和会 西川病院
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	76	13:00～16:00(4時間)	初日
		9:00～16:00(8時間/日)	2日目以降
実践活動外 学習時間	14	9:00～9:45(1時間)	実習オリエンテーション
		9:45～12:00(3時間)	模擬プロセスレコードカンファレンス
		16:00～16:45(1時間/日)	学生控室にて文献検索・技術演習・カンファレンス

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患の特徴（時期や段階、生活への影響）を述べる 病因・発症からの経過・発達課題の獲得 2) 治療やその影響を述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 薬物療法（作用・副作用） (2) 精神療法（個人療法・集団療法・家族療法） (3) リハビリテーション 3) 疾患・治療による影響だけでなく、生活背景やそれまで培われた価値観、他者との関係性などをふまえて、患者の置かれている状況の気づきを述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 入院歴・家族関係・価値観・他者との関係 (2) 一日の生活行動 (3) 長期入院の実際 退院への意欲の希薄・家族の受け入れが消極的・地域の社会資源が不十分・地域社会の理解不足

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リカバリーの観点を踏まえながら必要な援助を実践する</p>	<p>1) 患者のセルフケア能力を評価する</p> <p>(1) セルフケア評価 全介助・部分介助・声かけ見守り・教育指導支援・自立</p> <p>(2) 自己管理能力</p> <p>(3) 普遍的セルフケア要件 十分な空気・水分・食物の摂取 排泄過程と排泄物に関するケア 活動と休息のバランスの維持 孤独と人との付き合いのバランスの維持 個人衛生の維持 生命・機能・健康に関する危険の予知</p> <p>2) 患者の認識や持っている力を述べる 意識と認知機能・感情・学習と行動・知能・レジリエンス・ストレングス・リカバリー</p> <p>3) 患者の状態に合わせて、必要な日常生活援助を実践する</p> <p>(1) 日常生活における身体ケア (2) 睡眠の援助</p>
<p>3. 患者－看護師関係を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する</p>	<p>1) 自己の認識と他者の認識の相違点を捉え、自己の傾向を認める 自らの偏見とおそれ・コミュニケーションの癖・認知のゆがみ</p> <p>2) 患者・看護師関係における感情体験を経験しながら、患者にとって効果的な関わりを看護師とともに考え実践する</p> <p>(1) 自己一致・応答性 (2) 主体性と自立性の尊重：患者のペースを守る・守秘義務・パーソナルスペース (3) 共感・そばにいたいこと・現実検討（ともに行動し確認する）・言語的・非言語的コミュニケーションの活用</p>
<p>4. 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る</p>	<p>1) 地域の環境整備（社会生活支援施設）の実際について述べる</p> <p>(1) 相談支援（一般・特定）・地域の相談窓口 (2) 医療にかかわるサービス：自立支援医療費・精神科訪問看護・精神科デイホスピタル・ACT（包括型地域生活支援プログラム） (3) 生活を支えるサービス：日中の活動の支援（自立訓練・就労移行支援・就労継続支援）・住まいの場</p> <p>2) 地域生活支援施設および病院での多職種連携における看護師の役割について述べる</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりなことや確信がもてないことなどについて相談する</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整(リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動(リスクを考えた行動) (5) 個人情報管理(記録物の管理を含む) <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り(分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)ための行動)

科目区分	専門分野	授業科目	基礎看護学概論
講師名	山中真弓、橋本一枝、藤井光輝	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥他職種との連携 ⑦看護の歴史の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。		
目的：看護とは何かについて学ぶ 目標：1. 看護の概念、看護の役割と機能について理解する 2. 看護の対象を理解する 3. 健康の定義、健康政策に基づく健康増進へのかわりを理解する 4. 看護の歴史から看護の成立と発展を学び、今後の課題について理解する 5. 看護サービス提供の場及び仕組みを理解する 6. 看護に対する関心を高める			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	看護を定義する構成要素を理解する— 「環境」とは 「人間」とは	講義	
2	看護を定義する構成要素を理解する— 「健康」とは 「生活」とは	講義	
3	看護ケアとは— 看護の感性、看護の質保証	講義	
4	保健統計からみる健康や看護	講義、グループワーク	
5	看護理論家の考え— ナイチンゲール	講義	
6	看護理論家の考え— ヘンダーソン	講義	
7	看護の歴史	3校合同講義	
8	看護における倫理	3校合同講義	
9	看護者の倫理綱領について理解する	講義	
10	法律に基づいた看護実践—保健師助産師看護師法の概要	3校合同講義	
11	看護サービスの提供の場と仕組み	講義	
12	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する	講義	
13	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	グループワーク— 各校	
14	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	3校合同討議	
15(45分)	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと	3校合同討議	
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（90点）課題レポート（10点） 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 現代社：フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 日本看護協会出版社：ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの		
参考図書	サイオ出版：実践に生かす看護理論など看護理論に関する書籍 一般財団法人 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標		
備考	科目関連:13回～15回の内容は、生活援助技術で学んだ内容と関連あり		

科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 (看護過程の基礎)
講師名	前田 こずえ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。 ゴードンの機能的パターンを用いて対象者の多様な情報(生活者としての側面、生物学的に共通する側面から)収集し看護の視点から統合して対象者の望み(意志)を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		
<p>目的: 対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する</p> <p>目標: 1. 看護過程の構成要素について説明できる 2. 看護上の問題を明確にする過程が説明できる 3. 個別性のある看護計画の立案方法が説明できる 4. 看護過程の評価の視点が説明できる 5. 看護記録について説明できる</p>			
回	授業内容		
1	1. 看護過程とは 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素		
2	2. 看護過程の展開 1) 情報収集 (1) 情報の種類、情報源、情報収集の方法 2) アセスメントの枠組みと視点 3) 情報の整理・解釈・分析		
3	2. 看護過程の展開 4) 事例を用いたアセスメントの実際 大腿骨頸部骨折術前、左介達牽引中の患者<70代女性・急性期> (1) 情報収集 (2) 情報の捉え方、振り分け (3) 情報の解釈・分析		
4			
5			
6			
7	3. 関連図とは 1) 関連図の必要性 2) 関連図の作成の方法 3) 情報・問題の統合 4) 事例を用いた関連図の作成		
8	4. 問題の明確化 1) 看護問題の種類 2) 看護診断		
9	4. 問題の明確化 3) 共同問題 4) 事例の看護問題の明確化		
10	5. 看護上の問題の優先度 1) 優先度の決定 2) 問題リスト 3) 事例の看護問題と優先度		
11	6. 計画立案とは 1) 目標(期待される結果) 2) 計画 (1) 観察計画 (2) ケア計画 (3) 教育計画 3) 事例の看護計画		
12	7. 実施・評価 1) 実施 (1) 仮説の検証・準備性 (2) 看護計画と毎日の看護計画の関係		

13	<p>2) 評価</p> <p>(1) 目標達成の判定</p> <p>(2) 看護問題、看護計画の追加・修正</p> <p>(3) 事例の記録の実際</p>
14 15 (45分)	<p>8. 看護記録</p> <p>1) 看護記録の意義と目的</p> <p>2) 看護記録の法的位置づけ</p> <p>3) 看護記録の構成</p> <p>(1) 基礎情報 (2) 看護計画 (3) 経過記録 (4) 看護サマリー</p> <p>4) 看護記録の種類</p> <p>(1) SOAP法 (2) フォーカスチャータリング</p> <p>5) 看護記録及び診療情報の取り扱い</p>
16	終了試験 45分
授業方法	講義、グループワーク
評価方法	筆記試験 30点、課題レポート 70点 評価基準参照
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ</p> <p>医学書院：NANDA-I看護診断定義と分類</p> <p><参考図書></p> <p>ヌーベルヒロカワ：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版</p> <p>学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護</p> <p>学研メディカル秀潤社：疾患別看護過程の展開</p>
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、事例に関連した「疾病と治療」及び「成人援助論」

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術 I (コミュニケーション、環境調整、感染防止、活動・休息)
講師名	岡本 諭	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	1 年次 第 1 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護の基本的な技術を学びます。技術の修得には、知識の定着とともに反復練習が必要になります。自己学習時間を活用した練習を期待しています。		
<p>目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する</p> <p>目標：1. 看護技術の概念について知る 2. 看護の対象に対する、安全と安楽を確保する技術が実施できる 3. 看護技術を行う基礎となるコミュニケーション方法を学ぶ 4. 環境調整の意義が説明できる 5. 環境調整の援助技術が実施できる 6. 活動・休息・睡眠の意義が説明できる 7. 活動の援助技術が実施できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 技術の概念 (安全、安楽、自立) <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術を適切に実践するための要素 2. 看護技術の提供と倫理的配慮 3. コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの基本原理と構成要素 3) コミュニケーションの種類 <ul style="list-style-type: none"> (1) 言語的コミュニケーション (2) 非言語的コミュニケーション 4) 関係構築のためのコミュニケーション 5) 効果的なコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> (1) 傾聴 (2) 情報収集 (3) 説明・指導 5) コミュニケーションに必要な能力・態度	講義	
2・3	4. 感染予防の技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 感染防止の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染成立の条件、院内感染の防止 (2) 感染拡大防止の対応 2) スタンダードプリコーション <ul style="list-style-type: none"> (1) 手指衛生 (2) 個人防護用具 (3) 患者ケアに使用した器具 (4) 環境対策 (5) リネン (6) 鋭利なものの取り扱い (7) 救急時の対応 (8) 患者配置 (9) 呼吸器衛生/咳エチケット 3) 感染経路別予防策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 接触・飛沫・空気予防策 4) 感染性廃棄物の取り扱い感染とその予防の基礎知識 	講義	
4	標準予防策 (スタンダードプリコーション) の実際 <演習> ・手指衛生 ・個人防護用具の着脱	演習	
5	5. 環境調整技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間と環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病室・病床の選択 (2) 温度・湿度 (3) 光と音 (4) 色彩 (5) 空気の清浄化とにおい (6) 人的環境 6. 療養環境について考える—快適な環境とは— <ul style="list-style-type: none"> 1) ベッド周囲の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境整備の目的 (2) 環境整備に必要な物品、環境整備の方法 2) 療養環境の環境測定 	講義	

6	7. 活動援助技術 1) 基本的活動の基礎知識 (1) よい姿勢 (2) 日常生活動作 (3) ボディメカニクス 2) 体位・保持 (1) 基本体位 (2) 特殊体位 3) 体位変換 援助の基礎知識、援助の実際	講義
7	8. 病床を整えるための知識 1) マットレス・枕・リネンの条件 2) ベッドメイキング 9. 環境調整技術 1) 病床環境を整える技術 2) 病床を整える技術 (1) ベッドメイキング (2) リネン交換、リネンの取り扱い・方法	講義
8	一人でのベッドメイキング	演習
9	一人でのベッドメイキング	演習
10・11	臥床患者のリネン交換 左右への体位変換・安楽物品を用いた体位保持を含む	演習
12 (45分)	臥床患者のリネン交換 <技術試験> ・臥床患者のリネン交換 ・仰臥位から左右側臥位への体位変換 ・安楽物品を用いた安楽な体位の調整 ・快適な療養環境整備 ・安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防)	技術試験
13	10. 活動援助技術 1) 移動 2) 移乗・移送 (1) 車椅子を用いる場合 (2) ストレッチャーを用いる場合	講義
14・15	車椅子移乗・移送 <技術習得度確認> ストレッチャーへの移乗、ストレッチャー移送 <演習>	技術習得度確認 演習
16 (45分)	終了試験	
評価方法	技術試験 (50%) 筆記試験 (50%) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 参考図書 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考	既習関連科目：人間関係論、微生物学講義、基礎看護学概論	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)
講師名	道中 俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		
<p>目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得する。</p> <p>目標：1. 主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出すことができる。</p> <p>2. 看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得できる。</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. フィジカルアセスメントの意義 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2) 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	
2	2. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診 5) 全体の概観	講義	
3	3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識 6) 計測の技術 7) 生理的変動因子	講義	
4	4. 血圧測定 1) 測定する環境と体位 2) マンシェットの巻き方・聴診器のあて方 3) 加圧と減圧・目盛の見方	演習	
5	5. 臥床患者のバイタルサイン測定 1) 測定前・中・後環境の調整 2) 測定方法 (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧	演習	
6	6. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状と他覚症状・徴候 (2) 胸郭の動き (3) 呼吸音の聴取 (4) 胸部の打診	講義	
7	7. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 他覚症状の視診 (3) 頸静脈の視診と頸静脈圧の測定 (4) 胸部の打診 (5) 触診 (6) 心音の聴診	講義	
8	8. 腹部のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 他覚症状の視診 (3) 腸蠕動音、血管雑音の聴診 (4) 打診 (5) 触診	講義	

9	9. 胸部（呼吸器系・循環器系）・腹部のフィジカルアセスメント 1) 胸部の視診・触診 2) 呼吸音聴取 3) 心音聴取 4) 腸蠕動音の聴取	演習
10	10. 臥床患者のバイタルサイン測定	技術習得度確認
11	11. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 関節可動域の観察 (3) 徒手筋力テスト (MMT)	講義
12	12. 脳・神経系のフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2) フィジカルアセスメントの実際 (1) 自覚症状 (2) 運動機能の評価 (3) 感覚機能の評価 【演習】筋・骨格系、脳神経のフィジカルアセスメント 意識レベルの評価、関節可動域訓練、徒手筋力テスト	講義
13	13. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 1) 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
14	14. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 1) 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
15 (45分)	看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント ・問診 ・バイタルサイン測定（体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定）、SpO ₂ 測定 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント（呼吸音聴取） ・得た情報の統合、報告	技術試験
16 (45分)	終了試験	
評価方法	技術試験（50％）筆記試験（50％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ <参考図書> 医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント メディックメディア：看護が見える フィジカルアセスメント	
備考	既習関連科目：人体形態機能学 生活援助技術Ⅰ	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅲ (清潔)
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護師は、疾病・障害などなんらかの理由によって普段どおりの清潔行為や衣生活の維持が困難になった患者に、その人に適した方法を考え清潔の援助を行います。病態を考慮し、その人に即した方法を考えられるようになるために、援助の基本を学びましょう。		
<p>目的：日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し、病気に罹患し療養している対象への清潔の援助方法についての知識・技術・態度を習得する</p> <p>目標：1. 日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解できる</p> <p>2. 皮膚粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、対象の身体を清潔にする方法の原理原則に関する知識を習得することができる</p> <p>3. 病気で療養している対象の身体の清潔並びに衣服の着脱の援助方法の技術と態度を習得できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 清潔・衣生活の意義 皮膚の構造と機能	講義	
2	2. 清潔援助の方法と選択 1) 身体への影響 2) 手浴・足浴・入浴介助・シャワー浴介助	講義	
3・4	3) 手浴・足浴 ・ベッド上仰臥位の患者への手浴・足浴 ・端坐位保持が可能な患者への手浴・足浴	演習	
5	4) 身体各部分の清潔 ・整容(洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り) ・口腔ケア(歯磨き・義歯のケア) ・洗髪(ドライシャンプー・ベッド上・洗髪車・洗髪台) ・入浴介助、シャワー浴介助(モデル人形を用いた演習)	講義	
6・7	4) 身体各部分の清潔 ・口腔ケア、整容・髭剃り・爪切り ・洗髪(ベッド上、洗髪台もしくは洗髪車を使用)	演習	
8	5) 全身の保清 ・寝衣交換(点滴ドレーン等留置のある患者の寝衣交換方法含む) ・全身清拭・陰部の保清(陰部洗浄)・おむつ交換	講義	
9	・点滴・ドレーン等の留置の無い患者の寝衣交換・全身清拭	演習	

10・11	・点滴・ドレーン等の留置の無い患者の寝衣交換・全身清拭	演習
12・13	・陰部の保清・おむつ交換（陰部モデルを使用しての演習）	演習
14	・臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 ・全身清拭、陰部洗浄、おむつ交換、寝衣交換の一連の流れを通して実施	演習
15（45分）	・臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 ・全身清拭、陰部洗浄（排泄なし）、おむつ交換、寝衣交換	技術試験
16（45分）	終了試験	筆記試験
評価方法	技術試験（50％）筆記試験（50％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 【参考図書】 学研：看護技術プラクティス	
備考	生活援助技術Ⅰで学んだ内容と関連あり	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅳ (食事・排泄)
講師名	竹本 知恵子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに誰もが営む日常的な行為です。なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力できなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、アセスメントの視点と援助の実際を学びましょう。		
目的：食事、排泄の意義について理解し対象への援助方法を習得する 目標：1. 食生活及び排泄への援助の意義を理解できる 2. 食事の援助技術を習得できる 3. 排泄の援助技術を習得できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ①栄養状態 ②摂食・嚥下能力 ③摂食行動	講義	
2	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2) 食事摂取の介助 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際(嚥下障害のない患者)	講義	
3	食事介助(嚥下障害のない患者)の方法(環境調整・セッティングを含む)	演習	
4	3) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養法 経管栄養法(モデルを用いた経鼻カテーテル挿入・経管栄養注入・経鼻カテーテル管理)	講義	
5・6	経管栄養法 ・モデルを用いた経鼻カテーテル挿入 ・経鼻カテーテルの固定 ・経管栄養注入(胃泡音の確認)	演習	
7(45分)	経管栄養注入習熟度確認	習得度確認	
8	2. 排泄援助技術 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排泄の意義 (2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (3) 患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント	講義	
9	2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助 (4) 陰部の清潔(陰部洗浄)	講義	
10	ポータブルトイレへの移乗 尿器・便器を用いた排泄援助	演習	
11	3) 導尿 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿	講義	
12・13	一時的導尿	演習	

	持続的導尿	
14	4) 排便を促す援助 (1) 排便を促す援助の基礎知識 (2) 浣腸（グリセリン浣腸） (3) 摘便	講義
15	浣腸、摘便	演習
16 (45分)	終了試験	
評価方法	筆記試験（100%） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ講義 演習	

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師名	竹本 知恵子	実務経験	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおいてください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に行う思いで技術の習得を行っていきましょう。		
<p>目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する</p> <p>目標：1. 薬物療法の意義・目的が理解できる 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法が習得できる 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法の基礎的知識 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の種類 3) 薬剤の吸収・排泄のメカニズム (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 4) 薬理作用とその影響因子 (1) 主作用・副作用 (2) 薬理作用に影響を及ぼす要因	講義	
2	3. 薬物療法における看護の役割 1) 薬物療法における看護師と多職種との関連 2) 薬物療法における看護師の役割 4. 薬物療法における安全確保の技術 1) 誤薬防止の基礎知識と実際 2) 医療廃棄物の取り扱い 3) 薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬）	講義	
3	4. 薬物療法における安全確保の技術 4) 抗がん剤の人体への影響とその効果 5) 抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について 6) 化学療法投与時の看護と有害反応への対処 (1) 血管外漏出の予防と対処 (2) 過敏症の早期発見と対応 (3) 有害反応へのセルフケア支援	講義	
4	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口的与薬法（固形剤、粉末剤、液状剤） 2) 口腔内与薬法（舌下錠、バツカル錠、トローチ）	講義	
5	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 3) 直腸内与薬法（全身作用、局所作用） 4) 点鼻・点耳・点眼法・経皮的与薬法	講義	
6	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 5) 注射法 注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 (1) 注射の準備 (2) 注射の方法 ①皮下・皮内注射 ②筋肉内注射	講義	
7・8	注射法（注射訓練モデルを用いた演習） <演習> ・皮下注射	演習	

	・筋肉内注射	
9	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 5) 注射法 (2) 注射の方法 ③静脈内注射 ④点滴静脈内注射 ⑤中心静脈カテーテル法	講義
10	点滴静脈内注射の基礎 点滴静脈内注射の手順と留意点	講義
11・12・13	点滴静脈内注射 <演習> ・薬剤の準備（アンプルからの吸い上げ、溶解薬剤のバイアルからの吸い上げ） ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理	演習
14	6. 輸血療法時の看護 1) 輸血とは 2) 輸血療法の適応 3) 血液型と交差適合試験 4) 輸血による副作用 5) 輸血時の観察と看護 6) 血液製剤の保管と管理	講義
15 (45分)	まとめ	講義
16 (45分)	終了試験	
評価方法	筆記試験 (100点) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ	
参考図書	臨床看護技術パーフェクトナビ 学研：看護技術プラクティス	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学（総論）、生活援助技術Ⅰ～Ⅳ	

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅰ（主要症状に必要な治療・処置を含む）
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	<p>症状の起こるメカニズムを振り返りながら症状に対する看護を話しあっていきます。 基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項を学び、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。</p>		
<p>目的：健康障害を持つ対象を理解し、対象のおかれている状態に応じた看護の役割と援助の方法について基礎的な能力を養う。</p> <p>目標：1. 主要症状別看護に必要な解剖生理学や病理学で学んだ知識を統合し、根拠を踏まえ看護を理解する。 2. 主要症状が身体的側面だけでなく、精神・社会的側面に影響があることを理解する。</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	<p>1. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 発熱・低体温などの体温調整機能に関する症状を示す対象の看護</p>	講義	
2	<p>2) 痛み症状を示す対象の看護</p> <p>痛みのメカニズム、痛みのアセスメント、痛みのある患者の援助</p>	講義	
3	<p>3) 不眠症状を示す対象の看護</p> <p>睡眠のメカニズム、睡眠障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 身体ケアを通じてもたらされる安楽：体位保持（ポジショニング）、リラクゼーション法</p>	講義	
4	<p>安楽に関連する症状（体温調節・疼痛）への援助</p> <p>罨法の技術（冷罨法・温罨法）</p>	演習	
5	<p>2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>循環障害に関連する症状のメカニズム 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 血液循環を促進する援助・末梢循環促進ケア、心臓の負荷を軽減する援助</p>	講義	
6	<p>3. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（排痰ケア、吸入）</p>	講義	
7	<p>呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（酸素療法）</p>	講義	
8	<p>酸素療法を受ける患者の看護</p> <p>中央配管方式による方法と酸素ボンベによる方法 酸素投与器具とその特徴（鼻カニューレ、簡易酸素マスク、ベンチュリーマスク、リザーバーバック付き高濃度酸素マスク）</p>	演習	

9・10	呼吸に関連する症状への援助（排痰ケア） 体位ドレナージ 咳嗽介助（徒手の咳嗽介助）・ハフティング 吸入加湿法（ネブライザー）	演習
11	口腔・鼻腔内吸引法	講義
12・13	口腔・鼻腔内吸引法	演習
14	気管内吸引法	講義・演習
15（45分）	口腔・鼻腔内吸引	技術試験
16（45分）	終了試験	筆記試験
評価方法	技術試験（20％）筆記試験（80％） 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅱ（治療・処置別）
講師名	岡本 諭(28) 齋藤 謙司(2)	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	診療の補助では診療に関わる看護技術を学ぶが、受け身で身に付くものではなく、主体的に技術を獲得しようという意欲を持ち、繰り返し練習してこそ身に付きます。基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項を学び、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。		
目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する			
目標：1. 検査・治療の意義および看護師の役割が理解できる 2. 検査・治療実施時の介助方法および検体の採取方法が習得できる 3. 創傷を管理する技術としての包帯法などの保護方法を理解し実践できる			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 1) 創傷治癒過程 2) 創傷処置・ドレーン管理	講義	
2	創傷処置・創傷ケア ・滅菌物の取り扱いの実際 ・創洗浄と創保護 ・ガーゼ、フィルム材の交換（テープ・フィルム材のはがし方）	演習	
3	3) 包帯の種類と巻き方	講義	
4	包帯法の実施 ・巻軸帯：伸縮包帯・弾力包帯・弾性包帯 ・布はく帯：三角巾・腹帯	演習	
5・6	2. 診察・検査を受ける対象者の看護 1) 身体侵襲を伴う検査・処置を受ける対象者への看護 2) 滅菌物の取り扱いと無菌操作法 3) 様々な検体検査と検体の取り扱い 4) 個人防護具の扱いと感染性廃棄物の扱い	講義	
7	5) 静脈血採血法	講義	
8・9	静脈血採血の技術（モデル人形を用いた採血）	演習	
10	3. 放射線療法を受ける患者の看護 1) 放射線の人体への影響とその効果 2) 放射線照射時の支援と有害反応への対応	演習	
11	4. リハビリテーションを受ける患者の看護 1) リハビリテーションの目的と多職種連携 2) リハビリテーション時の支援 3) 自動運動と他動運動 4) ベッドサイドでできる関節可動域訓練 <演習> 徒手筋力テスト（MMT） ベッドサイドでできる運動訓練	講義・演習	
12	5. 手術療法を受ける患者の看護 1) 術前の看護 術前の身体評価・術前オリエンテーション 2) 術中の看護 手術室看護師の役割、手術体位とその介助	講義	
13	3) 術後の看護 術後合併症の予防と対応、術後疼痛管理、早期離床の援助 4) 集中治療を受ける患者の看護	講義	

14	医療機器の操作と管理（輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・DC・人工呼吸器）	演習
15	終了試験（45分）まとめ（45分）	
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ <参考図書> 学研：臨床看護技術パーフェクトナビ 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究論
講師名	藤井 光輝	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護における研究の意義や楽しさを学生の皆さんに伝えたいと思います。また、多くの研究報告がなされていますが、その研究を読む力を身につけ、自らの看護実践に活かしていけるような力も養いたいと思っています。		
目的：看護を行うにあたり研究的な視点で科学的、理論的におこなっていくことの必要性を理解する			
目標：1. 看護研究の目的と意義が理解できる 2. 看護研究の基礎が理解できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1. 看護研究とは 1) 看護研究の意味 2) 研究に必要な基礎的知識 3) 研究方法の種類	講義	
2	2. 看護研究の種類と方法 1) 研究の領域を大別した研究方法 2) 導き出し方の違いによる研究方法 3) データの性質の違いによる研究方法 4) データ収集方法の違いによる研究方法 5) 研究手法からみた研究方法	講義	
3	3. 様々な研究手法と実際 1) 量的研究 (1) 記述統計と推測統計 (2) 仮説、独立変数と従属変数	講義	
4	2) 質的研究 (1) 質的研究で明らかにできること (2) 質的研究の主な手法 カテゴリズとネーミング 3) ケーススタディ 4) その他の研究手法	講義	
5	4. 文献とは何か 1) 文献検索の実際 (一次文献、二次文献) 2) 自分の興味のある内容を検索してみよう 5. 研究のプロセス 1) インターネットを利用した文献検索と活用	講義 文献検索演習	
6~7	5. 研究のプロセス 2) テーマの設定と計画書の作成 3) 研究における倫理的配慮 4) データの収集と分析 5) 結果の表現方法	講義	
8	6. 研究成果の発表 1) 発表の場 2) 発表の仕方、効果的な発表 (プレゼンテーション)	講義	
9	7. 論文を読んでみよう 過去の研究論文を読み、論文の読み方を知り、看護における研究成果を知る	講義 グループワーク	
10	8. 看護理論とは 1) 理論の構成要素 (前提、概念、命題) 2) 理論の種類 (広範囲理論・小範囲理論・中範囲理論) 3) 看護理論の変遷：看護理論の背景・意義	講義	
11	9. 主な看護理論の構成概念とその活用 (グループワーク) 1) ナイチンゲール 2) ヘンダーソン 3) ウィーデンバック 4) オレム 5) ペプロウ 6) トラベルビー 7) ロジャーズ 8) ワトソン グループワーク 11・12 回：看護の主要概念、理論の形成された過程 (背景)、 事例への活用について調べ学習 13 回 : 発表	グループワーク 発表会	
12			
13			
14	10. 中範囲理論の看護実践への活用 ・ 病気、障害、人生の体験を説明する理論 ・ 危機、ストレス、不確かさなどに関する理論 ・ 行動変容、行動強化に関する理論	講義 グループワーク	
15 (45 分)			
16 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (80 点)、文献検索・文献検討の課題レポート (20 点)	評価基準参照	
テキスト	照林社：ひとりで学べる看護研究 照林社：わかりやすいケーススタディの進め方 サイオ出版：実践に生かす看護理論 19 学研：看護診断のためのよくわかる中範囲理論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究演習
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護研究は看護の質の向上や新たな看護を創造するために取り組んでいきます。 まずはその基礎を勉強していきましょう。		
目的：事例研究を通して、実践した看護を振り返る。			
目標：1. 実習で受け持った患者1例をケーススタディとしてまとめる。 2. まとめたケースを発表できる。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 研究課題の明確化 1) ケーススタディの意義・目的 2) 研究課題の決定 3) 研究テーマと方法の決定	講義	
2	2. 研究計画書の作成 1) 研究テーマと研究動機	講義	
3	2. 研究計画書の作成 2) 研究目的と研究の意義 3) 倫理的配慮 4) タイムスケジュールと指導計画	講義	
4	3. 事例研究論文の作成 1) 研究目的の記述	講義・演習	
5	3. 事例研究論文の作成 2) 事例および結果の記述	講義・演習	
6・7	3. 事例研究論文の作成 3) 考察の記述	講義・演習	
8	3. 事例研究論文の作成 4) 結論の記述	講師・演習	
9	3. 事例研究論文の作成 5) 引用・参考文献の記述	講義・演習	
10	4. 発表及び発表会の運営 1) 抄録の作成	講義・演習	
11	4. 発表及び発表会の運営 2) 発表資料の作成(プレゼンテーション)	講義・演習	
12	4. 発表及び発表会の運営 3) 発表者及び聴講者のあり方 4) 発表会の運営	演習	
13・14・15	5. 口頭発表会 1) ケーススタディの発表 2) 質疑応答の実施、講評の実施 3) 発表会運営の実施	演習	
評価方法	論文作成から発表までを評価表を用いて100点満点評価 評価基準参照		
テキスト	照林社：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 <参考図書> 照林社：ひとりで学べる看護研究 サイオ出版：実践に活かす看護理論 19 学研：看護診断のためのよくわかる中範囲理論		
備考	2年次の看護研究論と関連あり		

地域・在宅看護論

■構築の考え方

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ内容とし、「地域で暮らす」をキーワードとする。対象とその家族の療養の場の拡大を踏まえ、そこで暮らす人の多様な価値観を理解し、それを支える多職種と協働していく中での看護の役割について学ぶ内容とした。

1年次に、住み慣れた地域で暮らす人々とその家族、地域で暮らす人はどんな方々なのか把握する「地域と暮らし」を科目立てした。この科目では地域の実情を主体的に調べディスカッションして地域への興味関心を高める内容とした。2年次に「地域で暮らす人々を支える仕組み」では、健康な生活を送るためにどのような生活を支える仕組みがあるのか社会制度も含めた支援内容を理解して、地域における人々の健康維持・増進に関する基礎知識を学ぶ内容とした。地域防災や支える施設である通所リハビリテーションセンターやグループホーム、シルバー人材センター、特別支援学校など生まれてから亡くなるまで社会で支える仕組みを理解する内容とした。

1年次後期から「地域・在宅看護概論」、2年次から「地域・在宅看護援助論Ⅰ」を置き、地域で生活される方が病気や疾患を抱えながらも、その人らしく生きていくために看護職は何を担うべきなのか、健康予防行動の学習展開、対象の入院から退院までの一連を通じた退院支援、自宅での療養と家族、保健・医療・福祉の役割の実際を学ぶ内容とした。具体的には、「地域・在宅看護概論」では、在宅ケアを受ける人と生活環境について学び、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の意義と役割を理解する内容とした。在宅看護の対象者を家族も含めて在宅生活においての制度や支援（権利保障や自己決定権など）を学ぶ内容とした。「地域・在宅看護援助論Ⅰ」「地域・在宅看護援助論Ⅱ」では、病院から暮らしの場でケアを受ける方やその家族への支援が行えるように、日常生活を支える看護技術や在宅療養を支える医療ケアを学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	地域と暮らし
講師名	前田 こずえ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次 第1学期
講義概要 メッセージ	地域でのフィールドワークを通して、人々と触れ合い、暮らしと健康の関連などについて理解を深める授業です。行先や移動方法について主体的に調べ、学ぶ姿勢が必要です。		
<p>目的：住み慣れた地域で暮らす人々とその家族を理解する</p> <p>目標：1. 住み慣れた地域を知る 2. 地域で暮らす人々の暮らしと健康に対する意識を知る 3. 地域で暮らす人々の暮らしと健康の関連について、ディスカッションを通して理解を深める</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	地域での暮らしを知る：地域の中での暮らしと健康・看護	講義	
2	地域での暮らしを知る：人々の暮らしと地域（統計資料等の活用） フィールドワーク準備	講義 グループワーク	
3	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の実態	フィールドワーク	
4			
5	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の実態	グループワーク	
6	地域で暮らしている人々の暮らしと健康の関連	発表・ディスカッション (ワールドカフェ方式)	
7			
8(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験40%、レポート課題：30%、グループワークの参加度：20%、受講状況：10% 評価基準参照		
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤</p> <p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践</p> <p><参考図書></p> <p>医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生</p>		
備考	市や観光協会のホームページなどで地域の暮らしに関する情報を幅広く入手する		

科目区分	専門分野	授業科目	地域で暮らす人を支えるしくみ
講師名	前田 こずえ 荒木 千紘 山本 悠策 (MSW)	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第1 学期
講義概要 メッセージ	本科目は「地域と暮らし」の積み上げ科目であることを意識して学習しましょう。健康な生活を送るためにどのような生活を支えるしくみ (地域包括ケアシステム) があるのか、調べ学習や施設見学、ディスカッションを通して理解を深めましょう。		
<p>目的：地域で暮らす人を支えるしくみを根拠となる法律や制度をふまえて理解する。</p> <p>目標：1. 地域で暮らす人を支えるしくみの概要を知る。 2. 地域で暮らす人を支えるしくみの根拠となる法律や制度について知る。 3. 地域で暮らす人を支えるしくみの課題について考える。</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	地域で暮らす人を支えるしくみについて：授業の進め方の説明	講義	
2	地域で暮らす人を支えるしくみ・社会資源について (地域包括ケアシステム)	グループワーク 調べ学習	
3	地域で暮らす人を支えている施設の実例	施設見学	
4	人々が地域で暮らすことを支えている施設の実例と根拠となる法律・制度 1) 施設見学して学んだ内容を整理する	グループワーク 調べ学習	
5	2) 1)について根拠となる法律や制度を調べる 3) 見学した施設の地域包括ケアシステムにおける位置づけ・役割を考える		
6	地域で暮らす人を支えるしくみの実際と地域の課題		
7		発表 ディスカッション	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験：40%、レポート40%、受講の状況：10%、発表・ディスカッションへの参加・貢献度：10% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 <参考図書> 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生		
備考	既習関連科目：地域と暮らし、地域・在宅看護概論 * 地域連携室職員は、グループワークや発表・ディスカッションの助言者として授業に参加する		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論
講師名	藤井光輝、中本稔、山根優子、 佐々木亜弥、山本悠策	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	「地域と暮らし」で知った地域の実情を踏まえて、実際に地域で働いている専門の講師とともに、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を一緒に考えていきましょう。		
目的：地域で暮らす療養者と家族を総合的に理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を学ぶ			
目標：	1. 地域看護学における在宅看護の位置づけと看護師の役割が理解できる 2. 地域・在宅看護を支える法令や制度を知り、在宅看護におけるケアマネジメントが理解できる 3. 在宅看護を受ける対象者とその家族の特徴、リスクマネジメント、権利保障について理解できる		
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1 (保健師)	地域看護学と在宅看護 地域看護学における在宅看護の位置づけ、地域包括ケアシステムについて	講義	
2	地域・在宅看護の目的と特徴 1. 地域・在宅看護のめざすもの、その人らしい暮らしを支える 2. 地域・在宅看護における看護師の役割	講義	
3	地域・在宅看護の対象者 地域・在宅の療養者の特徴（年齢、疾患、障害、要介護度、在宅療養状態別）	講義	
4	地域・在宅看護の対象者 地域・在宅看護の対象者としての家族	講義	
5	在宅療養の支援 1. 在宅看護の提供方法 外来看護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護、施設看護、通所サービス	講義	
6 (地域連携室)	2. 療養の場の移行 1) 患者・家族の意志決定支援と調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院時における医療機関との連携 4) 入退所時における施設との連携	講義	
7 (MSW)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法	講義	
8 (MSW)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 難病法、医療介護総合確保推進法、医療法、公費負担医療	講義	
9 (訪問看護師)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 訪問看護の制度、訪問看護サービスの提供	講義	
10 (ケアマネジャー)	ケアマネジメントと社会資源の活用 1) ケアマネジメントの概念 2) ケアマネジメントの過程 3) 社会資源の活用とサービスの調整 4) 介護保険と医療保険・障害者総合支援法との関連	講義	
11	ケアマネジメントと社会資源の活用（ケアプラン作成）	演習	
12 (地域連携室)	地域・在宅看護における多職種連携 連携の特徴、医師との連携、地域の社会資源との連携、ネットワークづくり	講義	
13	在宅看護における療養上のリスクマネジメント 転倒・転落、熱中症、窒息、火災防止、誤薬防止、感染防止、災害への対応	講義	
14	地域・在宅看護における権利保障 個人の尊厳、自己決定権、成年後見制度、虐待の防止	講義	
15 (45分)	地域・在宅看護における権利保障 個人情報保護、看護師の守秘義務	講義	
16 (45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（90%）ケアプラン作成課題（10%） 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践		
備考	既習関連科目：地域と暮らし		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論 I (日常生活援助)
講師名	中川 理恵	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
講義概要 メッセージ	病院から暮らしの場へ、生活を重視した在宅ケアが推進されています。日常生活を支える看護技術や在宅療養を支える医療ケアを学びましょう。		
<p>目的：在宅看護を展開するための基本技術や療養生活の継続を継続するための技術を習得する</p> <p>目標：1. 在宅療養者の生活と日常生活の具体的援助方法が考えられる 2. 在宅療養の代表的症状・状態に応じた看護が理解できる 3. 在宅で行われる医療処置の特殊性と具体的支援方法が理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	在宅療養の場 1) 療養の場の環境 2) 療養の場の環境調整	講義	
2	食事の援助 1) 在宅療養での食生活の特徴：脱水予防 2) 胃瘻、経管・経腸栄養 3) 在宅中心静脈栄養法	講義・演習	
3	排泄の援助 1) 在宅での排泄の特徴 2) ストーマ：人工肛門・人工膀胱 3) 尿道カテーテル：留置カテーテル・間欠導尿	講義・演習	
4	移動・移乗の援助 1) 在宅での移動・移乗の特徴 2) 日常生活動作 (ADL)、手段的日常生活動作 (IADL) 3) 廃用症候群のリスク、予防とケア	講義・演習	
5	清潔の援助 1) 介助入浴方法 2) 簡易浴槽での入浴 3) 畳の上での洗髪方法	講義・演習	
6	在宅における治療継続の援助 1) 服薬と日常生活管理 2) 在宅自己注射 3) 疼痛管理 4) 在宅酸素、人工呼吸器 5) 吸引、排痰援助	講義・演習	
7	感染予防の技術 療養者・家族の教育について	講義	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (70%) 演習レポート (30%) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 <参考図書> 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 根拠がわかる在宅看護技術：メディカルフレンド社		
備考	既習関連科目：地域・在宅看護概論、生活援助技術		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ (事例展開)
講師名	前田 こずえ(20) 松下 真理(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期～第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	地域・在宅看護論実習Ⅲに行く前に、訪問看護に必要な基本的知識や態度を身につけ、様々な病気を持ちながら地域で暮らしている在宅療養者やその家族に対する看護を具体的事例を通して学ぶ授業です。		
目的：地域で生活しながら療養する人々とその家族を総合的に理解し、在宅看護を展開するための基礎を学ぶ 目標：1. 在宅療養者と家族を総合的に理解するための情報収集の視点が理解できる 2. 在宅療養者と家族の生活上の問題をアセスメントすることができる 3. 在宅療養者と家族の状況に応じた看護が理解できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	在宅看護に必要な基本的態度とマナー (心構え、服装、身だしなみ、挨拶、態度や行動、距離感等)	講義・演習	
2	在宅看護における看護の展開のポイント、介入時期別の特徴 健康な時期、外来受診期、入院時、在宅療養準備期(退院前)、在宅療養移行期、在宅療養安定期、急性増悪期、終末期(グリーフケア含む)、	講義	
3	退院支援・退院調整から在宅療養へ移行する看護(事例：脳卒中)	講義	
4	長期的な支援が必要な在宅療養者の看護(事例：パーキンソン病)	講義	
5	終末期がんの在宅療養者の看護(事例：膵臓がん、腹膜播種、腹水貯留)	講義	
6	独居で認知症のある在宅療養者の看護(事例：前頭側頭型認知症)	講義	
7	在宅看護における基本的情報収集項目と情報の整理(事例：COPD、肺炎)	講義・演習 (グループワーク)	
8	在宅療養者の身体的・精神的・社会的側面の理解(事例：COPD、肺炎)		
9	在宅療養者を支える家族および社会資源の活用(事例：COPD、肺炎)		
10	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント①(事例：COPD、肺炎)		
11	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント②(事例：COPD、肺炎)		
12	生活上の問題に対する看護介入①(事例：COPD、肺炎)		
13	生活上の問題に対する看護介入②(事例：COPD、肺炎)		
14	12、13回目の内容をもとに、訪問場面のロールプレイ(事例：COPD、肺炎)	演習	
15(45分)			
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験(40%)、演習の課題レポートの提出(50%) 演習への参加状況(10%) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践		
備考	第1回、第3～6回は外部講師(訪問看護師)が担当する。 第2回、第7～15回は地域・在宅看護論領域の教員が担当する。		

成人看護学

■構築の考え方

成人看護学では、老年を迎える迄の 40～50 年間とされている。対象は、青年後期から壮年期、向老期にある人々である。

青年後期は、急激な心身の成熟、親から独立し、職業を選択する時期であり、身体的な不均衡や心理・社会的な不安定が生じ危機をはらむ状態にある。壮年期は、結婚し、夫婦の協力のもとに家庭を築き、信頼と愛情と男女それぞれの役割を遂行する。妊娠・分娩を経て育児を行うなかで、父親役割、母親役割を果たす。結婚・妊娠・分娩・育児を通じて、家庭を築き営んでいくための身体の健康、および家族の人間関係、さらに家族における役割行動の遂行上の心理・社会的問題が、壮年期の重要な健康問題となる。成人期においては、様々な仕事上のストレス等が、健康問題として身体面・精神面・社会面と多大な影響を及ぼすことがある。

向老期は、身体的・精神的衰退の自覚や退職を迎える時期であるが、精神活動を充実させるとともに、これから迎える老年期の自立に向け準備する時期である。

老化の出現により生体機能の衰退をもたらす。老化の進行を抑え、老化からの機能低下に適応し、健康を保持していくことが必要となる。つまり成人期は、職業生活、家庭生活、人間関係も複雑で多様な役割を担い、自立していかなければならないという特徴がある。したがって、成人の健康問題はいかに身体機能の低下を予防し、そこで生じた機能低下に適応し、健康を保持するかということが重要となる。

「成人看護学概論」では、成人期にある対象の特徴や看護の目的を理解し、成人保健、健康段階別の看護について学ぶ内容とした。さらに、健康障害時の看護について、健康障害時の反応と適応過程を器官系統別に学んでいく。

「成人看護援助論Ⅰ～Ⅳ」では、器官系統別の特徴的な疾患主要症状に沿って、罹患した患者に対する看護について治療経過とともに学ぶ内容とした。

「成人看護方法演習」では、急性回復期・終末期の事例展開をアクティブラーニングで行う教育内容とした。演習を通して、判断力や応用能力、グループ間での協調性も養えるようにと教育に取り入れた。社会環境の影響と健康問題を考え、さらに個人の健康的な生活習慣獲得への取り組みをサポートし、セルフケアの確立をめざすための支援を考える。

急性期～回復期の事例展開では、身体侵襲に伴う生体反応について考え、観察技術・回復に向けた援助を学ぶ。さらに、手術に伴い生じた機能障害に対し、日常生活への適応に向けた支援の在り方を学ぶ内容を教育内容とした。終末期の事例展開では、死にゆく患者の受容過程を考えながら、患者が安楽に過ごせるように症状マネジメントや症状コントロールについて考え、どのように支援していくかを学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護学概論
講師名	(岩国)藤原 美由紀 (浜田)前田こずえ・(呉)東活年	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	1 年次前期～後期
授業概要 * 講師からのメッセージ	<p>学生の皆さんも成人期にある「人」であることを意識し、自分自身をみつめるきっかけにし、学習してほしいと思います。</p> <p>また、大人の生活と健康に関する基本的な知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対する看護アプローチの基本的な考え方や方法を学びます。そして、広い視野で人々の健康と、健康を支援するために必要な看護や役割を考えられることを目指したいと思います。</p>		
<p>目的: 成人期にある対象を理解し、看護の役割について学ぶ</p> <p>目標: 1. 成人期にある特徴が理解できる 2. 成人期にみられる健康障害が理解できる 3. 成人期にある対象の看護に有効な概念が理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1.対象の理解 1)生涯発達の特徴 2)成長発達段階の特徴 ①青年期(身体の発達・心理・社会的発達)	3 校合同講義	
2	②壮年期(身体の発達・心理・社会的発達) ③向老期 3)対象の生活 ①生活を営むこと ②仕事をもち働くこと	3 校合同講義	
3	2. 生活と健康 1)成人を取り巻く環境からみた健康	3 校合同講義	
4	2)成人の健康状況	3 校合同講義	
5	3. 成人への看護のアプローチの基本 1)大人の健康行動のとらえ方 ①大人の学習 2)行動変容を促進する看護アプローチ ①自己効力感 ②エンパワメントアプローチ	3 校合同講義	
6	3)健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 ①看護アプローチ ②チームアプローチ ③意思決定支援 ④家族支援	3 校合同講義	
7	4. ヘルスプロモーションと看護 1)健康づくり 2)健康増進のための環境づくり 5. 健康を脅かす要因と看護 1)ライフスタイル健康障害	グループワーク	
8	2)ストレスと健康生活 ストレスコーピング理論 3)生活行動がもたらす健康問題とその予防	3 校合同講義	
9	国民衛生の動向 人口動態について	各校で実施	
10	国民衛生の動向 成人期の環境から健康障害について (各期の死因・婚姻・離婚・生活習慣病等)	各校で実施	
11	6. 健康生活の破綻と回復を支える看護 1)健康の急激な破綻 2)急性期にある人の看護 危機理論・障害受容	3 校合同講義	
12	7. 慢性病とともに生きる人を支える看護 1)慢性病とともに生きる人の理解 病みの軌跡	3 校合同講義	
13	2)慢性病とともに生きる人を支えるセルフケア理論 3)生活再構成への支援	3 校合同講義	
14	8. 人生最期のときを支える看護 1)自己決定を重視した医療へ 2)人生最期のときにおける緩和ケア 3)人生最期のときを過ごしている人の理解	3 校合同講義	
15	前半: 終了試験(45 分) 後半: まとめ(各校)		
評価方法	課題レポート 30 点、筆記試験 70 点 評価基準参照		
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向 2024/2025		
備考	関連科目: 看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論 I (消化器 栄養代謝・内分泌)	
講師名	嵐 友哉・前森 陽二郎 (14) 加戸 なつみ・縄 一枝 (16)	実務経験の有無	有	
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期	
授業概要 * 講師からのメッセージ				
<p>目的：成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p> <p>目標：1. 成人期の消化器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の栄養代謝機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の内分泌機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p>				
回	授 業 内 容		授業方法	
1	消化器	1. 食道癌 1) 症状別看護 (嚥下困難など) 2) 検査に対する看護 (上部消化管内視鏡検査など) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (胸部食道全摘術)	講義	
2~3		2. 胃癌 1) 症状別看護 (吐き気・嘔吐、腹痛、吐血、食欲不振など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (胃全摘術、腹腔鏡下胃切除術) (2) 内科的治療：ESD	講義	
4~5		3. 大腸癌 1) 症状別看護 (下血、下痢、便秘、腹部膨満など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (結腸切除術、腹会陰式直腸切断術) (2) 内科的治療	講義	
6		4. 胆石 1) 症状別看護 (腹痛など) 2) 検査に対する看護 (内視鏡的逆行性胆管膵管造影 ERCP) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (腹腔鏡下胆嚢摘出術) (2) 内科的治療：ENBD、PTCD	講義	
7		5. 膵炎 1) 症状別看護 (腹痛など) 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
8~9		栄養代謝	1. 肝炎 1) 急性肝炎 (1) 症状別看護 (倦怠感など) (2) 検査に対する看護 (3) 治療/処置別看護 2) 慢性肝炎 (1) 症状別看護 (2) 検査に対する看護 (肝生検など) (3) 治療/処置別看護	講義
10~11			2. 肝硬変 肝がん 1) 症状別看護 (吐き気・嘔吐、腹痛、吐血、腹部膨満、食欲不振、腹水、黄疸、意識障害) 2) 検査に対する看護 (肝機能検査、腹部超音波など) 3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 (2) 肝動脈塞栓術 (3) 食道静脈瘤内視鏡治療 (4) PEIT	講義
12	3. 脂質異常症 高尿酸血症 肥満 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 (血液検査など) 3) 治療/処置別看護		講義	
13	内分泌	1. 甲状腺機能亢進症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
14		2. 甲状腺機能低下症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義	
15 (45分)	まとめ			
16 (45分)	終了試験			
評価方法	科目評価は 100 点満点 45 分 評価基準参照			
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			
備考	特記なし			

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅱ (腎・泌尿器、呼吸器、循環器)
講師名	橋本美咲(10) 藤井芽衣子(10) 末友佐恵子・隅井千晴(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的: 成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
目標:			
1. 成人期の腎・泌尿器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
2. 成人期の呼吸器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
3. 成人期の循環器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 腎・泌尿器疾患 (前立腺肥大、腎・尿路結石、膀胱癌、腎癌) 1) 症状別看護 (1) 蓄尿・排尿障害 (2) 生命・生活への影響(ストーマ造設・自己導尿) 2) 検査に対する看護(検査前・中・後の観察を中心に) (1) 残尿測定 (2) 膀胱鏡検査 (3) 尿流動態検査		講義
2~3	腎・泌尿器	3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法(膀胱切除術・前立腺切除術) ① 術前の看護(看護目標設定とアセスメントの視点を中心に) 全身管理(血圧管理・呼吸管理・水分輸液管理)・危険防止・術前準備(ボディイメージの変容・ストーマケア) ② 術後の看護(合併症の観察・早期発見・予防に必要な看護を中心に) 術後合併症(呼吸器合併症・後出血・感染・腎機能障害・吻合部狭窄・ストーマ合併症) 全身管理(血圧管理・呼吸管理・水分輸液管理・深部静脈血栓症) 必要な観察と看護(ドレーン・膀胱留置カテーテル) ③ 術後の日常生活援助 ・活動・リハビリに対する援助 廃用性症候群の予防 転倒転落予防 ・環境整備・食事と栄養に対する援助・排泄機能の評価とストーマ管理 ・清潔・更衣・整容に対する援助 (2) 内科的治療 体外衝撃波結石破碎術(ESWL)・経尿道的尿管碎石術(TUL) 経皮的腎(尿管)碎石術(PNL) ①治療前の看護 ②治療中の看護 ③ 治療後の看護 (3) 薬物療法に必要な観察と看護 (4) ホルモン療法 (5) 放射線療法	講義
4		4) 健康レベル別援助 (1) ストーマ造設時の居住環境の整備と環境整備 (2) リハビリテーションにおける看護の役割、膀胱訓練(骨盤底筋体操)・自己導尿 (3) 家族への支援、家族の悲嘆へのケア (4) 障害に対する受容と適応への心理的支援看護 ボディイメージの変容に対する看護 (5) 社会的支援の獲得への看護と退院支援 (退院調整 多職種連携)	講義

		社会資源の情報提供、就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)	
5～6	呼吸器	1. COPD（慢性閉塞性肺疾患）患者の看護 1) 症状別看護 (1) 酸素化障害・換気障害 (2) 全身状態 2) 検査に対する看護 (1) 呼吸機能検査 (2) 胸部レントゲン検査 (3) 喀痰検査 (4) 血液検査（動脈血ガス分析） (5) 気管支鏡検査 3) 治療/処置別看護 (1) 酸素療法・在宅酸素療法 (2) 呼吸リハビリテーション・体位ドレナージ（演習） (3) 薬物療法（気管支拡張薬：吸入） (4) 非侵襲的陽圧換気（NPPV） (5) 侵襲的陽圧換気（人工呼吸器管理） (6) 生活指導（効果的な咳嗽方法・食事療法・感染予防・禁煙指導）	講義・演習
7～8		2. 肺炎患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点 2) 呼吸困難感の緩和及び増悪予防に応じた日常生活援助方法 3) 治療（薬物、手術）に伴う看護 4) 生活指導 3. 肺癌患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点（咳嗽・喀痰・血痰・喀血・呼吸困難・胸痛） 2) 胸腔穿刺・胸腔ドレナージ（低圧持続吸引器の管理）を受ける患者の看護 3) 呼吸困難感の緩和及び増悪予防に応じた日常生活援助方法 4) 治療（薬物、手術）に伴う看護（術後疼痛の緩和・術後合併症の予防） 5) 生活指導（精神面の援助・退院指導）	講義
9		4. 気管支喘息患者の看護 1) 観察、アセスメントの視点（全身状態・呼吸状態・発作状況） 2) 治療に伴う看護（薬物療法：内服・吸入） 3) 適切な体位に応じた日常生活援助方法・生活指導	講義
10～11	循環器	1. 心不全患者の看護 1) 症状別看護 (1) 浮腫 (2) 呼吸困難 (3) チアノーゼ 2) 検査に対する看護 (1) 胸部レントゲン検査 (2) 心電図、心エコー (3) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 合併症の予防 (4) 心臓リハビリテーション (5) 自己管理への支援（退院指導） 4) 健康レベル別援助 (1) 診断されることに伴う心理的反応 (2) 長期間の自己管理に伴う問題	講義
12～13		2. 虚血性心疾患のある患者の看護 1) 症状別看護 (1) 胸痛 (2) 心原性ショック 2) 検査に対する看護 (1) 心電図 (2) 運動負荷試験 (3) 心エコー検査 (4) 心臓カテーテル検査 (5) 心筋シンチグラム (6) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 経皮的冠動脈形成術(PCI) (3) 冠動脈バイパス術(CABG) (4) 弁置換術・弁形成術 (5) 大動脈内バルーンポンピング(IABP) (3) 心臓リハビリテーション (4) 自己管理への支援	講義

		<p>4) 健康レベル別援助 (1) 患者の心理の理解 (2) 治療選択の援助 (3) 生活スタイル変更の援助 (4) 自己管理実践に向けての援助</p>	
14		<p>3. 不整脈のある患者の看護 1) 症状別看護 (1) 胸痛・動悸 (2) 気分不快 2) 検査に対する看護 (1) 心電図 (2) 胸部レントゲン (3) 血液検査 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) ペースメーカー挿入術 4) 健康レベル別援助 (1) 患者の心理の理解 (2) 治療選択の援助 (3) ペースメーカー挿入中の看護 (4) 社会保障に関する情報提供 (4) 生活スタイル変更の援助 (5) 自己管理実践に向けての援助</p>	講義
15 (45分)	まとめ		
16 (45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論</p>		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅲ (血液・造血器 身体防御性・生殖・乳腺 感覚器)
講師名	竹元千恵・水野綾花(14) 當田晶子(6) 米村慎太郎(4) 三家本八千代(6)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：成人期の機能障害を持つ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p> <p>目標：1. 成人期の血液・造血器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の身体防御機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の性・生殖・乳腺機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 4. 成人期の感覚器機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる</p>			
回	授 業 内 容		授業方法
1	血液	1. 造血器疾患の概要 1) 造血機能と骨髄異形成症候群 2) 造血機能障害と汎血球減少 3) 貧血 4) 化学療法 5) 輸血療法と造血刺激因子の投与	講義
2~3	造血器	2. 白血病 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 (1) 骨髄移植	講義
4		3. 悪性リンパ腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
5		4. 多発骨髄腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
6~7		身体防御 1. アトピー性皮膚炎 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. 食物アレルギー 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 3. 感染症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 4. 自己免疫疾患のある患者の看護 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護	講義
8	性・生殖・乳腺	1. 子宮筋腫 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. 子宮内膜症 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
9		3. 子宮頸癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 4. 子宮体癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
10		5. 卵巣癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
11~12		6. 乳癌 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
13~14	感覚器	1. 突発性難聴 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 2. メニエール病 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護 3. 鼻出血 1) 症状別看護 2) 治療/処置別看護 4. 白内障 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護 5. 緑内障 1) 症状別看護 2) 検査に対する看護 3) 治療/処置別看護	講義
15(45分)	まとめ		
16(45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院：系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護援助論Ⅳ (脳・神経、運動機能(整形)、内部環境)
講師名	小島 祐子(12) 中田 千香子(10) 岡田 幸子(8)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的: 成人期の機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 目標: 1. 成人期の脳神経機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 2. 成人期の運動機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる 3. 成人期の内部環境機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる			
回	授業内容		授業方法
1~2	脳・神経	1. 脳血管疾患 1) 症状別看護(意識障害・言語障害・認知症・運動麻痺・運動失調・不随運動・痙攣・感覚障害・嚥下障害・排尿障害・呼吸障害・頭蓋内圧亢進のある患者の看護)	講義
3~4		2) 検査に対する看護(CT・MRI、髄液検査、脳血管撮影、脳波検査、簡易知能検査) 3) 治療/処置別看護 (1) 開頭手術を受ける患者の看護 (2) 薬物療法を受ける患者の看護 (3) リハビリテーションを受ける患者の看護	講義
5 6(45分)		4) 健康レベル別援助(1) 急性期・回復期・慢性期の患者の看護 (2) 片麻痺がある患者の看護(食事・排泄・清潔・更衣・整容・移動)(演習) 自助具・自助具の活用、居住環境の整備と環境整備 (3) 意識障害のある患者の口腔ケア(演習) 2. 脳腫瘍患者の看護 3. 頭部外傷患者の看護	講義 演習
7~8	運動機能	1. 大腿骨頸部骨折 1) 症状別看護(1) ギプス固定 (2) 牽引療法 (3) 介達牽引 2) 検査に対する看護 (1) 関節可動域検査 (2) 徒手筋力テスト	講義
9~10		3) 治療/処置別看護 (1) 手術療法 ①手術前の看護 ②手術後の看護 ③合併症 ④リハビリテーション 2. 関節の炎症疾患患者の看護 3. 脊椎疾患患者の看護 4. 四肢切断後の患者の看護	講義
11	内部環境	1. 代謝機能障害の対象の看護(糖尿病) 1) 症状別看護(口渴、多飲、多尿、全身倦怠感、脱力感、無気力感、眠気、意識障害) 2) 検査に対する看護(空腹時血糖、経口ブドウ糖負荷試験、血糖自己測定) 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 運動療法 (3) 食事療法 (4) 生活指導 (5) 低血糖症状出現時の対応と指導 4) 健康レベル別援助(診断されることに伴う心理的反応、長期間の自己管理に伴う問題)	講義
12		5) 簡易血糖測定	演習
13~15		2. 腎機能障害のある患者の看護(急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病) 1) 症状別看護(浮腫、脱水) 2) 検査に対する看護(腎機能検査、静脈性尿路造影、腎生検) 3) 治療/処置別看護 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 血液透析 (4) 急性期持続血液濾過透析(CHDF) (5) 腹膜透析(CAPD) (6) 腎移植 4) 健康レベル別援助(患者の心理の理解、治療選択の援助、透析と社会保障に関する情報 提供、生活スタイル変更の援助、自己管理実践に向けての援助)	講義
16(45分)	終了試験		
評価方法	科目評価は100点満点 45分 評価基準参照		
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院: 系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論		
備考	特記なし		

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	畑中 美保	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの20時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	急性期に必要な身体侵襲のプロセスを振り返りながら学んでいきます。解剖生理や手術侵襲だけでなく、退院に向けて生活支援の知識も必要となります。短い入院期間に必要な知識・技術を整理しながら学んでいきましょう。		
目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる 目標: 1. 急性期にある患者の看護過程が展開できる 2. 回復期にある患者の看護過程が展開できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	【急性回復:胃がん事例】 1. 情報収集	講義・演習	
2~4	2. 情報分析 1)術前の全身状態の把握と術後に起こりうる問題の予測 2)機能低下に伴う術後に起こりうる問題の予測 3)術後侵襲・全身麻酔の影響 4)危機理論、ストレスコーピング理論の活用の視点	講義 グループワーク	
5	3. 看護問題の抽出 1)全身麻酔の合併症 2)術後の苦痛	講義 グループワーク	
6~8	4. 術後の機能障害と生活への影響(講義・演習) 1)教員によるモデル人形を使用したデモンストレーション 2)術直後の全身状態の観察 3)創傷管理(創部の観察、アセスメント) 5. 看護計画の立案(講義・演習) 1)術後合併症の早期発見 2)術後合併症の予防 3)術後の苦痛緩和 4)術後機能障害 5)退院に向けた生活指導	講義・演習	
9~10	6. 看護計画の立案(講義・演習)(非効果的自己健康管理) (栄養指導:ダンピング症候群予防など)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(60点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 2. 医学書院:系統看護学講座 臨床看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 3. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 4. 医学書院:NANDA-I看護診断定義と分類		
備考 参考図書	1. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護 外来/病棟における術前看護 2. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:術中/術後の生体反応と急性器看護 3. 医歯薬出版株式会社:高齢者と成人の周手術期看護:回復期/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 4. 学研:よくわかる周手術期看護 5. 学研:疾患別看護過程の展開		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護方法演習
講師名	尾川 ひとみ	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間のうちの10時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	終末期の看護過程を学びます。成人期の発達課題には様々なものがあります。そのような発達段階にある患者が疾患により死を迎える過程で、どのような看護が必要なのかを学びます。また、患者本人だけではなく、看護の対象には家族も含まれます。家族へはどのような看護があるのか一緒に考えていきましょう。		
目的:急性期・回復期・終末期にある患者の看護が展開できる 目標:終末期にある患者の看護過程が展開できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1~2	【終末期:肝硬変・肝がん事例】 1. 情報収集 2. 情報分析 1)苦痛(悪心嘔吐、疼痛、搔痒感、腹部膨満感、便秘、倦怠感、食欲不振)と日常生活への影響 2)治療による影響 3)死の受容プロセス 4)患者・家族のニーズや生活(社会生活も含む)への影響	講義・演習	
3	3. 看護問題の抽出 1)患者・家族の看護上の問題の把握	講義 グループワーク	
4~5	4. 看護計画の立案 1)状態把握のための観察 2)症状マネジメント(がん性疼痛、黄疸、腹水、浮腫、肝性昏睡、肝腎症候群 消耗性疲労、全人的苦痛、便秘など) 3)日常生活の支援 4)患者・家族の予期悲嘆と援助(グリーフケアを含む)	講義・演習	
評価方法	課題およびレポート(40点) 評価基準参照		
テキスト	1. 医学書院:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 2. 医学書院:別巻 緩和ケア 3. 医学書院:NANDA-I 看護診断定義と分類		
参考図書	学研:疾患別看護過程の展開		
備考	病態治療学Ⅰ、成人看護援助論Ⅰで学んだ内容と関連あり		

老年看護学

■構築の考え方

老年看護学では、加齢変化や長年の生活習慣による影響を踏まえ、健康の維持増進、健康管理、さらに日常生活の援助が求められている。さらに、避けることのできない日々衰えていく加齢変化や喪失体験の失調要素と、様々な困難の中でも今まで生き抜いてきた統合という同調要素が対立し成長し続けている対象に対して、人生最期の時である、安らかな死が迎えられるよう援助することである。高齢者ひとり一人には、その人の歴史がある。そのため個人によって老いの現れ方は、多様で個別性が高いことを踏まえ、その人らしさを受け止めていくことを学ぶ内容とした。また、疾病や健康障害を持ちながら日常生活に適応でき、自立・自律した生活が送れるように、高齢者の生活機能をアセスメントし、健康問題を解決するための援助を学ぶ内容とした。また、平均寿命にして80年を超える時代となり、疾病・障害という健康や介護の問題、老いの時間をどう築くかという生活基盤の問題、また高齢者をどのように社会が支援していくのか、高齢者の社会福祉制度や高齢者を取り巻く保健・医療・福祉対策について学習する。「老年看護学概論」では、老年期にある対象を理解し、老年期の看護の基本的な考えを学び、「老年看護援助論Ⅰ」で、高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践ができるための知識や技術を修得させる。「老年看護援助論Ⅱ」では、健康障害のある高齢者の看護や認知症看護、治療処置を必要とする高齢者の看護を学ぶ内容とした。これらの学習を踏まえ「老年看護援助論演習」では、慢性期の看護過程の展開を学ぶ構成とした。

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護学概論
講師名	福嶋洋子、田儀千代美、道中俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次・学期	1年次 第2学期
授業概要*講師からのメッセージ	「老い」について理解し、高齢者の生活を支援する看護の役割について考えてほしい。		
目的：老年看護学の概念と、老年期にある対象と家族を理解する。また我が国の高齢者を取り巻く社会システムや看護の役割について理解する。			
目標：1. ライフサイクルにおける老年期の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。 2. 高齢化が社会生活に及ぼす影響について理解する。 3. 老年期の対象者を尊重する態度・老年観を持つ。 4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の動向と看護の役割を説明できる。			
回	授業内容		授業方法
1	老年期の対象の理解 1) 老年期の定義 2) 老年看護の目的と高齢者のQOL 3) 加齢に伴う変化(身体的側面・精神的側面・社会的側面)		講義
2	老いるということ、老いを生きるということ 1) 老年期の発達課題 2) 高齢者のセクシュアリティ 3) 社会参加		講義
3	身体の高齢変化とアセスメント(高齢者疑似体験)		各校 演習
4	1) 高齢者疑似体験による老年期の生活の理解		
5	高齢者のヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの基本		講義
6	身体の高齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器 2) 感覚器		講義
7	身体の高齢変化とアセスメント 1) 循環器 2) 呼吸器 3) 消化器 4) ホルモン分泌		講義
8	身体の高齢変化とアセスメント 1) 泌尿生殖器 2) 運動器 3) ロコモティブシンドローム 4) サルコペニア		講義
9	老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護における理論・概念の活用 3) 老年看護に携わる者の責務		講義
10	高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 身体拘束		講義
11	高齢者の権利擁護 1) 高齢者虐待 2) 権利擁護のための制度		3校合同講義 グループワーク
12	超高齢社会と社会保障：超高齢社会の統計的輪郭 1) 超高齢社会の現状 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の健康状態 4) 高齢者の死亡 5) 高齢者の暮らし		3校合同講義 グループワーク
13	超高齢社会と社会保障：高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者にかかわるシステムの構築 (1) 医療福祉制度の変遷 (2) 介護保険制度の整備 (3) 高齢者医療のしくみ (4) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化		3校合同講義 グループワーク
14	生活・療養の場における看護 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 3) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護		3校合同講義 グループワーク・討議
15(45分)	まとめ		
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 100% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 老年看護学		
参考書	一般財団法人 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指標		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論Ⅰ(健康生活と予防)
講師名	岸本 由香(3) 前田 葵(6) 今若 育穂(6)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	<p>目的:高齢者の生活維持・健康生活のための看護実践が出来るための知識・技術を修得する。</p> <p>目標:1. 高齢者のヘルスアセスメントについて理解できる。</p> <p>2. 高齢者に起こりやすい症状が理解できる。</p> <p>3. 高齢者の自立を支える看護方法が実践できる。</p> <p>4. 高齢者の日常生活に潜む事故について理解できる。</p> <p>5. 高齢者の終末期症状と看護の実際が理解できる。</p>		
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 高齢者の生活機能を整える看護 1)日常生活を支える基本的活動 ①転倒のアセスメントと看護 ②廃用症候群のアセスメントと看護	講義	
2	2)食事・食生活 ①高齢者における食生活の意義 ②高齢者に特徴的な変調(摂食嚥下障害・低栄養) ③食生活のアセスメント ④食生活の支援 ⑤嚥下訓練(演習)	講義 演習	
3	3)排泄 ①高齢者の排泄ケアの基本 ②排尿障害のアセスメントとケア ③排便障害のアセスメントとケア	講義	
4	4)清潔 ①高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題(皮膚の変化(褥瘡予防)・ドライスキン) ②清潔のアセスメント ③清潔の援助(入浴・フットケア)④入浴行動に伴う危険性 ⑤嚥下障害のある高齢者の口腔ケア(義歯洗浄を含む)	講義	
5	5)生活リズム ①高齢者と生活リズム ②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント ④生活リズムを整える看護 6)コミュニケーション ①高齢者とのコミュニケーションとかわり方の原則 ②コミュニケーション能力のアセスメント ③高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法	講義	
6	2. 高齢者のリスクマネジメント 1)高齢者と医療安全 ①高齢者と医療事故 ②高齢者特有のリスク要因 ③高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際(熱傷・誤嚥・チューブ類の自己除去) 2)高齢者と災害	講義	
7	3. 高齢者のエンドオブライフケア 1)エンドオブライフケアの概念 2)意思決定への支援 3)末期段階に求められる援助	講義	
8(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論Ⅱ (主要症状・治療別)
講師名	道中 俊成	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	高齢者の特有な疾患・障害を理解し、健康状態や受療状況に応じた看護を学びましょう		
目的：老年期にあり障害をもつ対象の健康回復に関わる看護と老年期にかかり易い主要症状・治療の看護について理解する。			
目標：1. 老年期にある対象の疾病や障害の現れ方の特徴が理解できる。 2. 老年期に起こりやすい健康問題、対象に合わせた看護を理解できる。			
回	授 業 内 容		
1	1. 治療を必要とする高齢者の看護：講義 1) 検査をうける高齢者の看護 ①高齢者が受けることの多い検査 ②検査を受ける高齢者への援助 2) 薬物治療を受ける高齢者の看護 ①加齢に伴う薬物動態の変化 ②高齢者に特徴的な薬物有害事象 ③服薬管理能力のアセスメントと服薬支援		
2	3) 手術を受ける高齢者の看護：講義 ①手術を受ける高齢者の特徴 ②術前・術後の看護マネジメント 4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
3	2. 健康逸脱からの回復を促す看護：講義 1) 症候のアセスメントと看護 ①発熱 ②痛み ③脱水 ④スキン-ケア(皮膚裂傷)		
4・5	3. 疾患のある高齢者の看護：講義 1) 脳卒中 2) 心不全 3) 糖尿病 4) 慢性閉塞性肺疾患 5) がん 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群 7) インフルエンザ 8) 肺炎		
6	9) 骨粗鬆症 10) 骨折 ①脊椎圧迫骨折 ②大腿骨近位部骨折		
7	4. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症 ①認知症の分類 ②症状 ③認知機能および生活機能の評価 ④認知症看護の原則		
8(45分)	終了試験		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院：系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護援助論演習
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	1 年次の共通基本技術(看護過程の基礎)での学びを土台に、加齢による機能低下など老年期の特徴をふまえて看護過程を展開することを学ぶ授業です。 成人・老年看護学実習 I (対象理解/看護過程の展開)につながります。		
目的:健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開方法を理解する 目標:1. 健康問題を持った老年期の状態をアセスメントできる 2. それぞれの健康状態に応じた日常生活への援助方法を計画できる			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	事例提示 疾患の理解(糖尿病のある脳梗塞患者)	講義	
2	老年期および回復期の理解 1)健康レベルにある対象の状況 2)患者看護に求められる能力 3)看護過程の展開の意義・目的 4)データベースを活用した情報収集の意味 5)情報(生活・健康・家族歴)聴取の進め方	講義 演習	
3	回復期の情報収集の視点 1)回復期の患者の状態を判断し解剖生理学の視点から情報を分析していく必要性 2)患者の状態変化に応じた分析とは 3)理論を用いた情報分析 4)座標を用いて情報の関連を理解する	講義 演習	
4	情報分析と計画立案(ゴードン機能的健康パターン 看護診断 NANDA-I を活用) 1)健康認識・健康管理 2)栄養・代謝 3)排泄 4)活動・運動 5)睡眠・休息 6)認知・知覚 * 情報収集内容 ・アセスメント内容 ・看護計画の実施と修正	演習 グループワーク	
5	情報分析と計画立案(ゴードン機能的健康パターン 看護診断 NANDA-I を活用) 7)自己知覚・自己概念 8)役割・関係 9)生・生殖 10)コーピング・ストレス 11)価値・信念 * 情報収集内容 ・アセスメント内容 ・看護計画の実施と修正	演習 グループワーク	
6	発表と振り返り 1)どんな情報収集が適切だろうか 2)アセスメントと看護計画について	発表 ディスカッション	
7(45分)			
評価方法	看護過程の展開:課題レポート 80%、受講状況(出席・態度・提出物) 20% 評価基準参照		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院:系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		
備考			

小児看護学

■構築の考え方

小児看護学では、急速に変化する小児医療や社会の中で、子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じた看護を考えることを学習する。小児看護の対象は、子ども及びその家族であり、健康な子どもがより健全な成長・発達を遂げられるよう援助する。少子高齢化社会の中で、子どもは同胞あるいは様々な年齢の人々との関わりが減り、社会性が育まれにくい環境にあり不登校や心身症の子どもが増加している。また核家族化に伴い地域に子育ての支援者がいないことが育児期の親の負担感や孤立感を増大させ育児不安や児童虐待などの深刻な問題に結びついている。小児期は絶え間ない成長発達をとげる時期であり、小児期の過ごし方はその後の身体的・精神的・社会的発達や健康生活に大きく影響を与える。そのため小児看護に携わるものは、現代の子どもと家族の特徴を理解し、小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう子ども及びその家族に対する看護を学ぶ必要がある。小児看護学を学ぶ当校の学生もまた、少子化、核家族化のなかで育ち、子どもと接する機会が少ない状況や、家庭と学習を両立しながらその役割を果たしている等といった、まさしく多様化の中で学んでいる。小児看護学ではこのような学生の現状も踏まえ、まず、小児という対象の理解を十分にできるように子どもを取り巻く環境と小児各期の特徴を理解できるように考えた。そのうえで小児の成長と発達段階に応じた養護、健康のレベルと家族の状況に応じた看護ができる基礎的能力を学ぶ内容に構成した。

「小児看護学概論」では、ライフサイクルから見た小児各期の特徴を理解するとともに、成長発達について形態的成長、機能的・精神運動的発達から学ぶ内容とした。その上で、成長発達に応じた日常生活援助の方法について学習する。小児各期の特徴を踏まえ、また小児期の生活の過ごし方がその後の生活習慣に大きな影響を及ぼすことを家族のあり方などから考えさせていく。その過程で、社会資源の活用が重要であることを理解するために、小児の健康的な発達を支える社会、環境、法律についての理解を深める。「小児看護学疾病論」では、主な健康障害の理解と先天性疾患や成長発達障害、感染症については小児特有の疾患を中心に教授する。「小児看護援助論」では、小児の疾患で学んだ主要疾患の看護の理解を通して、子どもの状態・状況に応じた看護や小児に特有の看護技術を学習する（NICUで治療する小児に対する看護を含）。疾病や入院によって引き起こされる子どものさまざまな心理的混乱を理解し、認知の発達レベルに応じたプレパレーションについて学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学概論
講師名	木原 千絵(17) 平田 洋子(12) 山中 真弓、小笠原 茉緒	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	少子高齢社会にある現在の子どもとその家族への看護に必要な知識と考え方の基礎について、演習を踏まえて学んでいきます。		
<p>目的：小児看護学の概念と対象について理解し、小児看護の目的と役割について総合的に理解する 小児保健の意義と看護の役割について理解する</p> <p>目標：1. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的、課題を理解できる 2. 小児の特徴を理解できる 3. 小児を取り巻く環境を理解できる 4. 小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児とは 2) 小児期の範囲 3) 小児期の区分 4) 成長・発達概念 5) 小児の特徴 6) 小児看護の対象 7) 小児看護の変遷と課題	講義	
2～5	2. 小児の成長・発達 1) 小児の成長・発達 ①成長・発達の特徴 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価 2) 小児期の心理・社会的発達	講義	
6	3. 小児と医療 1) 小児と疾病構造の変化、医療との協働 2) 継続看護(在宅・外来)、多職種との調整	講義	
7～8 (45分) /計3時間	4. 小児における倫理 1) グループワーク	講義・演習(GW)	
9	4. 小児における倫理 2) グループ発表	演習(グループ発表)・まとめ	
10～11	5. 小児各期の健康増進・栄養の特徴 1) 小児各期の成長・発達の特徴と生活支援 ①新生児期・乳児期・幼児期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援 ②学童期・思春期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援	講義	
12	6. 小児と遊び、事故防止について	講義	
13	7. 小児と公衆衛生 1) 小児に関する保健統計	講義・グループワーク	
14～15	8. 小児を守るための施策 1) 小児を保護する法律と保健施策 ①予防接種法 ②児童福祉法 ③児童の権利に関する条約 ④母子保健法 ⑤学校保健安全法 ⑥児童虐待防止法 ⑦健やか親子21	講義	
16 (45分)	終了試験		
授業方法	講義・グループワーク・演習・レポート (3校合同)		
評価方法	筆記試験(概論50点+保健50点=100点/1回) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論、小児臨床看護総論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向		
備考	既習関連科目：成人看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学疾病論
講師名	瀧川 遼	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：小児期みられる主な疾患と症状、治療、検査について理解する 目標：1. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する 2. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 染色体異常(ダウン症候群 ターナー症候群) 2) 代謝異常(ガスリー含む) 3) 低出生体重児 4) 二分脊椎症 5) 口唇・口蓋裂 6) 鎖肛 7) ヒルシュスプリング病 8) 先天性股関節脱臼 9) 先天性筋性傾頸 10) 腸重積		
2	1. 代謝・内分泌疾患 1) I型糖尿病 2. 腎・泌尿器および生殖器疾患 1) ネフローゼ症候群 2) IgA腎症 3) 水腎症 4) 膀胱尿道逆流現象 5) 急性糸球体腎炎		
3	1. 免疫疾患・アレルギー疾患 1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー 2. 感染症(子どもの感染症に関する基礎知識含) 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) 流行性耳下腺炎 3. 呼吸器疾患(診断の手順含) 1) 肺炎 2) 風邪症候群 3) 気管支炎		
4	1. 循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 乳幼児突然死 3) 川崎病		
5	1. 神経疾患 1) 髄膜炎 2) てんかん 3) 脳性麻痺		
6	1. 血液・造血器疾患 1) 再生不良性貧血 2) 血管性紫斑病(腎炎含む) 3) 血友病 4) 白血病 2. 消化器疾患 1) 胆道閉鎖症		
7	1. 外科的疾患 1) 眼疾患 2) 耳鼻咽喉疾患		
8(45分)	終了試験		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、病態生理学(自己免疫疾患)、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅷ、小児看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護援助論
講師名	平田 洋子(20) 原田 桃子(10)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	小児看護学概論の講義内容を活用しながら、各期の子どもの特徴を踏まえた看護の工夫、子どもの尊厳を行動にするとどのような関わりをすることかを考えながら学んでいきましょう。		
目的：子どもと家族の看護を理解する 目標：1. 疾病の経過と発達段階をふまえた看護を理解する 2. 小児看護特有の看護援助を理解する			
回	授 業 内 容		
1	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		
2～3	1. 子どもにおける疾病の経過と看護		
4	1. 手術を受ける子どもと家族の看護		
5	1. 子どもに出現しやすい症状と看護		
6	1. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助技術 1) コミュニケーション 2) 遊び 3) フィジカルアセスメント 4) 検査(採尿)、処置(腰椎穿刺)		
7～8	1. 健康障害に応じた経過と看護 1) 慢性期(継続看護・在宅看護) 2) 急性期・周手術期 3) 終末期 4) 災害時		
9～10 【演習】	(小児看護技術) 1. 外来受診や入院を必要とする小児の看護 1) 外来における子どもと家族への看護 ①緊急度の把握・トリアージ ②病気に対する子どもの理解と説明 ③プリパレーション ④健康診断・育児相談 2) 感染症の対応と免疫不全(低下)の対応 ①隔離の目的・方法 ②隔離の身体的・心理的影響 2. 子どもの入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 1) 小児の入院環境 2) 活動制限が必要な子どもと家族の看護		
11～14 【演習】	1. 子ども(家族含)の疾病の経過と発達段階をふまえた看護の考え方と看護過程 疾患名：川崎病(幼児期) 健康段階：急性期～回復期 薬物療法(輸液管理・内服管理含)		
15	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100点満点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (参考資料) 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：小児看護学概論、生体機能管理技術		

母性看護学

■構築の考え方

母性看護学では、妊産褥婦および新生児への看護に加え、さらには次世代の健全な母性の育成を目指し、女性の一生を通じた健康の保持・増進、疾病予防を目的とした看護活動を学習する。母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる女性、および過去においてその役目をはたした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖の健康を守るという観点から、女性と生殖やパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族を取り巻く地域社会まで拡大している。すべてのライフステージを対象とすることから、健康レベルやセルフケア能力が高く、自己決定権を持つ人々が多く含まれる。また、その人々は、身体的、心理・社会的な統合体としての女性および、その女性の子ども（胎児を含む）であり、さらに女性と子どもの健康生活と生殖という観点から、広く対象として捉える。

また、時代の変遷とともに、子どもをより健康な状態で産み育てるための母性への支援が必要となっている。女性の生活スタイルや役割の多様化、医学の進歩・発展、少子・高齢化、母子をめぐる生活環境の著しい変化、国際結婚・外国人家族の増加などによって、母性看護の役割は多様化している。

このような、看護の対象の特殊性や、多様化を踏まえ、「母性看護学概論」では、母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着理論」「生涯発達理論」「役割理論」「家族の発達理論」、及び、「リプロダクティブヘルス/ライツ」「Sexuality」「母性看護の生命倫理」の考え方を学習する。

母性保健領域では、母子保健を巡る変化を理解した上で、多様化の中で、活用できる制度等を学習し支援に活かせるように組み立てている。同時に、我が国及び世界の母子・家族の健康問題とそれを取り巻く現状を、保健統計資料や調査・研究などから幅広く捉え、看護学の立場から問題解決を提案していく方法も含めて学習する。

「母性看護援助論Ⅰ」では、母性各期と新生児を含めた健康課題や異常状態についての理解を深める。その理解の上で、「妊婦・産婦・褥婦の正常経過とその看護」及び、「新生児の特徴とアセスメントとその看護」についての学習にすすめる。

「母性看護援助論Ⅱ」では、「妊娠・分娩・産褥の異常とその看護」及び、「ハイリスク新生児の理解とアセスメントとその看護」に対する学習内容で構成した。母性看護学では、ヘルスプロモーションの概念を土台に、妊産褥婦をアセスメントするために必要な知識を含めて学習させたいと考えている。これらの知識を前提に「母性看護援助論Ⅲ」では、妊娠・分娩・産褥の状態・状況に応じた母性看護学に特有の看護技術を学ぶ内容とした。

科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論
講師名	宮本 末子・三家本 八千代 村川 陽子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
<p>目的: 1. 母性看護の概念について理解する。 2. 母子保健の意義と看護の役割について理解する</p> <p>目標: 1. 母性看護の概念と看護の対象が理解できる 2. 母性保健の意義と看護の役割が理解できる 3. 妊娠、産褥、新生児の正常を理解できる</p>			
講義概要 メッセージ	母性看護学の基盤となる概念を学びます。母性看護の対象を身体的・心理社会的に捉え、さらにはライフサイクル、社会保障、母子関係からも幅広い視点で考えます。		
回	講義内容	授業方法	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) リプロダクティブヘルス/ライツ 2) セクシャリティ 3) 家族と発達課題 4) セルフケア	3校合同講義	
2	2. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化(女性生殖器で既習) 2) 女性のライフサイクル家族 3) マタニティサイクルと発達課題 4) 母性看護の対象を取り巻く環境 5) 女性の性周期	3校合同講義	
3~4	3. 女性のライフサイクル各期における身体的特徴と心理・社会的特徴 1) 思春期 3) 更年期 2) 成熟期(マタニティサイクルは保健) 4) 老年期 4. 女性のライフサイクル各期の健康問題	3校合同講義	
5	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 喫煙と女性の健康 4) 国際化社会と看護	3校合同講義	
6	6. 母性看護に必要な看護理論 ①家族のシステム理論 ②母親役割理論(ルービンの理論) ③家族理論 ④愛着理論	3校合同講義	
7	7. 母性看護における倫理(DVD)	3校合同講義 DVD・GW	
8~9	1. 母子保健統計 母子保健に関する制度、関係法規 2. 母性看護を取り巻く環境	3校合同講義	
10~12	3. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期) 1) 妊娠・分娩・産褥期に伴う心身の変化 4. 新生児の特徴(形態的・機能的)(小児看護学概論の想起) 1) 胎外生活適応と生理的变化	3校合同講義	
13~15 (5時間)	5. 母性看護に必要な看護技術 1) ウェルネス志向における考え方と看護過程	3校合同講義	
16 (45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験(100点:概論50点・保健50点) 評価基準参照		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向		
備考	関連科目:小児看護学概論(新生児の身体的特徴)、母性看護援助論Ⅰ、Ⅱ		

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護援助論 I (正常・新生児の看護)
講師名	三家本 八千代	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
目的：妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的・社会的特性を踏まえて正常の看護を理解する 目標：1. 妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的・社会的特性を踏まえた正常産婦の看護が理解できる 2. 正常新生児の看護が理解できる			
講義概要 メッセージ	正常経過にある妊産婦と新生児の看護について一緒に学びましょう		
回	講 義 内 容	授業方法	
1. 2	1. 妊娠期の看護 1) 妊娠期の身体的特性 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理 ③母体の生理的变化 2) 妊婦期の心理・社会的特性 ①妊婦の心理 ②妊婦と家族および社会 3) 妊婦と胎児の経過診断とアセスメント ①妊娠の経過と診断 ②胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊婦と胎児の経過診断とアセスメント	①妊婦健康診査 ②指導の実際 (マイトラブル) ③妊婦と胎児の健康状態のアセスメント ④日常生活に関するアセスメント ⑤腹帯の目的 5) 妊婦が受ける母子保健サービス 6) 保健相談 7) 親になるための準備教育 ①分娩準備教育 ②母親役割獲得過程の準備状況 ・家族機能の調整状況のアセスメント	講義
3	1. 分娩期の看護 1) 分娩の要素 ①分娩とは ②分娩の三要素 ③胎児と子宮の関係・分娩の機序 2) 分娩の経過 ①分娩の進行と産婦の身体的変化	②産痛 ③胎児に及ぼす影響 (CTG モニター) ④産婦の心理・社会的変化 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護の実際 (母性援助論Ⅲ) 6) 胎盤計測 (母性援助論Ⅲ)	講義
4~7	1. 産褥期の看護 1) 産褥経過 ①産褥期の身体的変化・進行性変化・退行性変化 ②産褥期の心理・社会的変化 2) 産婦のアセスメント ①産褥経過の診断 3) 産褥と家族の看護 退院後の支援 2. 新生児の看護 1) 新生児の生理	①新生児の機能 (呼吸・循環・体温・消化・吸収) 2) 新生児の生理的变化 ①ビリルビン代謝と生理的黄疸 ②水・電解質代謝・腎機能 ③新生児の皮膚 ①②小児看護学概論で学習 3) 新生児と医療事故、医療安全 4) 新生児の栄養 (母乳栄養、混合栄養など) 5) 1 か月健診までの退院後支援	講義
8 (45 分)	終了試験		
講義方法	講義、DVD		
評価方法	筆記試験 (90 点) 課題レポート (10 点) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論		
備考	既習関連科目：小児看護学概論、母性看護学概論		

科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護援助論Ⅱ (異常・ハリスク新生児の看護)
講師名	小林 正幸・若井 紗彩華	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1単位 (15時間)	開講年次	2年次 第2学期
目的：妊娠・分娩・産褥の正常と異常を理解する 妊娠・分娩・産褥期の異常の看護を理解する 目標：1. 妊娠・分娩・産褥の正常と異常編の病態、症状、検査、治療、予後の理解ができる 2. 妊娠・分娩・産褥の異常の看護を理解できる 3. 新生児の正常と異常の看護が理解できる			
講義概要 メッセージ	正常経過の基礎知識や看護を確認しながら学習することで、周産期の異常経過にある対象への看護について、より理解を深めていきましょう		
回	講義内容		授業方法
1 (医師)	1. 遺伝相談 ①遺伝相談とは ②出生前診断と実際 出生前診断の適応・検査・診断方法 ③遺伝カウンセリング	2. 不妊治療 ①不妊とその原因 ②不妊検査・治療 3. 不妊夫婦(ART)の支援	講義
2 (医師)	1. 妊娠の異常 1) 合併する全身疾患 ①高血圧症 ②心疾患 ③糖尿病 ④子宮筋腫 ⑤気管支喘息 2) 妊娠期の感染症 ①風疹 ②成人T細胞白血病 ③B群溶血性インフルエンザ球菌感染症 ④B型肝炎	3) 妊娠疾患 ①血液型不適合妊娠 (ABO型、Rh式血液不適合) 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常(切迫早産・流産) 6) 異所性妊娠(子宮外妊娠)	講義
3 (医師)	1. 分娩の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 胎児付属物の異常 5) 胎児機能不全 2. 分娩時の損傷 1) 子宮破裂 2) 頸管裂傷	3) 会陰裂傷 3. 分娩第3期および分娩直後の異常 1) 分娩時異常出血 ①分娩時出血の原因 ②産科ショック ③播種性血管内凝固(DIC) 4. 産科処置と手術 ①分娩誘発 ②会陰切開 ③吸引・鉗子 ④帝王切開術	講義
4~5 (助産師)	1. 異常妊娠の看護 1) ハリスク妊婦の看護 ①高齢妊婦 ②若年妊婦 ③肥満・過剰体重増加妊婦	2) 合併症を有する妊婦の看護 ①高血圧症 ②糖尿病 ③子宮筋腫 3) 妊娠期間の異常の看護 ①切迫早産・流産	講義
6~7 (助産師)	1. 分娩期異常の看護 1) 分娩時異常と看護 ①前期破水②帝王切開③異常出血 2. 産褥期の看護 1) 産褥期の異常と看護 ①子宮復古不全②産褥の発熱 ③産褥血栓症⑤感染症のある褥婦 ⑥産褥血栓症⑦精神障害⑧乳腺炎	3. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 高ビリルビン血症 4) 一過性多呼吸 4. 低出生体重児の看護 1) デベロッパメンタルケア 2) ファミリーケア	講義
8 (45分)	終了試験		
講義方法	講義、DVD		
評価方法	筆記試験 100点 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論		
備考	既習関連科目：母性援助論Ⅰ(妊娠・分娩・産褥・新生児の生理)、母性看護学概論(女性のライフステージにおける身体的特徴・心理・社会的特徴(マタニティサイクル)、小児看護学概論(新生児の生理)		

科目区分	専門分野	授業科目	母性看護援助論Ⅲ (看護技術)
講師名	三家本 八千代	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次 第2学期
目的: 母性看護特有な援助技術について習得する 目標: 母性看護特有の援助技術が実施できる			
講義概要 メッセージ	マニピュレーションにある対象者へのかかわり方や産後の支援といった広い視野を持ち、既習学習を活用しながらアセスメントできるようになって欲しいです。そして、出産という命が誕生する貴重な瞬間に看護者として何ができるのか、自分なりの看護を考えていきましょう。		
回	講義内容	授業方法	
1	1. 妊婦の看護技術 (妊婦体験モデルを使用して) 1) 妊婦健康診査: 妊娠週数と妊婦健康診査 ①子宮底長測定 ②腹囲測定 ③レポルト触診法 2) 検査 ①NST ②胎児心音の聴取	講義 演習	
2	1. 産婦の看護技術 1) 分娩期の援助 ①陣痛と胎児モニタリング(分娩進行と胎児心拍波形分類) ②産痛緩和法(リラクゼーション、三陰交、マッサージ) 2) 分娩第4期の援助	講義 演習	
3	1. 褥婦の看護技術 1) 生殖器復古の観察 2) 悪露交換と観察(悪露模型) 3) 産褥体操(骨盤底筋体操の目的) 4) 母乳哺育の援助 ①乳房・乳頭の観察(乳房模型作成: 扁平乳頭、陥没乳頭) ②乳頭・乳輪の圧迫法・マッサージ法	講義 演習	
4~5	2. 新生児の看護技術(新生児モデル人形使用) 1) 身体計測・出生直後の観察 2) バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント 3) 育児技術(おむつ交換、抱き方、衣類の着せ方) 4) 清潔援助(沐浴、ドライテクニック)	講義 演習	
6~7	1. 母性のウェルネス志向の考え方と看護過程 1) ウェルネス志向とは 2) ウェルネス志向のマニピュレーション診断 3) 診断名の表現方法 4) 正常褥婦と新生児の看護展開	講義 演習	
8(45分)	終了試験		
講義方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験 90点(技術60点、看護過程30点) レポート(10点) 評価基準参照		
テキスト	インターネット: 写真でわかる母性看護技術アドバンス 医学書院: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学Ⅱ〔2〕母性看護学各論		
備考	既習関連科目: 母性看護学概論、小児看護学概論(新生児)		

精神看護学

■構築の考え方

精神看護学では、精神障害がありながら生きる人々が、その人らしい生活を実現するための看護活動だけでなく、看護のあらゆる領域における心の健康維持・増進にかかわる看護活動を学習する。医療の進歩や社会状況の変化に伴い、精神保健医療福祉は施設中心の医療から、地域支援に重点をおいた施策へと大きく転換するに伴い、精神保健にかかわる問題も増加していることから、精神看護の役割は複雑かつ多様化している。そのため、地域生活を支える社会制度および関連する法令を含め、対象の人権を守りつつ、回復（リカバリー）を助けることが必要となる。そして、対象の自立を目指し、段階的に社会の中で生活できるような仕組みの整備に加え、対象の人らしい生活の実現のための支援が、医療の側面からだけでなく地域の保健行政機関や住民等とともに構築されることが求められている。

科目は「精神看護学概論」「精神看護学疾病論」「精神看護学援助論」で構成した。「精神看護学概論」では、心の健康と発達の理解を基盤に精神障害をとらえ、地域で生活している対象と家族を支えるための保健活動を学ぶ。精神看護学の対象は、小児から高齢者まであらゆる発達段階にある。近年は、様々なストレスにより、不安や悩みを抱えながら生活している人々が多く、精神疾患の対象者は増大している。このような現代社会における精神保健医療福祉の動向を概観しながら、精神看護の役割を学ぶ内容とした。精神看護は、患者－看護師関係の構築を前提に、精神障害のある対象の生活を支える役割と機能を担うことを目指すため、人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて学ぶ内容とした。「精神看護学疾病論」では、精神障害に伴う病態像とその診断、治療過程を学ぶ内容とした。「精神看護学援助論」では、精神症状の影響を受けながら生活している対象の回復を助ける看護を学ぶ内容とした。そして、「精神看護学概論」で学習した人間関係構築やコミュニケーションスキルをもとに、精神障害のある対象に対する見方や態度について倫理的側面を考えながら、洞察できる力を高められるよう演習を組み込んだ。

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護学概論
講師名	東 孝子(15) 岡本 諭(15)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：心の健康と発達から精神障害をとらえ、地域での生活を目指す、地域で生活をしている対象と家族を支えるための看護活動および、精神障害のあるあらゆる対象の生活を支える役割と機能について理解する。</p> <p>目標：1. 現代社会の特徴と、心の健康問題について理解する。 2. 精神看護の役割と機能を担うための人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて理解する。 3. これからの精神看護における課題を理解する。</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1～2	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3) 心的外傷と回復 4) 精神障害というとらえ方 2. 関係の中の人間 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団	講義	
3	3. 地域におけるケアと支援 1) 「器としての地域」 2) 地域で精神障害を支援する際の原則	講義	
4～5	3) 地域生活を支えるシステムと社会資源 4) 地域におけるケアの方法と実際 5) 学校・職場におけるメンタルヘルスと看護	講義	
6～7	4. 社会の中の精神障害 1) 日本における精神医学・精神医療の流れ 2) 精神障害と法制度	講義	
8	5. 精神障がい者が体験していること	講義	
9	6. 精神看護学で学ぶこと 1) 精神科看護学とはなにか 2) 精神障害者をもつ人の病の体験と精神看護 3) 「心のケア」と日本社会 4) 精神看護の課題 7. 対象関係論(コフォートの自己心理学・土谷健郎の「甘え」理論)	講義	
10	8. ケアの人間関係 1) ケア的前提・原則・方法 2) 患者-看護師関係における感情体験 3) チームのダイナミクス	講義	
11	9. 関係をアセスメントする 1) プロセスレコード 2) 自己理解の必要性と治療的コミュニケーション	講義	
12	10. 入院治療の意味 1) 精神科を受診するということ 2) 治療の器としての病院・病棟 3) 入院中の観察とアセスメント 4) 退院に向けての支援とその実際	講義	

13~14	11. 災害と精神看護 12. リエゾン精神看護 13. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義
15 (45 分)	まとめ	
16 (45 分)	終了試験	
評価方法	筆記試験 100 点 (保健 50 点 看護 50 点) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学①精神看護の基礎 精神看護学②精神看護の展開	
備考	既習関連科目：心理学、生活援助技術 I	

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護学疾病論
講師名	松本 貴久(7) 内田 有彦(8)	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	2 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	精神に障害を持つ人の疾患や症状、またその治療や検査を理解することで、精神疾患は脳の疾患であることを理解してほしいです。そして対象が障害とともに生きていく中でどのような援助が必要になるのかも考えていきましょう。		
<p>目的：精神障害者の疾患の病態の特徴、症状、および治療法を理解できる。</p> <p>目標：1. 精神症状と病理について理解できる 2. 治療について理解できる 3. おもな疾患について、症状、治療、検査について理解できる</p>			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 精神疾患の基礎知識 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像	講義	
2	2. 対象を理解するための考え方 1) 脳の仕組みと精神機能 2) 精神疾患の診断基準 (1)統合失調症と関連疾患	講義	
3	(2)気分障害 (3)神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害 (4)精神作用物質使用による精神および行動の障害	講義	
4	(5)パーソナリティ障害 (6)器質性精神障害 (7) てんかん	講義	
5	(8) 精神遅滞 (9) 神経発達障害・秩序破壊的・行動制御・素行症候群 (10) 生理学的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	講義	
6	3) 検査 (脳波・知能検査・記銘力検査・人格検査)	講義	
7	4) 治療 (1)薬物療法 (2)電気けいれん療法 (EST) (3)精神療法 (4)環境療法・社会療法 ①精神科リハビリテーション ②作業療法	講義	
8 (45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験 (100 点)	評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学①精神看護の基礎		
備考	既習関連科目：人体形態機能学Ⅳ、病態治療学Ⅲ、精神看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	精神看護援助論
講師名	錦織 亜紀(7) 八重 愛(8) 岡本 諭(15)	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的: 精神症状の影響を受けながら生活している対象の回復を助けるために必要な看護を行うための基礎的な知識とコミュニケーション技術を習得することができる			
目標: 1. 精神に障害のある対象の生活行動上の問題や症状に対する援助方法を理解する 2. 精神に障害のある対象の治療過程に応じた看護方法や多職種との連携を理解する 3. 対象の回復を助けるためのコミュニケーション技術を習得する			
回	授業内容	授業方法	
1 2	1. 回復を支援する 1) 回復の意味 2) リカバリーのビジョン 3) リカバリーを促す環境 4) リカバリーを促す方法としてのグループ 5) 様々な回復のためのプログラム	講義	
3 4(45分)	2. 安全を守る 1) リスクマネジメントの考え方と方法 2) 行動制限、隔離、身体拘束を受ける患者へのケア	講義	
5	3) 緊急時の対処 ①自殺、自殺企図、暴力、転倒、骨折、窒息、誤飲、院内感染、無断離院など 4) 緊急事態とスタッフの支援	講義	
6~7 (135分)	3. 身体をケアする 1) 精神科における身体ケア 2) 精神の治療に伴う身体のケア	講義	
8	3) 精神科における身体を通じたケアの実際 4) 身体合併症のアセスメントとケア 5) 精神科における終末期ケア	講義	
9	1. 演習の導入 1) ワークの進め方・事例説明・事例からの情報整理(個人ワーク)	講義	
10	2. 事例から予測される事象とその援助内容(個人ワーク) 1) 情報から事例に起こると予測される事象を考える抽出と事例へ必要となる援助の検討	講義	
11	3. コミュニケーション計画の構想と試行 1) 模擬患者へ援助を実施するためのコミュニケーション計画の構想(個人ワーク) 2) コミュニケーション計画に沿って練習	講義	
12~13 (135分)	4. ロールプレイングとプロセスレコードの振り返り 1) 模擬患者へコミュニケーション計画の実施とプロセスレコードの記入・分析(個人ワーク)	演習	
14	5. コミュニケーション計画の再構想と試行 1) プロセスレコードの分析から自己のコミュニケーションの傾向を明確にする 2) 自己のコミュニケーションの傾向を踏まえた、コミュニケーション計画の見直し(個人ワーク) 3) コミュニケーション計画に沿って練習	講義	

15～16 (135分)	6. ロールプレイングとプロセスレコードの振り返り 1) 模擬患者へコミュニケーション計画の実施とプロセスレコードの記入・分析(個人ワーク)	演習
17 (45分)	終了試験	
評価方法	精神看護援助論の筆記試験(50点満点 45分)と演習の個人ワークの提出物(50点満点) 科目評価は、精神看護援助論(筆記試験)+演習の個人ワークの提出物とする。 評価基準参照	
テキスト	医学書院：精神看護学②精神看護の展開	
備考	既習関連科目：精神看護学概論、精神看護疾病論	

看護の統合と実践

■構築の考え方

看護の統合と実践では、看護が実践される多様な場において、チームや組織における看護師の役割を理解するとともに、多職種と連携・協働しながら看護を提供する基礎的能力を学ぶ内容とした。科目は、「医療安全」、「災害・国際看護」、「看護管理」、「統合看護技術演習」で構成した。

「医療安全」ではヒューマンエラーとシステム管理の視点を学習する。看護師は診療の補助、療養上の世話と、他の医療職よりもはるかに多様な業務を担当する。とくに急性期医療の現場では、医療の進歩で診療の補助はますます高度化・複雑化し、療養上の世話においても、患者の高齢化で一層繊細な気遣いが求められていることから、安全な医療・看護の提供の基礎を学ぶ内容とした。学習内容の関連を考慮し進度は2年次に設定する。できるだけ臨床実践と近い状況下での学習をねらいとし2年次後期の臨地実習と並行する進度をとり、ヒヤリハット体験から起こった事実を正しくレビューできる能力を基礎教育で学習できる内容とした。

「災害・国際看護」では、災害看護を実践できる基礎的能力を身につけ、諸外国における保健・医療・福祉の課題を学習する。近年、洪水や土砂災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大しているなか、看護職者は人々の健康にかかわる専門職として役割を発揮していくことが求められている。グローバル化が進んでいる現在、各国のできごとは相互に影響を及ぼし合う状況にあり、諸外国との協力をはじめとした国際看護活動を考察することを期待している。世界全体に目を向け、多くの既習の知識を統合する看護実践が求められる為、進度は3年次に設定する。

「看護管理」では、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学習する。看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動であり、活動の場は病院のみならず地域の保健・医療・福祉の場へと拡大している。そして、管理者だけでなく看護実践者がよりよい看護を提供するため資源の有効利用とそのしくみを学ぶ内容とした。

「統合看護技術演習」は横断的な科目立てとして、1年次は基本技術に対する実践力の強化、2年次は対象の状態を総合的に捉えた実践力の強化、3年次は臨床に近い設定での実践力強化のための科目とする。

科目区分	専門分野	授業科目	医療安全
講師名	平田 洋子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（15 時間）	開講年次	2 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護師は、診療の補助、診療の世話と、他の医療職よりもはるかに多様な業務を担当する。とくに急性期医療の現場では、医療の進歩で診療の補助は、ますます高度化・複雑化し診療上の世話においても、患者の高齢化で一層繊細な気遣いが求められていることから、安全な医療・看護の提供の基礎を学んでほしい。		
目的：安全な医療・看護の基礎的知識を理解する			
目標：1. 危険予測できる知識を理解できる			
2. ヒューマンエラー、システム管理の視点から事故分析できる基礎的知識を理解できる			
3. 医療システム（組織）の中の危険要因を知り、安全なシステムの構築における看護の役割を理解できる			
回	授 業 内 容		
1 【演習】	1. 医療安全の基本的な考え方 1) 医療事故とは何か 2) 患者への影響度による医療事故レベルの分類		
2～3 【演習】	1. 医療安全の基本的な考え方 1) 国の医療安全対策、組織の医療安全対策 2. インシデント アクシデントについて 1) インシデントレポートの意義と活用 2) 事故が生じた際の対応 報告 レポート 3) 事故防止、事故後の対応 * 針刺し事故の事例で検討する 3. 患者の誤認防止、転倒・転落・外傷予防対策 4. 事故発生のメカニズム 5. ヒューマンエラーとヒューマンファクター、 6. P m S H E L モデル		
4～5 【グループワーク】	1. 看護における医療安全と安全対策 1) 看護業務の特徴的な環境とリスク 2) 多重課題の特長と対応 3) 医療事故の種類		
6～7 【演習】	1. 医療事故の事故分析と対応 1) 危険予知トレーニングの理論と方法 2) 事例分析 病院内（ベッド周囲）の事故について		
8 (45 分)	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験（90%）、授業参加度・レポート（10%）		評価基準参照
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践【2】医療安全		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	災害・国際看護
講師名	畑中 美保、岩本 典子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	3 年次 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	近年、洪水や土砂災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中、看護職者は人々の健康にかかわる専門職として役割を発揮していくことが求められる。グローバル化が進化している中世界全体に目を向け学習の視点を広げ学んでほしい		
目的：災害看護を実践できる基礎的能力を身につけ国際看護における基礎的知識を理解する			
目標：1. 災害の概念と災害サイクルに応じた看護の役割について理解できる 2. 災害時に必要な基礎的実践技術を身につけることができる 3. 国際社会における看護の役割、機能を理解し、保健・医療・福祉の課題を考えることができる			
回	授 業 内 容		
1～2 【講義】	災害医療・看護の基礎知識 1) 災害の定義、分類、特徴、災害関連死 2) 災害サイクルと各期の特徴 3) 災害と法制度 4) 災害の医療体制 5) 災害時の対象 6) 災害時の看護師の役割と機能		
3～4 【講義・演習】	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 1) トリアージ 4) 災害とこころのケア ①災害後の心的反応とスクリーニング ②災害時における救 援者自身のケア 5) 被災者特性に応じた災害看護：高齢者、子ども、妊産婦、障害者		
5～6 【グループワーク】	災害拠点病院としての目的・役割と活動：急性期・亜急性期 1) DMAT（ディーマット）の救命活動 ①発災直後から出勤までの看護 2) 災害シミュレーション（過去の災害事例から考える災害時の看護の役割） ①亜急性期の看護、避難所の看護		
7～8 【演習】	災害看護の実際 1) 災害時に必要な技術 トリアージ 応急処置（三角巾法 一次救命処置 BLS 止血法）と搬送法 等		
9～10 【講義・演習】	慢性期の看護：仮設住宅における看護 静穏期の看護		
11 【講義： オンライン】	国際看護 1) 国際救護活動 2) 国際看護の基本理念、異文化理解 3) 世界の保健の動向 4) 国際協力機関との連携		
12 【講義・演習】	国際看護 1) 国際化の視点、対象 2) 国際協力活動、多様な文化と看護		
13～14 【グループワーク】	国際社会における看護の役割、機能 保健・医療・福祉の課題		
15（45分）	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験（100点） 評価基準参照		
テキスト	医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実際【3】災害看護学・国際看護学		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護管理
講師名	藤津 京子、明野 恵子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（15 時間）	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	看護を提供するあらゆる場において、よりよい看護を提供するためにマネジメント（管理）が必要です。組織の一員としての役割および機能を学び、自身のキャリア形成を考える機会にしましょう。		
目的：組織における看護管理の基礎について学ぶ。			
目標：1. 看護管理の目的が理解できる。			
2. 組織と組織を構成する人の役割と機能が理解できる。			
3. 看護師のキャリア開発が理解できる。			
回	授 業 内 容		
1	1. 看護とマネジメント 1) 管理とは 2) マネジメントとはなにか 3) 看護ケアのマネジメント 4) 看護業務の実践		
2・3	2. 看護サービスのマネジメント 1) 看護管理の定義 2) 看護管理の対象 ①看護サービスの提供システムと職員配置 ②労務管理 ③物的資源管理 ④医薬品の管理 ⑤廃棄物の管理 ⑥情報の管理 ⑦サービスの評価		
4	3. 組織と組織を構成する人の役割と機能 1) 組織とは 2) 組織の形 (1) ラインとスタッフ (2) 看護の組織化 3) 組織論 4) リーダーシップとマネジメント 5) 組織の調整		
5	4. キャリア開発 1) 専門職業人とキャリア 2) ライフサイクルとキャリア 3) キャリアアンカー 4) キャリア発達とキャリア開発 5) 目標管理		
6・7 【グループ ワーク】	5. 日本の医療制度と病院経営 1) 医療保険制度のしくみ 2) 診療報酬とは 3) クリニカルパス 4) 重症度、医療・看護必要度		
8 (45分)	終了試験		
授業方法	講義、グループワークおよび発表		
評価方法	筆記試験 (80%)、レポート (20%) 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎の統合と実践 [1] 看護管理		
参考図書	メヂカルフレンド社：看護実践マネジメント／医療安全 医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論		
備考	既習関連科目：看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習 I
講師名	小林 真弓	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (15 時間)	開講年次	1 学年 第 2 学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	基礎実習に繋げることができるように、基礎的な看護の知識や基本的な技術を活かし看護の実践力を身につけてほしい		
<p>目的：対象者の状況に応じて安全・安楽な日常生活援助を判断し、実践力を身につける</p> <p>目標：1. 事例患者の状態・状況に応じた日常生活援助の必要性を理解する</p> <p>2. 事例患者の状態・状況に合わせた日常生活援助を実施できる</p> <p>3. 看護実践からの学びを評価する</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション 貧血の患者の事例説明 2. 対象の状態アセスメント		
2 【グループワーク】	1. 対象の状態のアセスメント バイタルサイン・対象の状況から必要な日常生活援助の選択 2. 日常生活援助の方法検討		
3 【演習】	グループで考えた日常生活援助の発表・意見交換		
4 【グループワーク】	方法の再検討・修正		
5・6 【演習】	模擬患者を対象とした技術の実施 1) 対象に応じたコミュニケーションの実際 2) 安全・安楽を考慮した対象に必要な援助を実施		
7 【グループワーク】	1. 振り返り 2. 演習を通じた学びと自己の課題の明確化		
8 (45 分)	ふりかえり 意見交換		
授業方法	グループワーク・演習		
評価方法	課題・レポート提出 (個人・グループ) 評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習Ⅱ
講師名	畑中 美保	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（15時間）	開講年次	2年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	患者の状態を総合的に捉える能力を身につけてほしいと思います。特に、リスクアセスメントの能力を養ってほしいと思います。		
<p>目的：患者の状態を総合的に捉え、実践力を身につける</p> <p>目標：1. 事例患者の状態をアセスメントできる 2. 事例患者の状態からリスクアセスメントを理解する 3. 事例患者を総合的に捉え、安全・安楽・自立を配慮した援助が実施できる</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション：肺炎により心不全が増悪した事例 2. 事例説明 画像、血液検査データから状態をアセスメントする 3. 患者の情報から基本データを読み取る		
2	1. 患者状態のアセスメント 1) 患者の病態や経過・治療など全体像を理解する 2) 患者のリスクを検討する		
3 【グループワーク】	1. 患者のリスクアセスメントと援助計画の立案 1) 安全・安楽・自立を配慮した援助計画を立案し、検討する		
4 【グループワーク】	1. 援助計画の発表・意見交換 1) 援助方法の再検討と追加・修正する		
5・6 【演習】	1. 模擬患者を対象とした援助技術の実施 1) リスクを回避する 2) 安全・安楽・自立性を考慮する		
7	1. 振り返り 1) 演習を通じた学びと自己の課題の明確化		
授業方法	グループワーク、演習		
評価方法	課題・レポート提出（個人・グループ） 評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	総合看護技術演習Ⅲ
講師名	平田 洋子	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1単位（30時間）	開講年次	3年次 第1学期
授業概要 * 講師からのメッセージ	臨床現場を想定し複数患者の状況を推察し、優先度や時間管理、チームメンバーとの連携などの実践力を身につけてほしい		
<p>目的：臨床現場を想定した課題に既習学習の知識・技術を統合して実践力の基礎を身につける</p> <p>目標：1. 複数患者受け持ちにおける優先順位・時間配分を考慮した援助を考える</p> <p>2. 対象に安全・安楽に配慮した援助が実施できる</p> <p>3. 看護実践中に起こった突発的事態に対して、対処方法の必要性を理解する</p> <p>4. チームメンバーと連携しながら状況を判断し援助が実施できる</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. オリエンテーション 複数患者の事例説明		
2・3	1. 受け持ち患者のアセスメント 1) 患者の病態や経過・治療などの全体像を理解する。 2) 患者の看護診断とその対策を考える。		
4	1. 複数患者受け持ち時の一日の行動の業務計画の立案 1) 優先度の判断 2) 時間管理		
5・6 【グループワーク】	1. 複数患者受け持ち時の一日の行動業務計画の検討 1) 優先度の判断 2) 時間管理 3) 安全安楽な援助・医療安全 4) チームメンバーとの連携・協働		
7・8 【演習】	1. 複数を受け持つ中での責任感に基づいた看護実践と振り返り 1) セルフモニタリング 2) 自己能力の判断 3) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 4) 突発的な事態への対処 5) チームの一員として連絡・相談・報告 6) 看護師としての責任		
9	評価（演習をととした学びと自己の課題の明確化） まとめ		
10	1. 看護実践中の突発的事態の対処方法 1) 優先度の判断 2) 時間管理		
11・12 【グループワーク】	1. 看護実践中の突発的事態の対処方法 1) 優先度の判断 2) 時間管理 3) 安全安楽な援助・医療安全 4) チームメンバーとの連携・協働		
13・14 【演習】	1. 時間が切迫する中での責任感に基づいた看護実践と振り返り 1) セルフモニタリング 2) 自己能力の判断 3) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 4) 突発的な事態への対処 5) チームの一員として連絡・相談・報告 6) 看護師としての責任		
15	評価（演習をととした学びと自己の課題の明確化） まとめ		
授業方法	グループワーク、演習		
評価方法	レポート課題（100%）、評価基準参照		
テキスト	各基礎看護技術や演習で活用した資料やテキスト		
備考			

基礎看護学実習の考え方

基礎看護学は、各看護学の基礎であり、かつ共通する内容として各看護学の基盤となるものである。したがって、基礎看護学実習では、対象の生活環境を理解し、看護実践の基盤となるコミュニケーションを用いた対象の理解と、対象に必要な日常生活援助技術の実践を行う。

次に、対象理解に基づいた、看護上の問題の明確化、看護計画の立案と実施、その際に得られた対象の反応から評価、という看護過程の展開の一連を学ぶ。対象とのコミュニケーションをとまなう看護実践を通して形成される対人関係能力の基礎的能力と倫理的態度を養う。

「基礎看護学実習Ⅰその１（１単位 45 時間の内 15 時間）」では、対象の生活の場となる療養環境と、入院生活が対象に与える影響について、コミュニケーションの中から理解させる。また看護師の実践している援助場面の見学を通して、看護師も環境因子の１つであり、対象に与える影響について考えさせる。初めての臨地であることから、講義で学んでいる知識、技術の統合の場を見学し、今後の学習の動機づけにつなげる。

「基礎看護学実習Ⅰその２（１単位 45 時間の内 30 時間）」では、既習学習の知識、技術を生かして、対象に必要な日常生活援助を実施する。実施に際しては、倫理的態度をもって、看護師等の見守りの下、基本動作を安全安楽に提供できることを目指す。また日常生活援助が対象に与える影響について、バイタルの測定等観察を通して考えさせる。

「基礎看護学実習Ⅱ（２単位 90 時間）」では、１年次の共通基本技術で学んだ看護過程の展開の実際を学ぶ。対象から収集した情報の解釈・分析を行い、看護上の問題の明確化を図り、看護計画を立案し、それに基づき、実施する。そして得られた対象の反応・変化を根拠に基づき評価するという一連の過程を通して、看護の展開方法を理解させる。

科目名	単位	時間	目的
基礎看護学実習Ⅰ（その１）	1	15	対象と対象の療養環境を理解し、対象のニーズに応じた日常生活援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅰ（その２）		30	対象と対象の療養環境における日常生活を理解し、ニーズに応じた援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	看護の対象となる患者及び家族を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、科学的根拠に基づいて看護過程の展開ができる基礎的能力を養う

1. 基礎看護学実習Ⅰ（その１）

1) 実習目標

- (1) 対象の生活と療養環境を理解できる
- (2) 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる
- (3) 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：１年次 第１学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：15時間 /45時間（1単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	A グループ		B グループ	
臨地実習	14 時間	1 日目	9：30～15：45	1 日目	9：30～15：45
		2 日目	9：00～15：15	2 日目	9：00～15：15
実践活動外学習時間 (学内でまとめ)	1 時間	1 日目	15：45～16：00	1 日目	15：45～16：00
		2 日目	15：15～15：45	2 日目	15：15～15：45

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象の生活と療養環境を理解できる	1) 対象の療養環境について述べるができる (1) 個室・多床室の特徴 (2) ベッドの位置・物の配置 (3) 環境の要素(空気・光・臭気・暖かさ・騒音・気分転換・ベッドと寝具・栄養と食物) の実際 (4) 環境の要素に対する患者の気持ち (5) プライバシーの守り方 2) 入院による生活の変化について述べるができる (1) 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち (2) 病気及び身体機能低下からくる気持ち (3) 療養生活で感じる時間
2. 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる	1) 対象とのコミュニケーションに関する学びを述べるができる (1) 患者に配慮した言語的・非言語的コミュニケーションの実際 (2) 目線・あいづち等を活用し、相手が話しやすい状況 (3) 相手へ自分が行うことをわかりやすい説明 (4) 情緒的安定をもたらす、人的環境である看護師の対応 2) 看護場面(環境調整・日常生活援助)の実際について述べるができる (1) 患者の状況に合わせた環境調整 (2) 患者の状況に合わせた訪室 (3) 相手の反応を捉える観察力 (4) 日々の相手の変化を捉える観察力 (5) ナースステーションで行われていること (6) 看護師同士の報告・連絡・相談
3. 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる	1) 対象を尊重する態度で、相手に向き合うことができる (1) 相手の思いと学生の受け止めに大きな相違がない (2) 相手の立場に立ち何が良いかを考える (3) 看護者として必要なルール・マナー (言葉使い、挨拶、清潔感のある身だしなみ) (4) 学生と指導者との報告・連絡・相談 (5) 学生と教員との報告・連絡・相談 (6) 学生同士の報告・連絡・相談 (7) 病棟で患者にかかわる様々な職種 2) 適切に情報管理ができる (1) 記録の匿名性の遵守 (2) 記録物の管理 (3) 守秘義務(記録・会話等)

2. 基礎看護学実習 I (その 2)

1) 実習目標

- (1) 対象の日常生活を理解できる
- (2) 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる
- (3) 看護者として必要な態度を養うことができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1 年次 第 2 学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター

3 階北病棟・3 階南病棟・4 階北病棟・4 階南病棟・5 階北病棟・5 階南病棟

(3) 実習時間：30 時間 /45 時間（1 単位） 実習 1 単位時間：45 分

内容	時間	詳細	
臨地実習	26	1 日目 10：30～15：15（5 時間/日） 2～4 日目 9：00～15：15（7 時間/日）	1 日目の午前中は患者情報受け取り時間とする
実践活動外 学習時間	4	4 日間 15：15～16：00（1 時間/日）	記録整理・文献検索・技術練習

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 対象の日常生活を理解できる	<p>1)対象の 24 時間の日常生活の把握</p> <p>(1) 毎日のスケジュール：食事・排泄・活動・休息・清潔・整容・レクリエーション等の状況把握</p> <p>(2) 治療や処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>2)対象の生活に対する思いの把握</p> <p>(1)症状や検査・治療環境の心理面への影響、本来の生活の場から離れた事による影響</p>
2. 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる	<p>1) 対象のニーズに関する総合的判断</p> <p>(1) 基本的欲求</p> <p>(2) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の把握</p> <p>(3) 基本的欲求を変容させる病理的存在の把握</p> <p>2) ニーズに応じた日常生活援助の明確化</p> <p>(1)セルフケア状況と充足・未充足の程度の確認</p> <p>3) 看護師と共に対象へわかりやすい言葉で説明する</p> <p>(1) 看護ケアの目的・方法</p> <p>(2) 効果とリスク</p> <p>(3) 代替方法</p> <p>4) 日常生活援助実施が可能かどうかの判断</p> <p>(1) バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）の測定</p> <p>(2) 正常値やこれまでの経過との比較</p> <p>5) 看護師と共に安全安楽に基づいたケアを実施</p> <p>(1) 安全確保・感染予防・苦痛緩和・安楽確保 プライバシー保護 モニタリング</p> <p>6) 日常生活援助中の臨床判断</p> <p>(1) 看護師と共に対象の反応に気付く</p> <p>①対象の表情や反応・しぐさからの把握</p> <p>(2) 看護師と共に対象の反応に呼応しながら実践</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の把握</p> <p>②状況に応じた修正</p> <p>(3) 看護師と共に対象の反応や変化を解釈する</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の意味づけ</p> <p>②日常生活援助の継続が可能かどうかの検討</p> <p>(4) 対象に実施した日常生活援助の振り返りおよび追加・修正</p> <p>①対象のニーズを基にした看護の必要性</p> <p>②対象にあわせた援助の工夫（方法・手順等・全面介助・部分介助・見守り）</p> <p>③対象の希望を取り入れる</p> <p>④実施後の客観的評価と主観的評価の記録を踏まえた改善策</p> <p>7) 看護者と対象の信頼関係の構築について自分の考えを述べる</p> <p>(1) 対象のニーズを充たす援助を通して徐々に信頼関係を築いていくことの重要性</p>
3. 看護者として必要な態度を養うことができる	<p>1) 相手（患者・家族・指導者）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 疑問を放置しない姿勢 (技術練習・文献検索) (3) 振り返り会の積極的な参加 (4) 期限の厳守 (提出物・約束等) (5) 体調管理 3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の自分の役割の遂行 (リーダーシップ・メンバーシップ) 4) 安全への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 個人情報の管理 5) 自己の実践を振り返りと意味づけ—看護観の形成につなげる— (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしたい看護の明確化

3. 基礎看護学実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 対象を理解するために必要な情報を収集する
- (2) 情報を解釈・分析し看護上の問題点を明確にする
- (3) 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する
- (4) 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する
- (5) 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する
- (6) 看護者として必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第1学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	80H	9：00～16：00 (8時間/日) 8：45 までに出席・健康状態を報告する 8：55 までに実習場所へ到着する 12：00～13：00 休憩 15：30～16：00 振り返り
実践活動外学習時間	10H	16：00～16：45 (1時間/日) 文献検索・技術練習・記録整理

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象を理解するために必要な情報を収集する	1) 情報源を選択し収集できる 2) 必要な方法を用いて情報を収集できる (1) 観察 (フィジカルイグザミネーション) (2) コミュニケーション

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 情報の種類を分類できる (1) 情報の種類 主観的データ (S) 客観的データ (O) (2) 情報の分類 ①アセスメントの枠組み (ゴートン: 機能的健康パターン) 4) 経過に応じて情報を整理できる (1) 経過の段階・種類
2. 情報を解釈・分析し、看護上の問題点を明確にする	1) 情報を整理し、分析できる (1) 現状の把握 ①情報の整理 (2) 現状を引き起こしている原因の分析 ①健康逸脱の有無と解釈 ②強みの把握 2) 成り行きを推論し、判断できる 3) 看護の必要性を述べる 4) 全体像を把握できる (1) 情報と情報との関連性 (2) 領域間の同一情報の総合 5) 看護上の問題を抽出できる (1) 実在型 (2) リスク型 6) 優先度を判断できる (1) 生命の維持に関連すること (2) 緊急性が高いこと (3) 苦痛に感じていること (4) 価値観による
3. 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する	1) 目標を設定できる (1) 長期目標・短期目標の設定 (2) 対象を主語にした目標設定 (3) 具体的に観察でき測定可能な目標 2) 計画を立案できる (1) 観察計画・ケア計画・教育計画 (2) 安全・安楽・自立性の考慮 (3) 具体的に 4W1H で表現
4. 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する	1) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助を実施できる 2) 対象の反応を確認しながら実施できる 3) 援助技術の安全性・安楽性・自立性の原則に基づいて実施できる 4) 日常生活援助を実施できる (1) 食事の援助 (2) 排泄の援助 (3) 清潔の援助 (4) 環境への援助 (5) 移動・移送への援助 5) 精神的、社会的側面の援助を述べる (1) 不安の緩和 (2) 社会的役割、家族を考慮した関わり (3) 家族への配慮
5. 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する	1) 実施した看護を評価できる (1) 実施可能かどうかの判断 (2) 実施前の計画の見直し (追加修正) (3) 対象の反応の観察 (4) 安全・安楽・自立性の考慮 (5) プライバシーの保護 (倫理的配慮) (6) 目標達成の有無と判断 2) 目標の達成度を評価できる (1) 目標達成の状況 (2) 評価レベル (3) 目標達成または、目標達成に至らなかった状況の考察

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 追加または修正できる (1) 新たな情報の追加 (2) 新たな看護上の問題の追加 (3) 短期目標・長期目標の修正 (4) 具体策の修正
6. 看護者として必要な態度を養うことができる	1) 相手（患者・家族・医師・看護師・指導者）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（技術練習・文献検索） (3) カフェニス・振り返り会等の積極的な参加 (4) 期限の厳守（提出物・約束等） (5) 体調管理 3) チームワークを考えた行動 (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） 4) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 事故を起こすリスクを考えた行動 (4) 個人情報の管理 5) 自己の実践の振り返りと意味づけ：看護観の形成につなげる (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護師像）

※ 看護過程の展開は1事例で行う。2事例以降は実習目標が達成できるように学習課題を明確にして取り組む。

地域・在宅看護論実習の考え方

地域・在宅看護論実習は、専門分野の位置づけであり、地域・在宅看護論実習Ⅰ～Ⅲで構成される。

1年次の地域・在宅看護論実習Ⅰは、地域への関心を高める実習として、実際に地域で暮らす市民の生活などに参加して地域の人々がどのような生活をしているのか理解する。2年次の地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域包括ケアシステムを構成する施設について授業でまとめた内容を地域に出て展開する。3年次の地域・在宅看護論実習Ⅲは、地域で生活する在宅療養者や家族を含めてあらゆる発達段階の人を対象とし、地域で展開している場での継続看護（訪問看護ステーション）、社会資源である病院・施設でのケア・サービス、介護支援センター、居宅介護支援事業所など地域の実情に合わせた実習を展開する。この中で、居宅から病院、病院から居宅への看護の継続性や多職種との連携を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	宿泊体験における交流を通して、地域住民の生活・思いを知り、自分たちにできることを考え実行する
地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	45	地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを理解し、通所・入所施設を利用する地域の人々との交流を通し、看護師の役割を学ぶ
地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	90	疾病や障害を抱えながら在宅の場で生活している療養者及び家族を総合的に理解し、健康管理と生活を支援するための基礎的知識・技術・態度を養う

1. 地域・在宅看護論実習Ⅰ

1) 実習目標

- (1) 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る
- (2) 地域住民のためにできることを考える
- (3) 看護者としての必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1年次 第1学期～第2学期（1泊2日×2回、まとめの会1日の計5日間）

	宿泊1回目	宿泊2回目	まとめの会
期間	第1学期	第2学期	第2学期

- (2) 実習場所：浜田市周辺の民泊施設、看護学校5階講堂

- (3) 実習時間：45時間（1単位）実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	30	7.5時間/日、1泊2日で15時間	1泊2日×2回
実践活動外 学習時間	15	2	実習村エンターション
		4	事前準備
		5	まとめの会準備
		4	まとめの会（地域の人々と一緒に）

- (4) 臨地実習1泊2日（7.5時間の詳細）

時刻	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00
1日目	学校集合（8:50）		準備	昼食	対面式・出発	共同調理・食事	交流・入浴等	就寝		
2日目	起床 朝食 活動 出発（11:00）				振り返り・まとめ					

3) 学習内容

実習目標	行動目標／学習内容
1. 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る	1) 地域住民の生活環境を知る (1) 家族形態 (2) 交通 (3) 買い物 (4) 医療 (5) 冠婚葬祭 (6) 人との交流 (7) 生活共同体としてのコミュニティ (8) 地域風土 2) 地域住民の思いを知る (1) 価値観 (2) 地域への思い (3) 健康管理 (4) 生活上の問題 (5) 行政や医療・福祉への期待・要望 3) 地域住民の生活にみられる変化を述べる (2回の宿泊体験を通して理解する)
2. 地域住民のためにできることを考える	1) 対象にどのようなニーズがあるのか知る 2) 対象のニーズに沿って自分にできることを考える
3. 看護者として必要な態度を養う	1) 対象を尊重する態度ができる 2) 主体的な学習ができる 3) チームワークがとれる 4) 感染対策など保健行動がとれる (医療安全に対する配慮ができる) 5) 対象の反応をとらえ、自己の経験を振り返り意味づけをする (自己の看護観を明確にできる)

2. 地域・在宅看護論実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る
- (2) 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る
- (3) 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (4) 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (5) 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る
- (6) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第1学期

(2) 実習場所

浜田市支所、浜田市社会福祉協議会、特別養護老人ホーム偕生園、
複合型小規模多機能施設ほっとの家、デイサービス やまもの家、養護老人ホーム寿光苑

- (3) 実習施設の組み合わせ一覧 (実習要綱参照)

- (4) 実習時間：45時間 (1単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習①社会福祉協議会	5	8：30～12：15 (5時間/日)
臨地実習②その他3施設	27	9：00～16：45 (9時間/日)
実践活動外学習時間	1	9：00～9：45 (1時間/日) 実習オリエンテーション
	4	9：00～12：00 まとめの会準備①
	4	13：00～16：00 まとめの会準備②
	4	13：00～16：00 (4時間/日) まとめの会

3) 実習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る	1) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしての社会保障制度 (1) 療養者と家族を支える社会保障制度 ① 社会保障制度の中の医療保険制度、介護保険制度 ② 医療保険制度 被用者保険(職域保険)、国民健康保険(地域保険)、後期高齢者医療制度 ③ 介護保険制度 保険者(市町村：特別区を含む)と被保険者(第1号、第2号被保険者) 介護保険法で定める16特定疾病 2) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしてのフォーマル・インフォーマルな活動
2. 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る	1) 地域包括ケアシステムの構築に関わる施設 (1) 行政関連施設 (2) 社会福祉協議会 (3) <u>通所施設サービスと目的</u> 通所リハビリテーション(デイケア)、通所介護(デイサービス)、地域密着型通所介護、療養通所介護、認知症対応型通所介護 (4) <u>入所施設サービスと目的</u> 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設(老健)、介護療養型医療施設、特定施設入居者生活介護施設(有料老人ホーム、軽費老人ホーム)、介護医療院 (5) <u>訪問・通所・宿泊を組み合わせたサービスと目的</u> 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)、短期入所生活介護(ショートステイ)、短期入所療養介護 2) 多職種連携と看護師の役割 (1) 利用者を支える人々と各職種の強み ① <u>医療専門職</u> 医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・栄養士・保健師・助産師 ② <u>福祉専門職</u> 介護支援専門員(ケアマネジャー)・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・訪問介護員(ホームヘルパー) (2) 多職種連携の中で求められる看護師の役割 ① 情報共有の場や人脈づくり ② 看護師として情報を把握することの意味 ③ 住み慣れた地域でのシームレスなケアの提供 ④ 支えられる存在としての看護師
3. 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 通所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる
4. 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 入所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる

実習目標	行動目標/学習内容
5. 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る	<p>1) ライフステージによる健康問題と予防</p> <p>(1) 子どもの健康問題と予防 (2) 青年期・壮年期の健康問題と予防</p> <p>(3) 妊娠・出産をめぐる健康問題と予防 (4) 老年期の健康問題と予防</p> <p>2) 健康問題と予防に関わる職種と役割</p> <p>(1) 地域包括支援センターの役割 関連職種：主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)、保健師、社会福祉士 役割：介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>(2) 社会福祉協議会の役割 関連職種：民生委員、児童委員、福祉委員、町内会長 役割：地域福祉活動・地域づくり(サロン等交流の場、見守り活動等) 相談支援、権利擁護(福祉総合相談・専門相談、日常生活支援事業等) 介護予防、介護・生活支援サービス</p>
6. 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)	<p>1) 相手(患者・家族・医師・看護師・多職種)を尊重し思いやる態度</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求</p> <p>2) 学習に対する主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み(看護技術の自己研鑽・文献検索)</p> <p>(3) カンファレンス・振り返り会等の積極的な参加 (他者の意見を受け止め、自己の考えを表現)</p> <p>(4) 期限の厳守(提出物・約束事)</p> <p>(5) 体調管理</p> <p>(6) 批判的思考</p> <p>3) チームワーク</p> <p>(1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内の相互の役割調整</p> <p>4) 安全管理への配慮</p> <p>(1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換</p> <p>(3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動</p> <p>(5) 個人情報管理</p> <p>5) 自己の看護観の明確化 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)</p>

3. 地域・在宅看護論実習Ⅲ

1) 実習目標

- (1) 継続した医療管理やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる
- (2) 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる
- (3) 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る
- (4) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第2学期～3年次
- (2) 実習場所
 浜田医療センター地域連携室
 診療所(国民健康保険弥栄診療所、国民健康保険あさひ診療所、国民健康保険波佐診療所)
 訪問看護ステーション(訪問看護ステーション浜田、訪問看護ステーションそよかぜの丘、高砂訪問看護ステーション)

(3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

実習場所	時間数/日	実習時間帯	備考
診療所実習	9時間 (6時間45分)	9:30~17:15 (振り返り30分含む)	利用する公共交通機関によつて実習時間帯を調整する
地域連携室	9時間 (6時間45分)	9:00~15:30 (振り返り30分含む) 15:30~16:45 (実践活動外学習時間)	15時30分以降、学びのまとめと訪問看護ステーション実習の準備を行う
訪問看護ステーション	9時間 (6時間45分)	8:30~16:15	現地集合・現地解散とする
実践活動外学習時間	9時間 (6時間45分)	9:00~16:45	

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 継続した医療やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる	<p>1) 疾病や障害を抱えながら生活している療養者と家族の身体的・精神的・社会的側面に関する情報を得て整理する</p> <p>(1) 療養者の生活環境（居住地域の環境、住宅および居室の環境）</p> <p>(2) 療養者や家族の思いやエピソード</p> <p>(3) 療養者と家族の関係性（ジェノグラム[®]の活用）</p> <p>(4) 療養者の生活リズム・スケジュール</p> <p>(5) 療養者の健康状態</p> <p>既往歴・現病歴・治療方針・内服薬・心身の状況や基本的日常生活動作(ADL) 障害高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～C2）</p> <p>認知症高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～M）</p> <p>2) 療養者や家族が地域包括ケアシステムの中でどのように継続した医療やケアを受けているのか関連性を整理し述べる</p> <p>(1) 生活支援・介護予防的側面 (2) 医療的側面</p> <p>(3) 看護的側面 (4) 介護的側面</p> <p>3) 療養者や家族の生活を「自助」「互助」「共助」「公助」の視点で捉え整理する</p> <p>4) 看護師に相談しながら訪問看護に至るまでの準備・調整を行う</p> <p>5) 看護師の訪問看護に同行し療養者と家族を支援する看護を共に実践する</p> <p>6) 療養者や家族の些細な変化にも気づき、先を見越して対応する看護師の臨床判断に関する自己の学びをまとめる</p> <p>(1) 療養の場におけるフィジカルアセスメント・症状別アセスメント（訪問看護師による臨床判断）</p> <p>(2) 療養の場における看護ケア（ケアの実際・ケア方法の指導）</p> <p>(3) 療養者や家族に対する継続看護がどのように実践されているのか述べる</p>
2. 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる	<p>1) 療養者や家族がどのように社会制度を利用しながら在宅療養生活を継続しているのか具体的に述べる</p> <p>(1) 療養を支える人々・施設</p> <p>地域連携室の役割（前方連携・後方連携）の実際、看護の継続性の意味</p> <p>(2) 活用しているサービス（エコマップ[®]の活用）</p> <p>(3) 地域の社会資源の把握と情報提供</p> <p>(4) 諸手続きの支援</p> <p>2) 療養者と家族を支える多職種との情報共有の在り方について述べる</p> <p>(1) 多職種との連絡・調整</p> <p>3) 地域で生活する療養者と家族を支える看護師の役割について述べる</p>
3. 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る	<p>1) 中山間地域におけるプライマリ・ケア（ACCCAを基盤とする）</p> <p>(1) 療養者の抱える問題への対処 (2) 継続的なパートナーシップ</p> <p>(3) 最初の第一線の関わり (4) 療養者の総合的な捉え方</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 地域の病院、施設との連携 (1) 中山間地域における診療所の役割 (2) 地域の医療機関との情報共有 (まめネット)
4. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・看護師・他職種) を尊重し思いやることができる (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求 2) 学習に対して主体的に取り組むことができる (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(研究的視点・他の研究成果の活用) (3) カンファレンス・振り返り会への積極的な参加(他者の価値観を受け止め、自己の考えを表現) (4) 期限の厳守(提出物・約束事) (5) 体調管理 (6) 批判的思考 3) 報告・連絡・相談ができる (1) 報告・連絡・相談の必要性の理解 (2) 困難な状況時の応援要請 (3) タイムリーな報告・連絡・相談 4) チームワークを考えた行動がとれる (1) グループ内での情報共有 (2) 他者の状況の把握 (3) リーダーシップ・メンバーシップ 5) 安全への配慮ができる (1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (5) 個人情報管理 6) 自己の実習を振り返り、課題を明確にできる 大切にしていきたい看護について自分の考えを表現する (目指す看護師像・自分と向き合うことで見えた課題解決のための具体的行動)

成人・老年看護学実習の考え方

「成人・老年看護学実習」は、成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）、成人・老年看護学実習（急性・回復期）、成人・老年看護学実習（慢性期）、成人・老年看護学実習（終末期）で構成した。また、対象の全体像を把握し、科学的な判断力や問題解決能力を養う内容とした。成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）の考え方は、健康障害を持つ成人・老年期にある対象のQOLに着目した個別性のある看護が提供できることを目指して、慢性期にある成人・老年期の対象の看護過程を展開し、生活者の視点から回復を促す看護の実践を学ぶ内容とした。成人・老年看護学実習（急性・回復期）（慢性期）（終末期）では、成人・老年期にある対象の個別性を踏まえた看護を提供できることを目指し、各実習を健康段階別にⅠ～Ⅳ組み立て対象の特徴に応じた看護を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
成人・老年看護学実習Ⅰ (対象理解/看護過程の展開)	2	90	健康障害のある成人・老年期の特徴をとらえて病態や治療計画を理解し、生活者としての視点から対象の健康を維持・向上する看護が実践できる基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	2	90	健康障害を持つ成人期にある患者および家族を総合的に理解し、急性期から回復期の看護が実践できる基礎的能力を養う
成人・老年看護学実習Ⅲ (慢性期)	2	90	成人・老年期で慢性的過程にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅳ (終末期)	2	90	成人・老年期の終末期にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける

1. 成人・老年看護学実習Ⅰ（対象理解／看護過程の展開）

1) 実習目標

- (1) 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる
- (2) 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる
- (3) 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる
- (4) 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる
- (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	備考
実習前準備	—	8:30～ 9:00	健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00 (8時間/日)	8:55までに実習場所へ到着する 12:00～13:00 休憩（食事介助、検査の見学などで変更可） 1日目：9～15時、午前刈エンターション、受け持ち患者紹介、情報収集
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける 臨地でのカンファレンスは16:45まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる	1) 入院までの健康状態を述べる 健康に対する意識・既往歴・健康管理行動 2) 入院前の生活状況を述べる 生活背景・生活習慣・生活史・居住環境 3) 入院から現在までの健康障害を述べる 現疾患の治療状況の把握・実在型の合併症の把握 4) 健康障害のある成人・老年期にある対象の身体的側面を述べる 症状に関連する要因・症状体験の理解・症状の種類や性質・主観的客観的情報の適時観察・症状に伴う生活上の支障（防衛力・予備力・適応力・回復力） 5) 健康障害のある成人・老年期にある対象の精神的側面を述べる 病気の受け止め方・本人と家族が抱えるストレス・価値観・強み・問題認識 6) 健康障害のある成人・老年期にある対象の社会的側面を述べる 家族との関係性・役割の遂行状態・経済状況・介護力
2. 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる	1) 健康障害や加齢に応じたコミュニケーション方法を実践する 対象の考えや思いや価値観に配慮し尊重する姿勢・目標や関心事等の共有・看護者のまなざしや声掛けやタッチング・対話と共感・対象に応じた声の大きさや言葉遣い 2) 健康障害や加齢に伴う ADL・IADL を考慮した日常生活の援助を実践する ADL と IADL の把握・日常生活動作の改善や向上への援助 3) 安全な環境調整と危険防止の援助を実践する 外的要因と内的要因に応じた環境調整・見守りの意味・対象へ配慮した援助の工夫 4) 対象の思いに考慮した援助を述べる 対象のエピソードや強み、○○したいという意欲や自立
3. 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる	1) 治療・検査・処置が対象に与える影響を述べる 治療への参加態度・今後予測される症状の変化・治療目的の把握・治療効果のモニタリング 2) 対象にとって安全安楽な治療・検査・処置の援助を実践する 合併症予防の実践・病状の安定化への援助
4. 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる	1) 対象とその家族の今後の生活に向けた援助を述べる 日常生活の規制とその受け止め方・セルフケアや症状マネジメントの把握と援助の理解 2) 対象に必要な退院支援を述べる 退院先の把握（自宅・施設）・療養の場に応じた医療やケアの把握
5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）	1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェリス・振り返り会等の積極的な意見（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事）

実習目標	行動目標/学習内容
	3) 報告・連絡・相談 (1)自分の行動を言語化する (2)要点を整理して伝える (3)相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4)タイムリーに報告する (5)連絡することにより情報を共有する (6)気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 (1) チーム内の相互の役割調整 (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)

2. 成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)

1) 実習目標

- (1) 合併症予防のための観察ができる
- (2) 自己管理に向けた看護援助について述べる
- (3) 手術室の看護の実際を述べる：手術室
- (4) 生命の危機的状況にある患者・家族の看護の実際を述べる：救急外来・救命救急センター
- (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる (共通目標)

} 病棟

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次 (詳細は学生配置表参照)
- (2) 実習場所：浜田医療センター 3階北病棟・3階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80H	9:00～16:00 (8時間/日)	1日目～10日目 受け持ち患者の看護、手術室・救命救急センター実習 ※臨地でのカンファレンス等は16:45まで実施可 ※手術室実習は最大18:00まで実施可
実践活動外 学習時間	10H	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理・文献学習・技術演習・カンファレンス準備・教員からの指導

※6日目以降にカンファレンス、最終日に振り返り会実施予定。救命救急センターでの実習は手術見学等のスケジュールを考慮して調整。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 合併症予防のための観察ができる	1) 手術前から合併症を予測した情報収集ができる (1) 手術前検査 (2) 既往歴 (3) 対象の手術に対する心理 2) 収集したデータを基に合併症リスクを予測できる (1) 手術侵襲における生体反応 (ムア)の分類 (2) 呼吸・循環・意識・創部・消化管への影響 3) 精神的に安定した状態で手術が受けられるよう援助できる (1) 手術・麻酔に対する受け止め、理解度の把握 (2) 不安・恐怖心の軽減 (3) ホテイイメージ変容に対する支援 4) 術後の経過に合わせた観察ができる (1) 術後のフィジカルアセスメント (2) ドレイン排液・点滴・チューブ類の観察 ①異常の早期発見・予知 ②系統的・継続的な観察と記録 ③多面的な観察からの患者のニーズの予測 ④安全・安楽・安心のケア 5) 観察結果を基に術後合併症のアセスメントができる (1) 急性疼痛の弊害：身体への影響・心理社会的側面への影響 (2) 検査データ・薬物動態 (3) ADLアセスメント 6) 術後合併症予防のための援助を実施できる (1) 症状・合併症予防の援助 ①呼吸循環動態の維持・促進 ②術後合併症および廃用性症候群の予防(術後出血・循環器合併症・呼吸器合併症・感染症・廃用症候群) ③治療箇所の治癒促進および負担の軽減 ④苦痛緩和と安楽・安心の促進 (2) 創傷管理 ①薬理学的方法による鎮痛ケア ②疼痛の影響要因をコントロールする看護技術 (3) ドレイン管理 (4) 清潔操作
2. 自己管理に向けた看護援助について述べる	1) 患者・家族の入院前の生活状況を述べる (1) 生活スタイル・社会的立場・入院前の役割 (2) キーパーソン・ソーシャルサポートの有無 2) 患者・家族の形態変化や機能障害に対する適応への援助についての必要性和実践方法を述べる (1) 回復促進のための援助 ①酸素化の促進 ②栄養管理 ③体液バランスの管理 ④感染予防 (2) 日常生活再構築のためのリハビリテーション促進の援助 (呼吸・循環・運動器・消化器への影響) 3) 患者・家族の心理的状況を考慮した看護援助を述べる (1) 精神活動への影響 (2) ホテイイメージの受容状況
3. 手術室の看護の実際を述べる	1) 手術室における安全管理の実際を述べる (1) 患者の確認 (2) 手術部位の確認

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (3) 安全な移乗・移送 (4) 器械・器具、ガーゼの確実な確認 (5) 標本の正しい取り扱い (6) 無菌操作 (7) 他職種との連携 2) 手術侵襲が患者に及ぼす影響を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 麻酔導入時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①全身麻酔・硬膜外麻酔・脊椎麻酔の介助 ②気管挿管の介助 ③麻酔導入時のバイタルサイン変動の観察と対応 (2) 手術中の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①手術中のバイタルサイン変動の観察方法（モニター・触知） ②手術中の変動に対する援助 ③手術中の体位と注意点 (3) 麻酔覚醒時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①麻酔覚醒時の観察 ②麻酔覚醒後手術室退室までの身体観察と援助 (4) 病棟への引継ぎ（申し送り）
<p>4. 生命の危機的状況にある患者・家族への看護の実際を述べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 救急外来の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 搬入患者の特徴 (2) 初期情報からのアセスメント・トリアージ (3) 治療環境・物品管理 2) 集中治療を受ける患者の看護の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者の身体的特徴、心理・社会的特徴 (2) 意識レベル・フィジカルアセスメントや援助実施における観察 (3) 生命の危機的状況にある患者・家族の心理への支援 <ul style="list-style-type: none"> ①家族の特徴 ②危機的状況への支援・意思決定支援
<p>5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3) 報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える

実習目標	行動目標/学習内容
	5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

3. 成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期）

1) 実習目標

- (1) 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する
- (2) 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる
- (3) 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する
- (4) 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる
- (5) 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階南病棟・5階北病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する 1日目：9:00～15:00 午前オリエンテーション、受け持ち患者紹介、情報収集 休憩は12:00～13:00（見学や援助により時間調整可）
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45（1時間/日）	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける、 臨地でのカンファレンスは16:45まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する	1) 対象の不可逆的な病態の変化による健康障害の理解ができる (1) 入院までの状態 (2) 入院前の生活状況 (3) 入院から現在までの健康障害に対する治療過程・回復状態を述べる (4) 現在の状態（検査の結果）などから、増悪した場合のリスクを予測する (5) 身体に加齢変化

	<ul style="list-style-type: none"> (6) 残存機能 (7) 身体的 ADL/手段的 ADL (8) 検査・治療内容 <p>2) 対象が長期にわたる健康障害をどのように受け止めているかについて理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 役割喪失による無力感 (2) 孤独感 (3) 生きがい (4) 家族の支え (5) 発達課題 <p>3) 長期にわたる健康障害が社会的役割に与える影響の理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会での役割 (2) 家族関係 (3) キーパーツの有無 (4) 対人関係 (5) 家屋の状況 (6) 生活環境 (7) 入院前の社会資源の利用状況
2. 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる	<p>1) 健康障害に伴う日常生活の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状・治療に伴う日常生活の援助 (2) 運動機能障害に伴う日常生活の援助 (3) 侵襲の大きい治療に伴う日常生活の援助 (4) QOL を考えた援助 <p>2) 慢性期疾患に関連する合併症予防の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状の進行に伴う合併症の予防 (2) 治療に伴う二次合併症予防 (3) 廃用症候群の予防 <p>3) 安全の確保ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 転倒・転落予防 (2) 誤嚥・窒息予防 (3) せん妄の対応 (4) 認知症の対応
3. 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する	<p>1) 長期にわたり疾病のコントロールが必要となる対象・家族の障害受容段階がわかる</p> <p>2) 対象・家族の障害受容の段階に応じた支援方法がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 傾聴、受容、共感的態度 (2) ストレンガス・エンパワメント <p>3) 対象の想いを表出する支援がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 対象自らどのようにしたいのかを考える機会の提供 <p>4) 自己決定への支援がわかる</p>
4. 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる	<p>1) 社会復帰に向けた自己管理能力拡大への援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自立度に応じた日常生活の指導 (2) 自己モニタリングの方法を指導 (3) 動機づけを考慮した指導（アット・ラゴジー・自己効力感・行動変容モデル） <p>2) 対象に合わせた指導・教育・援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)セルフケア能力に合わせた援助の内容・方法
5. 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する	<p>1) 退院後、生活能力を維持し日常生活が継続できるための援助がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 継続看護（外来・在宅・施設） (2) 退院支援に向けての関連職種（ソーシャルワーカー・ケアマネジャー・退院調整看護師 他） (3) 関連職種との連携の必要性とその内容 (4) 活用可能な社会資源・経済支援のための制度
6. 看護者として必要な態度を養うことが出来る（共通目標）	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習

	<ul style="list-style-type: none"> (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見(他社の意見を受け止め自己の考えを表現) (5) 期限の厳守（提出物・約束事） <p>3) 報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する <p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（リスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）
--	--

4. 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期）

1) 実習目標

- (1) 対象が持つ全人的苦痛とは身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる
- (2) 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助を実施することができる
- (3) QOLを考慮した日常生活援助を看護師と共に実施することができる
- (4) 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる
- (5) チームアプローチの実際と調整役としての看護の役割がわかる
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
		8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45(1時間/日)	記録整理・文献検索・技術演習・カンファレンス 臨地でのカンファレンス等は15:30以降に設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/指導内容
1. 対象が持つ全人的苦痛とは、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる	1) 身体的側面を述べる (1) 病態と予後 (2) 症状の有無と程度 (3) 対象の基本的ニーズとその逸脱 (4) 治療・処置・検査の目的 (5) 症状マネジメント 2) 精神的側面を述べる (1) 告知の有無と心理的影響 (2) インフォームド・コンセント (3) 対象の疾患や症状に対する受け止め (4) 死の受容過程 3) 社会的側面を述べる (1) 社会的役割の変化 (家庭・職場・地 (2) 家族間の人間関係 (3) 経済的問題の有無 (4) 医療者と家族との関係 4) スピリチュアルな側面を述べる (1) 対象の生と死に関する考え方 (死生観) (2) 信仰 (宗教)、個人の信念、ライフスタイル、生きがい、価値観
2. 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助が実施できる	1) 身体的苦痛の援助、精神的苦痛の援助、社会的苦痛の援助、スピリチュアルな苦痛に気づき援助が実施できる 2) 危篤時、看取りの援助が理解できる (1) 急変時・看取り時の身体変化の理解と気づき (対象および家族の希望) (2) 急変時・看取り時の援助 (対象および家族の希望) 3) 安全を考慮した援助を実施する (1) 転倒・転落予防 (2) 窒息予防 (3) 皮膚損傷予防
3. 対象の希望を考慮した日常生活援助を看護師と共に実施できる	1) 対象の希望、生きがい、その人らしさを考慮した日常生活援助を計画できる (1) 食事の意味を考慮した援助 (2) 排泄の援助、尊厳への配慮 (3) 清潔・整容の援助 (4) 睡眠の確保 (5) 物理的・人的環境の調整 2) 対象の希望、生きがい、その人らしさを踏まえた援助が実施できる
4. 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる	1) 対象、家族が大切にされていることの理解ができる 2) 対象と家族を尊重した態度がとれる 3) 家族の疾患や症状に対する受け止めが把握できる 4) 対象と家族の心理過程に応じた援助が実施できる (1) キューパー・ロス、アギェラ、メグイック (2) グリーフケア
5. チームアプローチの実際と調整役としての看護師の役割が理解できる	1) 対象、家族へのチームアプローチの実際が分かり、調整役としての看護師の役割が理解できる (1) 病棟内でのカンファレンスにおける看護師の役割 (2) 他職種での回診における看護師の役割
6. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・医師・看護師) を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み

実習目標	行動目標/指導内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェニス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3）報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

小児看護学実習の考え方

「小児看護学実習」では、実際に子どもと接し、健康な小児の理解と健康障害を持つ小児の看護が展開できることを目的とし学習をすすめる。「保育所実習」では、地域の中で生活する小児を成長発達の見点で理解し、保育の実際を通して基本的な生活習慣や社会性の発達を促す援助方法を学ぶ内容とした。「小児病棟実習」では疾病あるいは障害をもつ小児およびその家族との関係の持ち方を学ぶ内容とした。更に、疾病・障害、入院が小児およびその家族に及ぼす影響を理解し、看護に必要な観察、アセスメントを行い小児とその家族に必要な援助を判断した上で援助の実際について学ぶ内容とした。実習を通して、小児をとりまく保健・医療・福祉の連携の中で小児看護にはどのような役割があるのかを学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
小児看護学実習	2	90	子ども及び家族に対して成長・発達段階、健康段階に応じた看護が実践できる

小児看護学実習

1) 実習目標

- (1) 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる
- (2) 成長発達段階に応じた基本的な生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる
- (3) 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる
- (4) 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる
- (5) 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる
- (6) 子どもが利用できる社会資源を理解できる
- (7) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

(1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）

(2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 小児科外来 保育所

<保育所 施設内訳>

施設	住所	電話番号
社会福祉法人さくら会 みのり保育園	〒697-0034 浜田市相生町1392-11	0855-23-5686
社会福祉法人さくら会 みのり第2保育園	〒697-0034 浜田市相生町3973-5	0855-25-7771
おおぞら保育園（浜田医療センター内）	〒697-8512 浜田市浅井町777-12	内線6700

(3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	保育所	40 9:00～16:00（8時間/日） ※3,4日目は15:30移動し帰校する。
	病棟・外来	40 9:00～16:00（8時間/日） <外来 火・金> 13:00～16:00（3時間）2日間 ※それ以外の基本は病棟実習、入院患者不在時は外来実習とする
実践活動外学習時間	10 16:00～16:45（1時間/日）	・実習振り返り、学びの共有 ・明日の看護の方向性の明確化 ・健康教育の準備・デモスト

※基本は保育所実習の後、小児病棟・外来実習とする。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
<p>1. 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる</p>	<p>1) 子どもの成長・発達段階を理解する</p> <p>(1) 身体(形態・機能的)発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の発育 身長・体重、身体のバランス・身体発育の評価/・骨、歯の発達 ・パーセンタイル値、カブ指数、ロール指数 <p>(2) 精神・運動・感覚機能的発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂日本版デューク式発達スクリーニング検査 <p>(3) 知的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアジェの認知発達理論 (乳幼児期：感覚運動位相、前操作位相) ・コミュニケーション機能 <p>(4) 情緒・社会的特徴と発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成と分離不安、性差 ・自律性・自発性 エリクソン自我発達理論(乳幼児期：基本的信頼感対不信感、自律感対恥・疑惑、積極性対罪悪感) <p>2) 子どもの日常生活状の況を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の自立段階 (食事、排泄、清潔、更衣、睡眠)、遊び、学習 <p>3) 子どもに対する家族の関わり方を知り、現在の子どもの状況と関連づけられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウルビエのアタッチメント理論 (愛着形成)、マラーの分離-固体化理論 ・生育歴(親子関係)から生じる問題
<p>2. 成長発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる</p>	<p>1) 成長発達段階と病状に応じた関わりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病状に配慮したコミュニケーション方法・説明の工夫 ・必要な休息を含めた生活のリズムの考慮 <p>2) フィジカルアセスメントを行い、全身状態を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な計測・観察 <p>3) 子どもと家族にとって、最適な生活環境の調整をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保、環境整備、家族の協力を得る ・プライバシーの保護、安心できる環境の工夫 <p>4) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助を実施する</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活行動の把握 ・生活環境の把握・活動と休息の一日の流れとしての捉え ・生活環境 (保育所の規則・行事・日課) <p>(2) 発達段階に応じた基本的生活習慣の確立への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事 (食事の調理形態、必要摂取量、アレルギー) と食行動 ・おやつ意義・工夫 ・排泄行動、トイレトレーニングの関わり ・清潔行動・衣服の着脱、感染予防など ・睡眠 (レム、ノンレム、午睡) ・休息と活動・運動 <p>(3) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事、排泄、睡眠、清潔、更衣、遊び、学習 <p>(4) 成長発達段階に応じた遊びや学習の援助の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの意義 ・遊びと成長発達の関連 成長・発達段階に応じた遊び ・遊びの内容・遊具玩具の選択 想像・発想力、興味関心の広がり、遊びと社会性の発達 ・友達・保育士・他の人との関係と関わりへの反応

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>子ども間のトラブルと対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族への情報提供・依頼
<p>3. 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期に起こる事故の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故の起きやすい場所・原因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活環境（保育所の構造・施設・設備） ・ 発達上の特性 (2) 事故の危険性を把握し、安全に対する配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育環境 ・ 物的環境 ・ 人的環境 (3) 施設が行っている安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部侵入者への対策 ・ 園外保育時の危険性と対策 2) 成長発達段階、健康レベルに応じた事故防止の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育、病室環境の整備（危険物の除去、寝具の整理整頓） ・ 危険な行動の説明 ・ 家族への説明、指導 3) 感染予防の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンド・アプローション 4) 健康の保持増進のための支援（健康教育）を実施する <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康状態の把握と対処方法の理解 (2) 健康管理の必要性の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く諸環境 ・ 育児不安 ・ 事故(誤飲、窒息、転倒・転落、交通事故など) ・ 不適応行動 ・ 感染 ・ アレルギー（アレルギー性疾患、ハウスダストなど） (3) 健康教育の実施の振り返りと改善
<p>4. 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病状と行われている診療内容を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤の用量の算出含む 2) 健康障害・入院による環境の変化とその影響について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康障害や診療・入院が子どもと家族・きょうだいに及ぼす影響 ・ 健康障害の経過による特徴 ・ 入院前の生活からの変化と問題 3) 子どもや家族が示している苦痛とその原因を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康障害・入院を子どもと家族がどのように受け止めているかを理解する ・ 子どもの苦痛の捉え方（痛みなどの症状・活動制限による苦痛・不安） 4) 小児看護の視点から対象の状況を分析し理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の整理、アセスメント 5) 看護上の問題点を把握し、看護計画を立案・評価・修正する <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康障害の経過による特徴をふまえた援助計画 ・ 痛みなどの症状・活動制限・不安緩和と安楽への援助計画
<p>5. 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもに説明、了解を得てから行動し小児の基本的権利を尊重した関わりができる <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護実践における小児の権利と擁護の援助 (2) 治療・検査・処置の援助方法と配慮を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ プレパレーション、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント ・ デストラクション

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心のための工夫 ・患児・家族への細やかな説明と納得 ・患児・家族の治療参加を促す <p>(2) 関わりが子どもにどのような影響を与えるかを考える</p> <p>1) 家族や周囲の大人が関わった時の子どもの反応の理由・意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに与える影響：安心、学習（しつけ）、意欲など ・家族の小児に対する思いに対する配慮
<p>6. 子どもが利用できる社会資源を理解できる</p>	<p>1) 子どもを守り支える法律・制度、事業、施設などの社会資源を理解する</p> <p>(1) 継続看護の意義 外来との連携</p> <p>(2) 他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センター（県） ・保健センター（市町村）、学童保育、放課後デイケア、病児、病後児保育 ・児童相談所 ・学校・保育園 <p>(3) 小児を保護する法律と保健対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・母子保健法（養育医療） ・予防接種法 ・障害者総合支援法 ・小児慢性特定疾患治療研究事業 小児慢性特定疾患
<p>7. 看護者として必要な態度を養うことができる (共通目標)</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師・多職種）を尊重し思いやることができる</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>(5) 乳幼児を尊重し、思いやりの姿勢をもったコミュニケーションがとれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースに合わせた会話 ・子どもの思いを聴く姿勢（待つ、理解する気持ち） ・子どもの特徴、反応をとらえた行動・話しかけ/子どもの関心事 ・子どもに合わせた言葉づかい ・子どもと視線を合わせる <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め、自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリーに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)

母性看護学実習の考え方

「母性看護学実習」では、正常妊娠の経過と正常な妊産婦、褥婦、新生児の看護の実際を学習する機会とする。母性看護技術の修得とともに、母性看護の対象を幅広くとらえた看護実践の基礎を学ぶ内容とした。そのために、母児を対象の中心としながらもさらにその家族、社会背景、母児とその家族を擁護する社会制度（行政・地域サービス）まで考えられるような実習としていく。

科目名	単位	時間	目的
母性看護学実習	2	90	マタニティケアにある対象を理解し、妊婦・産婦・褥婦・新生児に対する健康維持・促進・回復のための看護が実践できる基礎的能力を養う

母性看護学実習

1) 実習目標

- (1) マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる
- (2) 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる
- (3) 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる
- (4) 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳・神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」
うい助産院

<詳細>

施設名	時間数	住所	電話番号
浜田医療センター 4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来	72時間 (8日間)		
浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」	9時間 (1日間)	浜田市野原町 859-1	0855-22-1253
うい助産院	9時間 (1日間)	浜田市牛市町 82 2階	050-3631-8330

- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

	1日目	2日目	3～4日目	6日目	7～9日目	10日目
9:00～16:00	AM 病棟オリエンテーション	浜田医療センター4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来 うい助産院 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」				
16:00～ 16:45	実践活動外学習時間（学内）					
カンファレンス等			カンファレンス	カンファレンス 中間評価	カンファレンス	振り返りの会

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる	1) 妊娠期における対象の理解 (1) 妊娠による母体の変化 生殖器における変化、初産婦・経産婦の区別、妊娠による全体的変化(体重、皮膚、代謝、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌系) (2) 妊婦一般健康診査による母体の生理的变化の把握 妊婦健康診査の目的・方法・内容、受診の回数と間隔、妊婦健康診査受診

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>券の利用（公費負担）、血液抗体検査、血液一般、尿検査（蛋白・糖）</p> <p>(3) 正常からの逸脱または逸脱の可能性 妊娠の定義、妊娠週数の確認、予定日の算出</p> <p>(4) 妊娠経過に影響を及ぼす因子 家族背景、労働環境、日常生活</p> <p>(5) 母体の変化に応じたセルフケアの現状 不快症状（マイトラブル）への対処、日常生活（食生活、嗜好品、排泄、清潔、運動姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレスコピソク）</p> <p>(6) 妊娠週数に応じた胎児及び付属物の状態 胎盤の形成と位置、羊水量、胎児の発育、胎動</p> <p>(7) 妊婦の心理・精神状態 身体的・社会的変化に伴う心理、妊娠経過に伴う不安や葛藤</p> <p>(8) 妊婦の心理・精神状態に影響を及ぼす因子 妊娠の受容、家族の反応</p> <p>2) 妊娠期における対象への看護実践</p> <p>(1) 妊婦の健康診査の見学・介助 体重測定、血圧測定、子宮底長・腹囲測定、レボルト触診法（第1段法・第2段法）、ノストレスト、超音波断層法、内診介助（安全安楽を考えた介助、羞恥心への配慮、内診台の操作、昇降の介助、必要物品と清潔操作）</p> <p>(2) 妊婦の心理的な援助 プライバシーへの配慮</p> <p>(3) 早期に受診する必要がある症状</p> <ol style="list-style-type: none"> ①妊娠悪阻 ②流・早産 ③妊娠糖尿病 ④妊娠高血圧症 ⑤常位胎盤早期剥離 ⑥前期破水 <p>(4) 入院が必要な妊婦に対する援助 家族の再調整、出産・育児の準備、日常生活への援助、症状に伴う治療・援助</p> <p>3) 分娩期における対象の理解</p> <p>(1) 分娩の要素と各期の経過 分娩の3要素、分娩の経過</p> <p>(2) 分娩第1～3期の正常な経過 陣痛（発作・間歇）、産痛部位、破水、血性分泌物、子宮口の開大度、排臨・発露、胎児娩出、胎盤娩出様式、分娩時出血量、分娩所要時間</p> <p>(3) 分娩進行に影響を及ぼす母体・胎児因子 既往歴、妊娠経過</p> <p>(4) 分娩第4期の正常な経過 分娩後30分、1時間、2時間の子宮収縮の状態と悪露の性状・量、縫合部痛、後陣痛</p> <p>(5) 胎児及び付属物の状態 連続的胎児心拍数モニタリング（CTG）、胎盤の観察と計測</p> <p>(6) 胎児の健康状態に影響を及ぼす母体の健康状態 薬剤・放射線、喫煙、飲酒、既往症の有無、多胎、母体感染・合併症の有無</p> <p>4) 分娩期における対象への看護実践</p> <p>(1) 分娩第1～3期の援助 産婦の基本的ニーズへの援助（水分・栄養補給、清潔、更衣、排泄、睡眠・休息）</p> <p>(2) 産婦の心理的援助 分娩進行に伴う産婦の心理的变化</p> <p>(3) 陣痛（産痛）緩和の援助 分娩を促進させる援助、産痛緩和</p> <p>(4) 子宮内感染防止の援助 スタンダードプリコーション、清潔の保持</p> <p>(5) 家族への援助 家族の分娩に対する思い、産婦に付き添う家族への支援</p> <p>(6) 分娩直後の産婦の援助 早期母子接触</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる</p> <p>3. 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる</p>	<p>(7) 緊急事態の対処 産科出血、胎児仮死</p> <p>5) 産褥期における対象の理解</p> <p>(1) 生理的变化に影響する因子 年齢、既往歴、妊娠・分娩歴、日常生活動作、授乳の有無</p> <p>(2) 乳汁分泌経過 乳房の変化、乳汁の性状と分泌のしくみ</p> <p>(3) 復古現象の経過 子宮復古と悪露、全身の変化、分娩による損傷</p> <p>(4) 復古現象に影響を与える因子 既往歴、妊娠経過、分娩経過、不快症状（後陣痛、縫合部痛、排尿障害、便秘、脱肛痛）</p> <p>(5) 褥婦の心理状態 分娩に対する思い、新生児に対する思い、母親への適応過程（ルビソ、マニエール、産後うつ</p> <p>(6) 褥婦の過程・社会環境から退院後の生活の把握 家族構成、家族間の役割調整、生活環境、夫・家族の面会状況、ソーシャルサポート、職場復帰、父親の心理的变化、きょうだいの心理的变化</p> <p>6) 産褥期における対象への看護実践</p> <p>(1) 乳汁分泌促進の援助と指導 直接授乳の介助、乳頭・乳房マッサージなど</p> <p>(2) 乳房・乳頭トラブルの援助 乳頭・乳房マッサージ、罨法、創処置、搾乳 など</p> <p>(3) 復古現象を促す援助 日常生活援助と保健指導（栄養、休息・睡眠、活動、清潔、排泄）、産褥体操</p> <p>(4) 産褥期に起こしやすい感染症の予防への援助 悪露交換・排尿後消毒</p> <p>1) 新生児期における対象の理解</p> <p>(1) 出生直後の児の生理的变化 出生直後の評価（アプガースコア）、成熟度の評価、全身の観察（身体各部の計測、奇形の有無）、応形機能、産瘤・頭血腫</p> <p>(2) 新生児の胎外生活適応過程 体温・呼吸・循環、生理的体重減少、消化・吸収、生理的黄疸、免疫、原始反射、排尿・排便</p> <p>(3) 新生児の栄養状態 栄養方法（母乳・人工乳）、授乳方法（直接授乳、搾乳、哺乳瓶授乳）、授乳量</p> <p>(4) 新生児の胎外生活適応過程を阻害する因子 母体因子、妊娠中の因子、分娩中の因子</p> <p>(5) 新生児に起こりやすい感染症の徴候 敗血症、髄膜炎、臍感染症、新生児結膜炎</p> <p>2) 新生児期における対象への看護実践</p> <p>(1) 出生直後の新生児の看護の見学 アプガースコア、臍帯の処置、低体温の予防、点眼、識別票（ネームバンド）の装着、全身の観察（身体各部の計測、成熟度、奇形の有無）</p> <p>(2) 出生直後の新生児の受け入れ準備 保育環境の準備、産婦受け持ち助産師と新生児室看護師との連携</p> <p>(3) 新生児の胎外生活適応の援助 育児技術（抱き方、寝かせ方、調乳、瓶哺乳・排気、衣服の着脱、沐浴・清拭、臍処置、おむつ交換、環境調整</p> <p>(4) 新生児の診察と検査 経皮的黄疸測定、血清ビリルビン検査、先天性代謝異常検査（ガスリー法）、新生児聴カスクリーニング検査（ABR）、K₂シロップの投与</p> <p>1) 妊娠・分娩・産褥による社会的変化 妊婦と家族（夫婦、きょうだい、祖父母）、職場・地域社会の環境</p> <p>2) 母親役割獲得及び家族との役割調整 母親学級（集団指導）、助産師外来（個別指導）役割モデルの探索、母親の役割獲得過程、出産・育児に対する期待・希望・不安、育児技術獲得への援助と指導（おむつ交換、更衣、授乳指導、沐浴指導）</p> <p>3) 退院後の母児への継続した支援 ・退院指導 ・褥婦の不安アセスメント（助産師と保健師の連携）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>4. 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳、神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳外来 ・産後2週間健診 ・産後1か月健診 ・周産期カンファレンス（小児科・産科医師、助産師、外来看護師の連携） ・妊婦保健指導外来（医師から助産師に依頼） <p>4) 社会資源の活用や諸制度の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の届出・出生通知書 ・母子健康手帳の交付・活用 ・妊婦健康診査 ・訪問指導 ・市町村の保健指導（母親学級、両親学級） ・乳幼児健診 ・こんにちは赤ちゃん事業 ・特定妊婦・養育支援訪問事業 ・子育て支援サービス ・産後ケア事業 ・低出生体重児の届出 ・未熟児養育医療 ・分娩費（産科医療補償制度・出産育児一時金）、出産手当金 ・出生届（戸籍法） ・死産届（死産の届出に関する規定） ・産前・産後の休暇（労働基準法） ・育児休業（育児休業法） <p>1) 各期の看護実践を通して、自己の母性観・父性観を深める</p> <p>(1) 妊娠期の看護実践</p> <p>(2) 分娩期の看護実践</p> <p>(3) 新生児の看護実践</p> <p>(4) 産褥期の看護実践</p> <p>(5) 母児の関係確立、家族役割適応の看護実践 母親の声のかけ方、新生児へのふれ方、母親の表情、新生児の表情、ホウ乳びんの愛着行動（アタッチメント）、クウスとケルの母子相互作用、ミルクの基本的信頼の獲得、ルビンの母親役割獲得過程（母親になること）</p> <p>上記（1）～（5）を通して深める</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p> <p>(1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ）</p> <p>(2) アクティブなコミュニケーションがとれる</p> <p>(3) 得た情報を交換し対応を考える</p> <p>5) 安全管理への配慮</p> <p>(1) 感染対策の徹底</p> <p>(2) 医療事故防止のための意見交換</p> <p>(3) 医療事故防止のための共有化</p> <p>(4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none">(5) 個人情報管理（記録物の管理を含む）6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成<ul style="list-style-type: none">(1) 自己の傾向の振り返り（分析）(2) 自己の課題の明確化(3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

精神看護学実習の考え方

精神看護学実習では、精神に障害のある対象の特徴を理解する。そして、さまざまな制限や症状・障害で日常生活技能が低下している対象に対し、精神の健康障害のレベルに応じた自立に向けた看護を学ぶ。さらに社会復帰を目指した多職種チームの支援について理解する。精神看護は対人関係を基盤とし、看護が行われる。そのため、プロセスレコードにより自己を洞察することで、他者を理解することを学ぶ。対象との関わりを通して、精神に障害がある対象に対する人権擁護や倫理について学ぶ。

科目名	単位	時間	目的
精神看護学実習	2	90	精神に障害のある対象を理解し、看護の実践を通して他者を尊重する姿勢を身につける

精神看護学実習

1) 実習目標

- (1) 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける
- (2) 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リハビリの観点から踏まえながら必要な援助を実践する
- (3) 患者－看護者関係の発展過程を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する
- (4) 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 社会医療法人清和会 西川病院
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	76	13:00～16:00(4時間)	初日
		9:00～16:00(8時間/日)	2日目以降
実践活動外 学習時間	14	9:00～9:45(1時間)	実習オリエンテーション
		9:45～12:00(3時間)	模擬プロセスレコードカンファレンス
		16:00～16:45(1時間/日)	学生控室にて文献検索・技術演習・カンファレンス

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患の特徴（時期や段階、生活への影響）を述べる 病因・発症からの経過・発達課題の獲得 2) 治療やその影響を述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 薬物療法（作用・副作用） (2) 精神療法（個人療法・集団療法・家族療法） (3) リハビリテーション 3) 疾患・治療による影響だけでなく、生活背景やそれまで培われた価値観、他者との関係性などをふまえて、患者の置かれている状況の気づきを述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 入院歴・家族関係・価値観・他者との関係 (2) 一日の生活行動 (3) 長期入院の実際 退院への意欲の希薄・家族の受け入れが消極的・地域の社会資源が不十分・地域社会の理解不足

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リカバリーの観点を踏まえながら必要な援助を実践する</p>	<p>1) 患者のセルフケア能力を評価する</p> <p>(1) セルフケア評価 全介助・部分介助・声かけ見守り・教育指導支援・自立</p> <p>(2) 自己管理能力</p> <p>(3) 普遍的セルフケア要件 十分な空気・水分・食物の摂取 排泄過程と排泄物に関するケア 活動と休息のバランスの維持 孤独と人との付き合いのバランスの維持 個人衛生の維持 生命・機能・健康に関する危険の予知</p> <p>2) 患者の認識や持っている力を述べる 意識と認知機能・感情・学習と行動・知能・レジリエンス・ストレングス・リカバリー</p> <p>3) 患者の状態に合わせて、必要な日常生活援助を実践する</p> <p>(1) 日常生活における身体ケア (2) 睡眠の援助</p>
<p>3. 患者－看護師関係を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する</p>	<p>1) 自己の認識と他者の認識の相違点を捉え、自己の傾向を認める 自らの偏見とおそれ・コミュニケーションの癖・認知のゆがみ</p> <p>2) 患者・看護師関係における感情体験を経験しながら、患者にとって効果的な関わりを看護師とともに考え実践する</p> <p>(1) 自己一致・応答性 (2) 主体性と自立性の尊重：患者のペースを守る・守秘義務・パーソナルスペース (3) 共感・そばにいたいこと・現実検討（ともに行動し確認する）・言語的・非言語的コミュニケーションの活用</p>
<p>4. 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る</p>	<p>1) 地域の環境整備（社会生活支援施設）の実際について述べる</p> <p>(1) 相談支援（一般・特定）・地域の相談窓口 (2) 医療にかかわるサービス：自立支援医療費・精神科訪問看護・精神科デイホスピタル・ACT（包括型地域生活支援プログラム） (3) 生活を支えるサービス：日中の活動の支援（自立訓練・就労移行支援・就労継続支援）・住まいの場</p> <p>2) 地域生活支援施設および病院での多職種連携における看護師の役割について述べる</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対する主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりなことや確信がもてないことなどについて相談する</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整(リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動(リスクを考えた行動) (5) 個人情報管理(記録物の管理を含む) <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り(分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)ための行動)